表紙, 目次, 雑纂, 抄録, 雑報, 通信, 漫録

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38427

明治四十二年十一月二十九日發行

十全會雜誌

第五拾五號

金澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌第五十五號目次

○原著及實驗

Ueber den Glykogengehalt der Frosche
über die quantitative Zusammensetzung der Froschleber.

加藤　寛

○雜　纂

○學位論文審査ノ要旨。皮下脂肪組織ノ萎縮、硬結性紅斑、汗腺囊腫ノ實驗的形成、沃度加里ニ因ル結節性紅斑

志立　富松

○抄　錄

○バタヴィア附近「ベリベリ」調査復命書。柴山五郎、宮本叔、都築甚之助○脚氣病原体ノ發見。田中達三郎○所謂片山病ノ研究。藤浪鑑、中村八太郎○日本住血吸虫ノ發育。桂田富士郎、長谷川恒治○結核菌ノ新檢査法。ウーレンフート

○學　會

○金澤醫學會第二、第三例會○大日本私立衛生會石川縣支會定期總會○金澤市醫師會○第十一回萬國眼科學會。田上清貞○萬國癌腫研究會○各種萬國會議

○校內雜報

皇太子殿下行啓○贈位○金澤醫學專門學校醫學士ノ稱號○級長幹生規定○生徒心得細則○校籏制定及校籏取扱規定○新入學生姓名○本學年度各學年級長及幹生○十全會各部長及委員○學校名ヲ冠セル學士稱號檢定細則○同檢定出願者心得

○會　報

○弓術部春季大會○三得會茶話會○神戸同窓會

○人　事

○櫻井教授○野口詮太郎氏○鈴木寛之助氏○中野才幸氏○小野醇吉氏○梶川靜夫氏○月岡勝治氏○中村欣一郎氏○福田美明氏○加藤寛氏

○通　信

○河合鷹氏ノ登山記○石坂直次郎氏通信二○小林唯四郎氏通信○久津木勝作氏通信○丹羽直氏轉任○横山鼎氏通信○名取博三氏通信○梶川甚一氏通信○白井濟氏通信○河本博士獨逸通信

○醫校雜報

○本年各醫學校卒業生○各醫專校入學志願數ト収容數○本年藥學科卒業並入學者○京都府立醫專校卒業式○秋田縣ト醫專問題○三私立醫學校ノ將來○將來ノ開業試驗受檢生○富山藥學專門學校○齒科醫專校卒業者ノ稱號應用○千葉病院留學生規定○千葉病院貧窮患者救濟會○千葉醫專校ト狂犬病豫防接種○醫專校出身軍醫ノ優遇法○台灣中央試驗所○陸軍依托生數○少軍醫及同候補生募集○文部留學生選定

○內地雜報

學位請求論文○新醫學博士閲歷。富田博士、志立博士、井上博士、尾見博士、今博士○脚氣病調査會報告會○外醫ノ恙虫病調査○新潟縣ノ恙虫患者○恙病源調査所閉鎖○顯微鏡科講習○傳染病流行○仝○赤十字本社新築○大坂火災負傷救護○赤十字病院ノ寄附增築○同社ノ戰后事業○赤十字救護所○江州大震負傷死亡者○富山赤十字支部病院○醫師控訴サル○臺灣醫士○外人ノ細菌學修習○獨逸留學

○海外雜報

○萊府大學創立五百年祭○英國獨逸日本ノ醫士數○米國軍醫○印度ノ「ペスト」患者○露國ノ「コレラ」○紐育ノ婦人死亡率○歐洲市ノ嬰兒死亡數○乳兒病院新設○英國小兒保護法○韓國ノ女子種痘技術員○北里博士一行着獨○米國軍醫會列席者○ライデン博士負傷○ストリュンペル氏轉任○ペッテンコーフエル氏銅像○ミクリッツ氏銅像○シュワン氏銅像○アルガイルロバートソン氏逝去○ラクエル氏逝去○ランケ氏逝去○エンゲルマン氏逝去

○漫　錄

○北米合衆國に於ける醫育

久保德太郎

○會　告

○寄贈書籍

○附　錄

○恩師小川勝陳先生遺簡

八田智証

雜纂

學位論文審査ノ要旨

●皮下脂肪組織ノ萎縮ニ就テ（獨文）

醫學博士　志立富松

本論ハ、總計七十九人ノ屍體及ビ類頭ノ動物ニ就テ、皮下脂肪組織ノ萎縮ヲ研究セルモノナリ

著者ハ、先ヅ脂肪組織ノ生理的及ビ萎縮狀態ニ就テ、其所見ヲ六節ニ分チテ說明セリ

第一　脂肪細胞內ニ於ケル「ゲルラハ」氏ノ所謂染色性顆類ハ細胞ニ非ラズシテ原形質ノ特異ニ染色スル部分ニ他ナラズ、該顆粒ハ老年者及ビ一般ニ萎縮脂肪組織ニ於テ多ク存シ、動物及ビ十五歲以下ノ小兒ニハ一回モ發見セザリキ

第二　著者ハ脂肪細胞ノ漿液性浸潤ナル一種ノ狀態ヲ證明セリ、是ハ附近血管ノ充漲ヨリ視ルモ漿液ノ滲漏ニ外ナラスシテ、其漿液萎縮ト異ナル點ハ主トシテ染色關係ニ在リ

第三　所謂漿液性萎縮ニ於ケル漿液ノ性質ハ審カナラズ

第四　脂肪細胞ノ萎縮ハ、先ヅ脂肪小葉ノ周圍ニ始マリ、次第ニ中央ニ進行ス、又深層ノ皮下脂肪組織ハ淺層ノモノヨリ萎縮ニ陷ルコト早シ

第五　漿液性萎縮ハ單純萎縮又ハ增殖性萎縮ニ移行シ得ベシ、即チ該萎縮ハ一ノ移行時期ニ他ナラズ

增殖萎縮ニ於テ、著者ハ核ノ多數ニ分裂スル現象ヲ目擊シテ之ヲ直接分裂ニ歸シタリ

第六　著者ハ、所謂炎症性萎縮ト純粹萎縮トノ關係ヲ學バンガ爲ニ、三頭ノ家兎ノ皮下ニ「ルゴール」氏液ヲ注射シテ急性炎症狀ノ他ニ漿液乃至增殖性萎縮ノ發現ヲ確認セリ

動物試驗

著者ハ、六頭ノ家兎、四頭ノ天竺鼠ニ飢餓試驗ヲ施シ以テ皮下脂肪萎縮ノ狀態ヲ觀察セリ、其所見ハ概子「フレンミング」氏ト一致シ急性飢餓ニ於テハ速ニ漿液性及ビ增殖性萎縮ヲ現出シ、且ツ老人ハ幼者ヨリ萎縮ニ陷ルコト遙ニ遲シ

慢性飢餓ハ增殖性萎縮ヲ呈スルコト、急性ノ場合ニ比シ徐々ニシテ且ツ輕度ナリ

著者ハ、又分娩後間モ無キ天竺鼠ニ於テモ尙ホ增殖性萎縮ノ存在ヲ確認シ「フレンミング」氏ノ誤謬ヲ指摘セリ、一歲以下ノ幼兒ニ於ケル所見モ亦之ニ一致セリ

人體ニ於ケル所見

著者ハ、七十九人ノ屍體ニ就テ各々胸腹二箇所ノ皮下脂肪組織ヲ切除シテ檢査セシニ、孰レモ多少ノ萎縮狀態ヲ認メタリ、依テ全材料ヲ肉眼的ニ(甲)高度ノ羸瘦、(乙)中度ノ羸瘦、(丙)輕度ノ羸瘦乃至榮養佳良ノ三種ニ區別セシニ、甲ニ在リテハ各種ノ萎縮狀態ヲ認メ、就中增殖性萎縮最モ著明ナリ、乙ニ在リテハ漿液性萎縮ハ每常存スルモ增殖性ノモノハ十四回中四回ニ過キズ、丙ニ至リテハ所見甚ダ複雜ニシテ要領ヲ得ルニ難カリキ、但シ漿液性萎縮ハ常ニ存スレトモ增殖性ノモノハ四十五回中十二回缺如シタリ

次ニ、著者ハ疾病ヲ急性、亞急性及ビ慢性ニ區別シ、又種類ニヨリテ結核及ビ癌、循環器病及ビ急性熱病ニ分類シ、並ニ死者ノ年齡別ヲナシテ其所

見ヲ詳叙シタル後 人體病理學上脂肪組織ノ萎縮ヲ左ノ三種ニ區別スベキコトヲ述ベタリ

第一度　多少ノ單純性乃至漿液性萎縮ヲ存スルモノ、但シ增殖性萎縮ハ缺如シ或ハ輕微ナリ

第二度　脂肪細胞著シク細小トナリ、漿液性萎縮アリ及ビ小葉ノ周圍ヨリ始マリ中心部ニ向テ進行スル增殖性萎縮ヲ多少存スルモノ

第三度　脂肪小葉ハ紡錘索狀又ハ線狀ヲナシ、細胞核增殖シテ、終ニハ眞正ノ結締織ト彼此甄別シ難キニ至ルモノ

●硬結性紅斑ニ就テ（獨文）

醫學博士　志立富松

硬結性紅斑ナルモノハ果シテ結核性ノモノナリヤ否ヤノ問題ヲ解決スル爲メ著者ハ自家實驗ノ十六例ト諸家ノ報告百三十六例トヲ合セテ精密ナル臨床的、組織的乃至細菌的研究ヲ遂ゲ、之ヲ左ノ數項ニ分チテ審評ヲ下セリ

一、自家ノ實驗例附組織的所見

二、臨床上及ビ統計上ノ意見

三、統計上本症ト結核トノ關係

四、組織學上ノ意見

五、病形ノ劃定及ビ統一

六、療法ニ就テ

而テ本病ト結核トノ關係ニ就テハ、ヒリツプソン、マクレチド及ビオルムスピー三氏ノ實驗ニ加ヘテ、著者モ亦自家ノ十六例中一回結核菌ヲ證明シ得又「ツベルクリン」ノ局處反應ヲ認ムルコト三回動物接種試驗ノ陽性成績ヲ得タルコト三回ニ及ビ以テ從來行ハル、結核菌說ニ好材料ヲ供給セリ、但シ本症ノ組織ニ就テハ純然タル結核組織ヲ有スルモノト、單純ノ炎症若クハ脂肪組織ノ增殖性萎縮ヲ呈スルモノアリテ、單ニ組織的所見ノミニヨリテ本問題ヲ解決スルノ謂レナキヲ言ヘリ

著者ハ、又血管性炎症ノ必シモ靜脈ニノミ限ラスシテ、動脈ヲ圍繞シテ發生スルモノアルコトヲ證明シテ ヒリツプソン氏ノ說ヲ駁シ、又脂肪組織ノ增殖性萎縮ニ於テ結核類似ノ形像ヲ存セルコト等ヲ斷言セリ

其他臨床的ニ軟化或ハ潰瘍ノ有無、口粘膜ノ併發症發生ノ部位、再發ノ時季、類症ノ鑑別等ニ就テ本問題ニ補補スル所亦頗ル多シ

●汗腺囊腫（「ヒドロチストーム」）ノ實驗的形成（獨文）

醫學博士　志立富松

著者ハ汗腺囊腫ヲ人工的ニ發生セシメテ其病理ヲ解決セント欲シ、猫ノ足蹠ノ汗腺ニ富メルヲ利用シ、合計四頭ノ猫ニ、左ノ手術ヲ施セリ

足蹠ノ皮膚ヲ表面ト平行ニ刀刃ヲ進メテ眞皮ノ淺層ニ瓣狀創ヲ作リタル後、再ヒ舊ノ如クニ之ヲ縫合セリ、汗腺排泄管ハ之カ爲ニ其末梢ニ於テ中斷セラレテ縫合ノ後モ中心端ト末梢端トハ必然離斷スヘク、隨テ分泌液ノ鬱滯ヲ來シテ中心端ニ囊腫ヲ形成スヘシトハ、著者ノ考案ニシテ、尙ホ發汗ヲ催進スルノ目的ヲ以テ、每日一%「ピロカルピン」溶液五乃至八滴ヲ猫ニ與ヘ、三週ヨリ五週乃至九週ノ間ニ施行セル足蹠ヲ切除シ「ツエルロイヂン」ニテ封固シ連續切片ヲ作レリ

組織的所見　蹠皮ノ眞皮ノ上部又ハ中部ハ切創ニ相當シテ一ノ綿狀ノ肉芽組織アリ、其下層ニ數多ノ汗腺排泄管ノ囊腫狀ニ擴大セルヲ認ム、其他囊腫ヨリ末梢部及中心部ニ橫ハレル排泄管乃至腺體自已ニハ些ノ變化ナシ

右ノ所見ニヨリ、著者ハ左ノ結論ヲ下セリ

一、汗腺囊腫ハ腺體即チ分泌部ノ擴張ニ他ナラスト云ヘルアタム氏ノ說ハ一ノ憶斷ニ過キス

二　著者ノ猫ニ人工的ニ形成セシ囊腫ハ全然人間ノ其レト一致ス

三　汗腺囊腫ノ形成ニハ一面ニ於テ排泄管ノ通路杜塞ト共ニ、他面ニ於テ精神的或ハ遺傳的多汗症其他都テ發汗ヲ催進スヘキ條件ヲ必要トス

著者ハ、尚二人ノ汗腺囊腫ヲ檢査セシニ、囊腫ヨリ直接ニ表皮面ニ連續セル排泄管ヲ發見シ得ザリシコトハヤークシュ氏及レベート氏トノ所見ト一致スルニヨリ之ヲ以テ萎縮ノ結果ニ歸セリ

●沃度加里ニ因ル結節性紅斑ニ就テ（獨文）

醫學博士　志立富松

沃度疹ノ種類多シト雖モ、結節性紅斑ニ關スル業績ハ太ダ少ク、特ニ其組織的所見ノ記載ニ至ツテハ絶テ無シト謂フモ可ナリ

著者ハ五例ノ臨床的症候ヲ詳叙シタル後、其一例ニ就テ組織的檢査ヲ行ヒタリ、其所見左ノ如シ

本症ノ組織的變化ハ特發性結節紅斑ニ同シク主トシテ皮下脂肪組織ニ存スルモノニシテ、靜脈殊ニ最小靜脈毛細血管ニ於テ先ツ炎症ヲ呈シ、之ヲ中心トシテ其周圍ニ單核及ヒ多核性白血球ノ浸潤竝ニ脂肪組織ノ炎症性增殖性萎縮ヲ認メタリ

是ニ因リテ、著者ハ本症ヲ以テ純然タル血管性炎症ト看做シ、之ヲ他ノ血管性炎症ニ原因スル諸病ト比較シテ、座瘡性沃度疹ハ丘疹性壞疽性結核疹、座瘡狀結核疹若クハ膿病性苦癬ニ該當スルモ、結節性紅斑狀沃度疹ハバザン氏硬結性紅斑ニ一致スルモノナリト說キ、且ツ本症ハ化膿等ノ變化ヲ來スコトナクシテ直ニ吸收セラルヽニヨリ、所謂結節狀沃度疹ト容易ニ區分シ得ヘシト言明セリ

（以下次號）

孤錄

●バタヴィア附近「ベリベリー」病調査復命書

醫學博士　柴山五郎作
醫學博士　宮本叔
都築甚之助

著者三氏は臨時脚氣病調査會より「ベリベリー」病調査の爲め蘭領印度バタヴィア Batavia 附近に差遣を命ぜられ明治四十一年九月二日出發滯在約六十日、其間に調査したる事項を大約（一）旅行、研究の經過（二）疫學的觀察（三）原因的研究（四）臨牀的及び解剖的觀察（五）概要の五章に分ち立論せり今其概要を記せば左の如し

一、瓜哇諸島に於ける「ベリベリー」流行の跡を觀るに近年に至り漸々患者數及死亡數を減ぜり然れとも其由て來る所以を知らず、唯バンカ島錫鑛山に勞役する支那人間には猛烈たる流行狀態をあせり又バンカ島に於ては從來會て「ベリベリー」を見ざりしマレー土人部落内及炭燒山に小流行を起し來れり。

一、バンカ島よりアイテンゾール「ベリベリー」病院に輸送し來れる患者バスカ島プリザユ病院及土人部落に於て臨牀的調査を行ひしに所謂「ベリベリー」なるものは我脚氣と全然同一なり唯「マラリア」其他の熱病の後ち症狀顯著とあるが如き場合多しと雖此等熱病は「ベリベリー」とは直接

の關係を有せざるものなり又其死亡率の如きも大體に於て我が脚氣と一致せり。

一、新嘉坡及香港に於ける臨牀的調査によれば所謂「ベリベリー」なるものは等しく我脚氣と全然同一なり而して此両地の「ベリベリー」死亡率の甚だ大なるは重症患者のみ病院に收容さるゝ結果に過ぎず。

一、「カチヤンイヂオ」は能く「ベリベリー」を豫防し且つ治療し得へしとの説及玄米は「ベリベリー」を豫防し且つ治療し得へしとの説は尚ほ反覆實驗せざるべからず其は「プリンヂユ各鑛山に於て「カチンイヂオ」を規律的に給與せるにも拘らず又玄米殊に新鮮なる玄米を給與せるに拘らず多數の「ベリベリー」患者を發生したればなり即ちプリンチユに於ける本年の流行は確實に「カチヤンイヂオ」及玄米の何等豫防的効果を有せざることを證明せり。

一、熟米は「ベリベリー」を豫防し且治療し得べしとの新嘉坡に於ける實驗は尚ほ多く觀察せられざるべからず何となれば一方には曩にマンソン、トラーバー、クニールス、ライト氏等の「ベリベリー」と米とは無關係なりとの實驗觀察あり他方には同地方に於ける「ベリベリー」は近年漸く病勢減弱し來れるを以て此不明なる理由に因する病勢減弱を熟米の効に歸するの愆に陷ることなきや未だ知るへからざればなり。

一、「ベリベリー」患者の血液に就て顯微鏡的檢査を行ひしが「マラリア、プラスモヂウム」を約二十三%に檢出し得たのみ又「ベリベリー」患者或は死體の血液を「オラン、ウタン」に注射したりしも陰性に終れり而して「コムプレメント」結合試驗も遂に一定の成蹟を齊さず。

一、身體を衰弱せしむへき諸種の事情例へは食物の不足、過度の勞働其他諸種の疾患は「ベリベリー」の素因とあることを疑ふしと雖も「ベリベリー」の眞因にあらず米、乾魚等の變化少なき食物を持續して攝取するが如きも亦素因とあるべしと雖「ベリベリー」の眞因にあらず次に空氣の濕潤、暑氣等も「ベリベリー」發生の素因をおすべしと雖其眞因にあらず之を要するに「ベリベリー」には或物(エトワス)が上陳の素因存する場合に暴威を逞ふすべし而して若し其「エトワス」にして存せずんは縱令素因は存するも「ベリベリー」は發生せざるものゝ如し。(陸軍々醫團雜誌第三號附錄)

●脚氣病原体ノ發見

田中達三郎

田中達三郎氏は本年一月より脚氣病原の研究に從事し每常患者の血液中に一定の螺旋体を發見しギムザ氏液にて染色しスピロヘーテハルクタンロン法によりスピローヘーテパリダより細長、蛇伏然も正規の螺旋狀を呈し運動は波狀的運動あり、大さは其發育時期に應じて長さ及び太さに甚しき差違あり小は約十五ミクローン以内、大なるは二十三ミクローンの長徑を有し大約赤血球の二倍以上、白血球と略ぼ同大或は超過す、繁殖は主として横分裂なるが如しと最後に結論して

(1)脚氣の血液中に必ず發見する「スピロヘーテ」は病原体ならん。

(2)鹽毒「スピロヘーテ」に比するに細く且つ長く凡そ赤血球の二倍餘。

(3)胎兒は母体より哺乳兒は母乳より傳染す。

(4)母乳には「スピロヘーテ」なく只「スポロツオイト」を含有す。

(5)脚氣は固有菌の中毒なり。

(6)脚氣「スピロヘーテ」の發育には春季最も適す。

(7)療法には「アトキシール」効あるが如し。

●所謂片山病の研究

醫學博士 藤浪鑑
醫學士 中村八太郎

越後に於ける彼の蓋蟲病と相併むで、斯學者の囑目せる備後の片山病につきては、多年その研究に熱衷せる藤浪博士が、今年も亦た既に中村醫學士を隨へて、同地に趣かれたり、該病は元と福山町を距る一里許ある深安郡南村字片山と呼べる一小部落に安政の頃始めてこれを發見し、漸次周圍に傳播し、今や同郡千田、中津原、森脇、岩成、道の上、湯田、川北の八ケ村及び隣郡ある沼隈郡鄉分村の一部並に蘆品郡宜山村の一部にも亦たその發生を見るに至り、去る明治十五六年の交には廣島縣廳にて醫師を調査委員に擧げてこれが研究に從事せしめしことあり、爾後ベルツ博士を首め、今の中濱博士、山形博士、醫學士清野勇氏、同岡文造氏、同澁谷周平氏等も亦たこの問題に指を染めしことあり、降て同三十五年河西博士によりて始めて一種の寄生蟲病なることを闡明せられ、翌三十六年には藤浪博士によりて其母蟲すらも明らかにせられたる也、爾來藤浪博士は年として足跡を同地に印せざるおく、その熱心の態は深く同地方の人々を動かし遂には縣費村費を補助せしむる迄に至れるものにして今年は特に試驗動物として犢牛、犬、兎等の多數を齎らし、專ら蟲卵の侵入經路につきて研究せられ居り、博士は居を福山町に構へ、日々假設の研究所に往復せられたりといふ、猶ほ今年東京よりは宮島博士又は小泉理學士、京都よりは松浦博士、渡邊、吉本の二學士（小兒科）同地に趣き、各專門の見地よりこれか研究を助けらるゝに至るやも知れずといへり

著者は地方病所謂片山病病源侵入門戸を確知し、且つ其が豫防法を研究せむが爲め備後、深安郡中津原村に赴き、五十有餘日間無病地より來りし健康なる犢二十頭を甲乙丙丁の四組に分ち、甲組の犢には一切煮沸したる飯食物を與へ口袋にて口を覆ひ其一部を河水中に他の一部を田又は小溝中に入れ、乙組の犢には脚裏を用ゐて汚水泥土を去け其一部を河水の附近に出し他の殘部を甲組の第二と相伴はしめたり則乙の組は口袋を用ゐず其部の水、草を飲食せしむ、丙組は甲組と同樣にして牛舍中に繫留し、丁組は自由行動を取らしめたり其后各組の犢に就き剖見し、甲組にては總て地方病病源蟲（日本住血吸蟲）寄生せり、乙組にては一隻だも右病原虫を見ざりき、丙組の牛舍中のものには病原虫寄生無し、丁組には同虫寄生を認めたり、糞便にも卵子ありき、其他犬、兎等に就きての所見成蹟を擧げ病源侵入の門戸が脚部の外表ふりし事明にして殊に清水中よりも汚水鬱滯の所程危險なるものとす而して飯食物を介して病源虫寄生を促せし事實を示さず然れども絶對的に此徑路を否認すべきやは尙ほ確言し得ざるものあり、以上犢並に犬の所見により病源虫が體中に入り成熟する迄の時間は二十三日を以て最短とす尙ほ牛の外貌、糞便の外觀は、必しも直に病源虫寄生の有無を判斷し得ず、假令外觀上罹病の徵見へずとも實際疾病傳播者たる資格を有す故に健康の觀を呈する牛、犬、猫等にしてこの疾病傳播者たるもの少からざるべしと。著者は尙ほ豫防に就き第一、病源の根元を絶ち、第二、病源の生育を妨げ、第三、病源の侵入を防ぐにありとて第一に對しては有卵糞便の消毒を嚴にし罹病し易き家畜は可成飼養せず又病畜を他地方に輸出することを禁ず、第二病源の生育を妨ぐるには土地及水に改善を施し以て卵子の子虫が生活し又發育するに不適當とならしむるを謂ふなり、即ち土地水流を改善し水流を快通せしむべし、第三、病源の侵入を防ぐには人亦その危險に接せざる樣警戒すべし、即ち汚水、泥田等に入るも、直接に身體の外表がこれに觸れざる樣にす可し、万止むを得ず田及び小溝に入る者は、宜しく豫め一定の防備を身上に施すべしその他飯用水使用水も善良ある水を供給し衛生の軌直に從へば期せずして慘忍ある地方病も終に廢滅に至るべしと。（中外醫事、七〇七）

●日本住血吸虫の發育に就ての研究

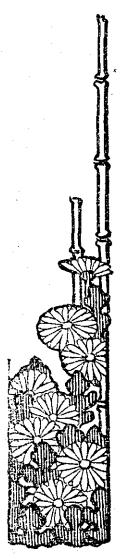
醫學博士　桂田富士郎
長谷川恒治

著者は明治廿七年日本住血吸虫發見當時の立説及び本年四月五日東京醫學會總會上發表の子虫外皮穿通傳染説を證する爲め岡山縣西代地方患者に就き人體的試驗とも云ふべき自然の材料によりて日本住血吸虫の主として皮膚より竄入するものゝ有りとの事實を確め進むで六月十一日より同地に出張し猫及小犬に就き嚴密なる注意の下に三十分ヅヽ三回耕田中に浸漬し約一ケ月后其糞便中より日本住血吸虫の卵を證明し亦剖見により門脉中數多の成虫充塞するを證し依て日本住血吸虫は或狀態に於て吾人溫血動物の皮膚を穿通して其體内に進入し約一箇月以内にして生殖を營爲し得可き程度に發育するものなることは疑ふ可からざる事實とゐれりと、尙ほ同患者及同病動物の糞便中の卵子に就き研究し、攝氏三十度内外の室溫中に靜置する時は、早きは十五分間にして卵殼を破りて子虫は水中に出でゝ、纖毛に依て非常に迅速活潑に運動を爲すことあり、然れども多數は一時間―三時間にして子蟲の殼外活動を見るに更に子蟲が鹽酸、昇汞、石炭酸、クレゾール等に對する抗抵力試驗の結果、子虫は鹽酸に對して非常に鋭敏なることなり、仍て子虫の比較的游離鹽酸に富める胃液に遇ふや直ちに死滅す可きは推測するに難からさる所とす、此一事にても日本住血吸虫の經口的傳染は正道に非ずと斷ずるを得、最后に成蹟を概括し、一、日本住血吸蟲は恐らく水中に活動せる子虫の狀態に於て人體及一定動物の皮膚を穿通して其体内に進入するを以て傳染の正道さし、約一箇月以内に於て生殖を營むことを得るに至るものとす、二、經口的傳染は通常の場合に於て認むるを得ず、三、皮膚より竄入したる子虫は恐らく一定の變化を經て「スホロチステン」を形成せさる可からさるが如し、四、前條に於て認めたる皮膚傳染の豫防法は水中に浸漬する體部即ち下腿以下及手指の皮膚を防護するにあり、其目的には油紙を裏させる脚袢足袋手袋を用ゐ、使用后は是れを干燥し又其脫却後多少濕潤せる手足は一・〇%の鹽酸水若くは昇汞水を於て洗滌するにあり、五、根本的豫防に至ては流行地方の日本住吸血蟲病患者及家畜（就中牛）の糞便は之を燒却するか若くは熨沸したる後にあらざれは肥料と爲さぬにありと　（岡山醫學會雜誌二三五）

●結核菌の新檢査法

ウーレンフート

本年五月廿五日伯林に於て開かれたる第六回結核病學會に於てウーレンフート氏は結核患者喀痰中より結核菌を檢出する一新法に就きて講話したり。仝氏の試驗によれば「アンチフオルミン」（消毒劑として販賣す）は殊に能く粘液、毛、絹、加之甲虫の甲皮をも溶解し多くの細菌は「アンチフオルミン」を混すれば一二分間にして全く滅亡し細菌の作用によりて生せる毒素も此に逢へば其毒性を失ふ。例へば「ヂフテリー」、蛇毒素の如し只結核菌のみは「アンチフオルミン」に侵かされずして一二ケ月間作用せしむるも尙其菌体を保存す。故に「アンチフオルミン」を用て喀痰中の粘液等を溶解し去る時は通常の方法によりては殆ど檢出し難き僅かの結核菌をも檢出することを得べく又今日にては該法に由りて結核患者の喀痰中より直接に結核菌の純培養を企つることを得べし



學會

○金澤醫學會。第二例會　去七月十日本校舊內科教室に於て開會したり當日は大阪より歸省中の前本校教授博士木村孝藏氏も特に出席して演說せられたり當日の演題は如の左し

一卵性双胎の羊水過多症　教授　鬼頭英

右討論及自家實驗例追加　岡田剛吉

黴菌の凝集反應　中村欣一郎

右討論　永井人雄

自家考案の「ヘルニヤ」根治手術方法　木村孝藏

○金澤醫學會。第三例會　同會は去十月十三日午後三時より日本赤十字社石川縣支部樓上に於て開會出席者數約卅名高安會長開會の辭を述べ

第一、歩兵第三十五聯隊に於ける窒扶斯血清豫防接種の成蹟。

陸軍三等軍醫　永井人雄君

先づ多數の血清稀釋度に對する各反應を明細なる表に基きて統計的に論究し次で歩兵第三十五聯隊の豫防接種成蹟に及び同隊は毎年同病の發生連續せしに本年は今日に至るも同病の發生ふきは全く豫防接種の効大なるべしと結論し最后に豫防接種効力期間は數說あるも約半ケ年と見る方可ならむと。

第二、興味ある傳染經路を取りし放線狀菌病の一例　飯森益太郎君

氏は放線狀菌病の案外に多く且つ不思議なる經路を取るの前例を述べ次で今回相遇せし一人の患者に就き其原因は多くの先哲の言へし如く同しく口腔よりなるも一日旅行の途中街上に倒れし麥穗を嚙みしに舌根部に刺入せし如く感ぜしが其后程經て右頸部に數個の腫瘤を生じ爲に來院せり依て波動着明なりしを以て切開せしに一種の顆粒を認め放線狀菌の菌巢と思考し櫻木病院に細菌的研究を依頼せしに確に菌糸等を認めしも培養は成功せざりしと故に同病は確に放線狀菌病にして亦一種興味ある經歷を有せるものなり尙ほ氏は病者の寫眞及顆粒をも供覽せられたり。

田中基保氏（櫻木病院醫員）は飯森氏の依頼により細菌的檢査をなせし概要を述べ「ブイヨン」培養にて放線狀菌を認めざりしも一種の稈菌樣物を認めたりと且つ同氏提供の顆粒は非常に軟弱のものにて嘗て見ざりし顆粒なりしは以后放線狀菌病の經過に就き注意すべきなりと。

飯森氏。元來同病には混合感染多し他に菌類はなかりしや。

田中氏。一種の稈菌外に菌体は見るを得ざりしと。

第三、惡阻に就て　岡田剛吉君

氏は惡阻の原因に就き論じ次で治療方法を述べ最后に婦人科醫として同病唯一の治療法たる人工流產術は果して何れの時機に應用すべきかは大に迷ふ所なれば醫師として大に研究すべき問題に非ずやと。

第四、腸窒扶斯經過中胃出血を伴へる剖見例　陸軍二等軍醫正　原君

氏は嘗て剖見せし窒扶斯患者に比較的新鮮ならざる胃潰瘍を發見したる興味ある一例を詳細に論說せられ生前何等胃症を呈せざりしは大に研究すべき問題に非ずやと結論せられたり。

田中基保氏は同じく櫻木病院に於て窒扶斯の經過中大なる胃出血？を發せし一例を見しと附加せられ原氏の剖見に際し胃潰瘍の有樣等を質問せられたり。

高安會長閉會の辭を述べられて一同に茶菓を頒ち談話懇談の后歸途に付きしは足下暗き頃なりき。

○大日本私立衛生會石川縣支會定期總會　同會は去六月六日縣會議事堂に於て開會せられ本部よりは評議員三宅秀博士臨席し當支部よりは知事村上會頭を始め役員會員等約二百名の出席ありたり仝日午前十時過ぎに開會し支會頭村上知事の式辭朗讀あり次て幹事長石原事務官の前年度成蹟及び決算報告、關以雄氏の本會頭土方伯の祝辭代讀あり次て左の講話ありたり

田舍ノ衛生	醫學博士　三宅秀
毒ノ世ノ中	關以雄
腸寄生蟲ト傳染病豫防法	鹿江佐六
衛生上ヨリ見タル日本ノ劇場	飯森益太郎
女子ノ職業	山田謙次
「トラホーム」豫防法	藤井升義
小學校教員ノ肺結核救助法	米村吉太郎
習慣衛生	村上庄太
酒ノ話	佐々木遠
精神異常者ニ對スル國家政策	松原三郎

○金澤市醫師會　九月二十日午后二時三十分より金澤商業會議所に於て臨時總會を開きたるが出席者九十一名にして紀念會堂建設寄附金の件、醫師風紀矯正の件を報告し、東宮殿下行啓奉迎送に就て會員一般の心得方を協議し終りに今回贈位ありし黑川真安氏を頌表すべく銅像建設の事を諮り、次で役員の選擧を行ひたり。

●第十一回萬國眼科學會の記

獨逸　田上清貞

田上清貞氏は明治三十二年本校醫學部を卒業するや東京醫科大學眼科教室に遊び久しく河本博士に親炙して斯學の蘊奥を極め後ち三河國豐橋病院の眼科部長として其敏腕を振ひ次で富山に歸國して門戸を開くや名聲大に揚がる此に於て年來の壯志勃々禁ずる能はず終に意を決して海を破り馬頭を獨逸に進めてミュンヘンに遊び後ちウュルツブルグに轉じて今は屈折機能學を以て其名世界に響ける若手の大家ヘツス博士の研究室にありて日夜斯學の研究に汲々たり今仝氏が親しく万國眼科學會に臨める記事を得、之を愛誦して讀者と共に仝氏の健康を祝す

（編者識）

夫れ人身器官中最も幽玄微妙の構成を有し、吾人に賞花觀月の眞美を識らしむるもの則ち眼球。直徑僅か八分小圓球。而かも、ヒマラヤの大、ナイルの長流、將又地球の大を寫すも此圓球である、實に此一小球は以て宇宙の大を容れ倭小にして巨大を掌握する任務の偉大!! 其學理や深遠にして日進醫學の覇たるも更に其の蘊奥を究め進歩を圖らんがため全世界の眼科醫か一堂に會し名論卓說を述べ以て學に貢獻するの大會。此れ萬國眼科學會である。頃は日露戰爭の酣なる、千九百四年九月十三日より十八日まで、瑞西國は山水明媚の地ウルチル山の麓フイーヤワルドステツツテルー湖の邊りなるルツエルン市に於て第拾回萬國眼科學會の開設されしが、千九百九年即ち本年四月二日より七日まで、其名高き伊太利子アペル市に於て、第十一回萬國眼科學會が開設された。

ネアペルは人口六十萬の大都にして海に頻し山に蔽はれウエスビヤス火山は眉上に聳立し、カプリー島は雲烟模糊の洋上に浮び風景美にして氣候溫和、史蹟に富み、加ふるに二千年前繁華の夢を結びし震災地「ポンペイ」市

に連なれるを以て其名世に高し。

尙ほ伊國は到る所風光の美なるのみならず、古代の美術に富みて遊覽の地多く、殊にゲヌア市にてはコロンブスの雄圖を想ふべく、羅馬市には古羅馬大帝國時代の光彩ある幾多の史蹟を探りて敗墟の跡を吊ふべく、又フロレンス市にては古代美術の豐富なるを嘆賞すべく、或は進んで詩聖シエクスピヤの人肉質入裁判にて名あるヴエニス市の水の都の奇を見るべく、倦みてはミラン市の三百年間を費して建築せし、全部白大理石の大寺院に冥福を祈るべく、幾多の會員は此の萬國眼科會に誘引されたのである。予獨逸に眼科を以て留學し、これに列席するの好機を得て親しく其の狀況を識りたるを以て、後年我が東帝國にも亦此の壯擧あるべきを想ひ、參考にもがなと筆を走らせぬ。

入會手續、

第十一回萬國眼科學會長、即ちネアペル醫科大學眼科教授アンヂエルッチより、恩師河本博士の列席を申込みしも、目下伯林グレーフエの下に研究せらるゝ水尾源太郎君をして列席せしめられたり宮下左右輔君はフライブルヒ大學アキセンフエルドの下に研究せるためで其の手より申込んだ長野文治君と予とはウユルツブルヒ大學のヘス教授の下に居るので其の手より申込んだ。

會費

は二十五「フラン」我十圓計りを會長宛に送附せば、誰れでも會員たるを得、亦夫人同伴は寧ろ歡待するとの事であつた。

會の印刷物

一、第九回萬國眼科學會意見書とでも名けんか。上下各三百頁の大冊子で、前會に於ける演題を各委員が調査した結果や演說者の原稿を印刷してあつた、英佛獨西伊の五國語の交り書きである。

二、會員章は名刺大にして表面には子アペル全景の小石版繪と、伊國の國旗をあらはしてある、會員の名前、入會番號申込の時日會開時日場所等悉皆伊國語で印刷されてある。又會長の名が自署されてあつた。

又會場に至つて、古代楯形の鑄鐵の會員章を吳れた表てには古代服裝の美人の立像が浮き彫りにされ其の周圍に子九百九年四月二日より七日まで子アペル市にて開會の第十一回萬國眼科學會と刻んであつた。

三、伊國各地に於ける、旅館案內の一冊子で、會自ら作つたものでおく、旅館同盟會より寄贈したものである。旅館の外景寫眞、室料食料何に外國語を用ふ等委細に認めてあつた。

四、伊國內のみに於ける鐵道割引券、長途にては往復にて殆んと半額程割引せし由。伊國語ゆへ吾等は之れを使用するを得ざりき、否ふ應用せんとして能はず、とんだ赤毛布を演じた、以上の四つを會費拂込後直ちに送つてきた。

ネアペルの停車場

へ着いたのは、四月一日の午後三時であつた、各國の會員等も澤山下車した、自働車又は馬車あり引き手は居りしも、會としては何等の設備もおく外人に對して、些の便宜をも與へおかつた。

會長宅訪問の禮

會員等が安着及び宿所をも知らすためのみならず、前日に會長宅を訪ふのは一つの禮儀である。吾等打ち揃ひて其の邸宅に至る、三階に住宅がある「ポーイ」は階下の入口に訪問者を待ち受けて早速案內する、各々宿所を認めたる名刺を差し出した。

會長アルヂエルッチは出て迎ふた、燕尾服を着せる五十有餘才にして半白の髮を美く分け、痩せ形の愛嬌ある如才ない人で、茲に握手交換し、巧みなる獨乙語で日本の諸君が能く來會せしを喜ぶと、挨拶をなした予等は一二分で辭した尙ほ代る〳〵訪問する澤山の人があつた。

會場

は市の中央ある、大學本部の大講堂である、午前十一時の、定刻に行つた、入口の石段の上には、澤山の學生が立錐の地なき程に立つて居る、各會員等は吾れも〳〵と之れに入る、予等の入りしときにのみ限り、各學生等が拍手し萬歳の聲高く、歡迎したので吾等は脱帽の挨拶をおした。正裝した兵卒や憲兵が階上階下の要所に立つて居る無論巡査も居る、予等は異樣に感じたが、これは伊國に社會黨が多いためであるそうだ。大理石の階段を登る、三階に講堂がある、大講堂とは言へ、獨乙の各大學の大講堂に見慣れたる予等の眼には寧ろ快く且つ美麗とも思はるかつた。正面には伊國皇帝の半身像がある、其上の壁面には四五の有名ある學者の像がある、隅みには二三の植木鉢が配置してある、總してたいした裝飾はなく寧ろ頗る單純であつた。

會員即傍聽者は二三百名計りも居たが會員全體の申込は五百弱あつたとの事だ、あこ此處に思ふまゝ亂雜に坐席して居る、俗服は最も多くフロツク嚇尾服などは至つて少なかつた、中には此の敬意を表すべき式場に外套を着たまゝのものも少なからなんだ。萬綠紅叢中紅一點とでも言はんか、十數名の夫人連が列席して居た、人の知る如く西洋婦人は此の如き席でも、常に華かな帽子をかむつたまゝであるので、人の視線を引く事は夥しかつた、又夫人の外に少年を伴ふて居たものもある、此れ何れも會員の同伴であつた。

會場には帽子外套をかくる所もなく、洋傘などを式場に持參して居た連中もある、又婦人休息室もなく男子の喫煙室もなく頗る不秩序であつたとは一般新聞の批評であつた。

會員

は世界各國より集り英佛獨歐米瑞墺匈或は土耳古埃及アホリーの地中海沿岸諸國のものが多く、伊國人は言はずもがな、西班牙人が最も多かつた。ソハ本年の會に西班牙語での演說を許した爲めである。二日目の會の演說中に西班牙の眼科教授の妙齡なる夫人が、洸魚の美貌を有髯男子の前に提し驚聲を弄して教授の報告を代讀せし時は中々の評判で拍手は暫し鳴りも止まなんだ。尤も此の夫人は「ドクトル」であるとの事だ。明年の大阪に於ける聯合醫學會に於ても博士方の令夫人に亦此の擧ありたいものだ。

開會式

正面中央の一段高き處には伊國の高官及び軍人諸博士等數名着席して居た。予アペル大學總長カスペレは壇上に立つた、恰かも佛國大統領ファーエールに似て豐頰童顏佛國流の鬚髯を蓄へ溫厚の君子に見へ六十歳計りで沈着なる態度壯重ある語調を以て伊國皇帝及び皇后の名代として且つ國務大臣の代理として會員に挨拶した。

第二席市長ラヂー氏、亦伊國語を以て壯重なる辯を振つた、彼れは五十歳を少し越したとも思はるゝ一見霸氣滿々の風あり顏貌我が山本海相に頗似し方形の顏に虎髯を蓄へ眼光爍々人を射り肘を擧げ卓を打ち鐘の如き聲を以て演んじた。

第三席には內科長セニスーが內外科を代表して述べ。

第四席は學會長アンヂエルッヂは、容貌川上巖華先生を瘠せ形にして今少し眼や鼻の邊りを美の神の念入れたものらしい、しかも色白くして半白貴公子の風姿あり玲瓏たる美聲は流暢なる伊語をして一層明快に音樂を聞くが如き感あらしめぬ。彼れ演じけらくアルペンを越へて一度び伊國に入らんか古昔文化の如何に世に貢獻せしかを知らん我が伊國の眼科亦古代より發達せしとは言へ近世眼科の斯く進歩發達せしは、現伊國皇帝陛下の學生を奬勵ふし賜ふによると感謝し、同時に伊國眼科醫を代表して各國の同業者に挨拶した。

第五席佛國巴里醫科大學眼科教授ラペルゾーン博士は佛國を代表して感謝の意を表した。長身爛眼我が海軍本多博士の似顏で上顎のみを蓄へ五十五六歳に見受けた。

第六席露國の眼科醫クブリ氏が立つた。彼れは銀髯胸に垂れ體軀大にして眼亦大、爛々常に視線を上方にむけ恰かも文豪トルストイ伯に似て純粋の露西亞子に見受けられたり。明晰餘響のある獨逸語を以て伊國の風光を賞し盡し會の當事者に感謝せしのち、ぬけめなく、曰く帝都セントピータスブルグに於て開會を希望すと述べた。「ハイデル」の眼科學會にて同氏の氣焔を聞きたる余等は今亦此に於て其の聲咳に接し快を覺へた。

其れより書記官らしいのが、立つて各國及び各學會よりの祝電を朗讀した。時に四月二日正午十二時半であつた、此の式の間にも人の出入あり靜肅を缺いて居た。

萬國盲人救護大會

が丁度三月卅日より四月三日迄ネアペル市に於て開會されたので、此の一日を萬國眼科學會に連絡すべく四月二日午後より各眼科醫の出席を乞ひ此に連合大會が開設され左の問題につき討議された。

眼患者にして豫後不良早晩失明すと眼科醫の證せし時は其患者に失明すべきを豫告するの可否若し豫告するとせば患者は失明に至る迄に身の處置を計り或は職業の撰擇をふすの便ありや

羅馬市のドクトル、ノイシイラ氏は演壇に立ちて明晰の辯を以て盲生教育に千歳不朽の功績あるブライルレの百歳の誕生日に相當せる本日諸君と一堂に會し、盲人救護につき一言するの光榮を有すと盲人の憫むべく其の不幸ふる所以を擧げ進んで盲生の教育法につき語り盲人救護の必要を絶叫し尚且つ語氣を擧げて曰く眼科醫たるものは、すべからく盲育の知識を有するの必要にして單に慰藉のみふちずして失明の豫告を可成早く悟り盲者一身の處置を計らしむは眼科醫の義務ありと活氣を帶びて述べ會員の注意を惹起した。

議論百出討論盛んなり今其一二を述べん

アンジエルッヂの曰く、例へ救ふべからざる場合に於ても飽くまで此れを慰藉するは眼科醫の本分である徒らに患者に憂ひを增さしめんか其の心身を害し一層危險の處置に趣かしめんと。

ローゼンマイヤー氏は予は此く豫告し爲めに患者の精神錯亂し自殺を企てし實例を有すとて、アンヂエルッチの說に贊せり。

露國のクビリ老人は例の元氣のある聲で曰く、たとへ豫後不良にして盲となるとも、其の完全に失明すべき時間關係は神ならぬ吾人の知識を以てしては不可能なり、尚ほ亦患者に向ひ汝失明すと宣告するは、溫情ある眼科醫士のなし能はざる所なり、誰れか患者に向ひ死を宣告し或は失明するを豫告するの愚をなさんやとて更に告げて曰く予は此に二例を有す、甲は一侯爵老夫人にして其の數年後將さに失明の症狀を有せるにも係はらず彼れは尚ほ家政を執れり、乙は二十七年來予の診療を受けつゝある、一老男の視神經消耗症を患ふものが今も尚ほ依然として視力を維持せりとて氣焔を吐きたり。

甲論乙擊、なかには感情に走せしものもあり中々に解決し難し最後に決しらく、

家族的關係及び患者の精神感動が其の豫告に堪ふべきやを考慮して後豫告すべし

と龍頭蛇尾に終はつた。

予は思ふた、洋人と言ふものは實に愚おものぢや、「人を見て法を說け」との教を知らぬわい。しかし此に特記すべきは、日本が古來より盲人に位階を與へ音樂又は按摩等獨占の業を授けて盲人を保護せしは實に則るべき事ありと澤山の人より話された、蓋し河本博士が曩に獨逸眼科臨床月報に報告されたのが彼等の注意を惹起したのであろう。（未完）

○萬國癌腫研究會

本年五月伯林に開設せられたる全會は普國文部省内に開き各國癌研究の報道に次ぐに各國に於ける癌標本檢査所設置を

奬勵するの問題を以てし之に由り一般實地醫家をして癌を早期に診斷するの便を得せしめんと期するにあり其他又癌展覽場を設置するの提案をも可決したりと云ふ又次會は佛國委員の請求によりて明年即ち千九百十年九月下旬巴里市に於て開設すべきことに確定せり

○各種の萬國會議　本年六月以後各國に開かるべき國際的會合にして本邦にも其參同の交渉ありたる中醫事衛生に關係あるもの左の如し

第七回萬國應用化學會	本年六月	英國倫敦ニ於テ	
第六回萬國保險會議	六月	澳國ウイーン	
第十二回萬國統計會議	七月	佛國巴里	
死亡原因病類別一定ニ關スル万國會議	七月	佛國巴里	
第十六回萬國醫學會	八月	匈牙利ブダペスト	
第六回比律賓醫學大會	十二月	馬尼拉	
食品分析法一定ニ關スル國際會議	本年下半期	佛國巴里	
第四回プラヂル亞米利加醫學會	明年八月	南米リオヂャネーロ	
附萬國衛生博覽會	明年十月	米國ワシントン	
米國軍醫大會			

校内雜報

○皇太子殿下行啓

ものみゐはかはり行けども天つ神わが大君の御代はかはらず。畏くも我が日嗣ぎの皇子には今回翫風察俗の御目的を以て遠く北陸に鶴駕を枉げさせらる。非衆實に歡天恐懼措く處を知らず。以下謹んで當時の概況を記載すべし。

九月廿三日午後四時卅七分金澤驛御着。我校職員及び學生は下堤町右側に整列して奉迎せり、仝五時七分御旅館成巽閣正門に入らせらる。

廿四日午後一時五十五分我校に御成。學生は校前に整列し職員は門内にて奉迎せり。殿下には御車寄にて御降車高安校長の御先導にて濟々堂内に設けられたる御座所に入らせ給ひ御少憩の後校長より捧呈せる我校沿革概要、寫眞帳、圖書目錄、陳列品目錄等を御一覽あらせられ左記各員十三名に拜謁を賜はりたり。

校長高安右人、教授櫻井小平太、山碕幹、佐々木逵、金子治郎、村上庄太、宮田篤郎、高山基重、石川喜直、鬼頭英、阿部莊二、加藤靜雄、松原三郎

濟々堂の一隅には御座所を設け幕を張りて四隅を圍ひ其前面に醫學上の研究材料八十点を陳列し一々記名せり。因に御座所は去る明治十一年今上陛下御巡幸の際玉座に充てられたる也。殿下には種々御下問ありたるが校長は一々奉答に及び御駐校御豫定時間御經過十分の後、午後二時四十分御出發あらせられたり。學生は校の側路に整列して奉送せり。

陳列品目錄

一インヂイクス　寒天培養　赤色發生
一プロヂギウス　麵包培養　紅色發生
一ミノー式ミクロトオム
一トラホオムノ組織　六十倍
一健康者染色血球　三百二十五倍
一廣節裂頭條蟲
一篦形肝蛭　二十倍
一蓖形肝蛭　右同人ノ膽囊及輪膽管ヨリ得タルモノ其數六百九十三匹
一十二指腸蟲
一蛔蟲雌
一蛔蟲卵　三百二十五倍
一疥癬蟲
一肺臟血管　ベレンス注入　百十五倍
一石膏製人體軀幹正中斷面右
一石膏製頭部正中斷面模型　二
一石膏製人體軀幹正中斷面左
一腸粘膜血管　墨汁注入　六十倍
一內臟神經細胞　著色　六十倍
一人卵二十七歲女ノ卵巢濾　著色　六十倍
一人體上肢動脈　右側
一人體軀幹額面斷石膏製實型　後切
一人體軀幹額面斷石膏製實型　中切
一人體幹額面斷石膏製實型　前切
一石膏製筋肉實形　三個
一ヤンチイヌス　寒天培養　紫色發生
一小腦部ヲ傷ケタル蛙
一大腸菌染色鞭毛　七百五十倍
一網膜ノ組織　三百二十五倍
一白血病者染色血球　三百二十五倍
一廣節裂頭條蟲頭　二十倍
一蓖形肝蛭　二千四百八十三匹　一人ノ肝臟ヨリ得タルモノ
一篦形肝蛭卵　六百倍
一十二指腸蟲雌雄　二十倍
一蛔蟲雄
一旋毛蟲（著色）　百十二倍
一肝臟血管　ベレンス注入　六十倍
一人體膨腹內臟自然ノ位置ヲ右側ヨリ顯アス
一咽頭前壁粘土製模型
一人體胸腹內臟自然ノ位置ヲ左側ヨリ顯アス
一舌味乳頭血管　カルミン注入　六十倍
一腎藏血管　墨汁注入　六十倍
一脊髓運動神經細胞　著色　三百二十五倍
一人體下肢動脈　右側
一人體動脈幹及其主枝
一人體軀幹額面斷　後切
一人體軀幹額面斷　中切
一人體軀幹額面斷　前切
一七十六歲女頭骨齒槽磨滅セルモノ
一二十六歲男頭骨齒列完全セルモノ
一七歲男上下顎骨齒槽ヲ解體シ后生齒ヲ顯アスモノ
一人腦大連合及正中葉
一人腦側室中角
一人腦外面分葉溝
一冢兎ノ腦
一鱸、針魚ノ腦
一芽蟲、蛞蝓、機織蟲、蝗蟲、蜻蛉、蟬及兒蟲ノ神經節
一子宮ニ發生セル筋腫
一膀胱結石手術用機械
一シユミツト氏檢糖鏡
一ロオセンハイム氏大腸電鏡
一腎石
一齒石
一蟯蟲
一眼球後部ヲ內部ヨリ見タルモノ
一眼球毛樣體ヨリ發生セル肉腫
一人胎兒發生紙塑　十六個
一大腦切除後ノ鳩
一クエルダアル氏アンモニアク蒸餾裝置
一六歲男頭骨乳齒完全セルモノ
一人腦動脈
一人腦側室天蓋
一人腦內面及下面分葉溝
一牛腦
一初生鳩、鷄、鳥ノ腦
一蛙、蛇、蝙蝠、鼠ノ腦
一臀部ニ發生セル粘液肪脂腫
一膀胱結石　二十七個
一膀胱鏡
一アインホルン氏胃電燈
一膽石
一腎石
一膵石
一鼠ニ寄生セル條蟲
一眼球前部ヲ內部ヨリ見タルモノ
一斜視眼手術前後寫眞等　二葉
一初生兒石膏實型
一クエルダアル氏窒素分解裝置
一スチユツツエル氏肪脂六連浸出器裝置

廿五日午後六時半、都下三千の學生は紅燈を揭げて四高運動場より次の歌を唱呼しつゝ兼六園に練り行き御旅館に整列し田邊中佐の發聲にて萬歲を三唱せり。此日殿下には恐多くも我等の行を嘉せられ親しく成巽閣裏門に立たせられ御會釋遊ばされたり。他日國家の中堅者たるもの安そ孜々奮勉各學事の蘊奧を究め誠忠を盡さゞらんや。

提燈行列の歌

一、嗚呼の丘に上り立ち　國見し給びし上つ代の
　神の偉業を神おがら　承けしめ給ふ尊さよ
二、三十年むかし畏くも　現つ御神は科ざかる
　越の野を越え山を越ゑ　我が金澤に行幸しき
三、御稜威貴み日に月に　榮行く御世に後れじと
　竟ひて勵む金澤の　其後の進歩將た如何に
四、進歩の程を御親から　御着行さんと高光る
　日嗣の御子の行啓を　迎ふる民の幸多き
五、民安かれと玉敷の　宮居を置きて草枕
　旅路に御座す日の御子の　御心いかで安めまし
六、只一向に國の爲め　いそしみ學ぶ學び男が
　赤き心を燈燈火に　掲げて御世を言祝がむ

廿九日午前八時五十分御發。我校職員及び學生は奉迎の場所に整列して奉送せり。但し御旅館御出門は八時二十分おりき。

十月三日過般來富山縣下に在しませし殿下には愈々本日午前七時二十六分當驛御通過遊ばさる、吾等一同は一種無限の感をおして迎送し奉れり。

○贈位

東宮殿下、這回岐阜、福井、石川及び富山の各縣下へ行啓につき各地に於けろ勤王家、碩學、志士、二十有六名に對し贈位の御沙汰ありしが、醫家たる飯沼龍夫、稲生正助は從四位を贈られ、黑川良安は從四位を贈られたり

飯沼龍夫。名は長順、慾齋と號す、伊勢、龜山に生る、年甫めて、十四五にして、小野蘭山の門に入り、本草の學を修め、後笈を負ふて京師に遊び、官醫福井丹波守の門に入り、醫方を學び、大垣に歸りて、醫治を司り、名聲大に揚る、後江戸に出でて蘭學を修め、刻苦勉勉、日夜書卷を繙く、業大に揚りて後、再び鄉に入りて、蘭學を唱へ、名聲いよいよ四方に馳す、年五十にして業を義弟健助に讓り、自ら隱退して別業を城西、長松村に築き、此處に往む、皇朝草木圖說三十卷を著す、時に年七十餘歲、慶應元年、八十有七にて歿す

稲生正助。字は彰信、若水又白雪道人と號す、江戸の人、古林正溫に學び、儒醫の名あり、父恒軒の學を受け、又木下貞幹を師とし、初め永井信濃守に仕へ、その卒するに逢ひて京師に流寓し、元祿元年、儒醫を以て金澤侯に事へ、歲俸二百苞を受く

後大阪に往きて福山德潤に本草の學を受け、性鑑別に妙を得、古今を總括して、庶物類纂一千卷を著はす、人傳へて、昭代の大典不朽の盛業となす。その外に著はす所の書、炮灸全書、本草圖翼、食物本草、物產目錄、採藥獨斷、食物傳信纂、孝女傳、詩經小識、結毫居別集、物色摘錄等あり

黑川良安。名は弼、靜淵と號す、弱冠にして長崎に赴き、蘭語を學び、シーボルトに親炙して、醫術を學ぶ、後江戸に出でて坪井信道の門に入る、後佐久間象山の家に入り、蘭學を授け、漢藉を學ぶ、弘化三年、侍醫に擢でられ、次て壯猶館創立の擧あり、明治三年、醫學館の創設せらるるや、命ぜられて、これが計畫主任となり、後教授に擧げらる、廢藩置縣の際、文學教授の命を拜し、二個年にして辭す、爾來悠々自適、風月を友とすること約二十年、明治二十三年、中風を病みて歿す、享年七十有四

○金澤醫學專門學校醫學士の稱號

本校にては全稱號に付き去る十月左の如き規則を發布せり

明治四十年以前ノ卒業生ニシテ左ノ一ニ該當シテ入學シタルモノニ限リ其修了シタル學科ノ自著論文ヲ提出シタルトキハ審査ノ上金澤醫學專門學校醫學士又ハ金澤醫學專門學校藥學士ト稱スルコトヲ得

一　元尋常中學校卒業者

二　中學校卒業者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ施行シタル試驗檢定ニ合格シタル者

四　同規程第八條第一號（無試驗檢定）ノ指定ヲ受ケタル者

但某學校ノ入學ニ限リ指定ヲ受ケタル者ヲ除ク

五　專門學校令實施以前當該學校規則ニ依リ施行シタル元尋常中學校又ハ中學校卒業程度以上ノ入學試驗ニ合格シタル者

前條ノ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定料金貳拾圓ヲ納ムヘシ

但既納ノ檢定料ハ自己ノ都合ニ因リ取消スコトアルモ之ヲ返附セス

○本學期規則ノ制定及改正セラレタルモノ左ノ如シ

級長幹生規程

第一條　本校教育ノ趣旨ヲ完ウセンガタメ各學科各學年ニ級長一名幹若干名ヲ設ク

第二條　級長ハ每學年ノ始メニ於テ教官中ニ就キ學校長之ヲ命課ス

第三條　級長ハ擔任學年生徒ヲ統率シ其指導誘掖ニ任シ以テ師弟ノ情誼ヲ敦ウシ兼テ左ノ事項ヲ掌ル

一、擔任學年生徒ノ願屆書ヲ審査シ之ニ捺印スルコト若シ要スレハ之ニ意見ヲ附スルコト

二、擔任學年生徒ニ關スル諸種ノ事項ヲ處理スルコト

第四條　幹生ハ擔任學年生徒中ニ就キ級長之ヲ選定ス

幹生ノ員數ハ生徒員數十名乃至二十名ニツキ一名ノ割合ヲ標準トシ級長之ヲ定ム

第五條　幹生ハ級長ノ指揮ヲ受ケ當該學年生徒ノ秩序ヲ圖リ進修ヲ促シ其他萬般ノ幹旋ヲナスモノトス

第六條　各學年生徒ハ互ニ共同的精神ヲ以テ互ニ督勵スベシ

生徒心得細則

第一條　職員ニ對シテハ勿論各自相互ニ敬禮ヲ行フヘシ　途上ニ於テハ成ルベク言葉ヲ掛ケテ交禮スルヲ可トス

第二條　教官教室ヘ臨場ノ際並ニ退場ノ際ハ一齊ニ起立敬禮スヘシ

第三條　課業時間ニ遲レタルトキハ教室入口ニ至リテ受持教官ノ指揮ニ從フベシ

第四條　飲酒スベカラズ（沿革略、明治三十三年九月ノ參看）

第五條　校舍内ニアリテハ所定ノ場所ノ外喫煙スベカラズ　校地内ニアリテモ亦火氣ニ注意スベシ

第六條　教室内ハ勿論廊下控所ニ於テモ總テ不作法ナル擧動又ハ危險ノ虞アル事ヲナサヾル樣注意スベシ

第七條　諸置場其他使用ヲ許サレタル設備又ハ貸與セラレタル圖書器械ハ勉メテ之ヲ利用スルト共ニ其整頓ヲ忽ニセサル樣心掛クベシ

第八條　過テ建設物又ハ器物標本等ヲ毀損シタルトキハ速ニ其旨申出テ善後ノ指示ヲ受クベシ

第九條　校ノ内外ヲ問ハズ常ニ擧止風體ニ注意シ苟モ品位ヲ汚損セサルコトヲ期スベシ

第十條　實習病院ニアリテハ殊ニ規律ヲ重ンジ且ツ同情ノ念ヲ以テ患者ニ接スベシ

第十一條　同住者ニ傳染病患者ヲ生シタル時ハ直ニ屆出デ指揮ヲ受クベシ

第十二條　退學又ハ休學ノ願出ニ際シテハ豫テ借受セル圖書器械等ハ洩レナク之ヲ返納シ願書ニ教官又ハ掛員ノ証印ヲ受クヘシ

第十三條　別段ノ規定アルモノ又ハ特ニ指定シタルモノヲ除クノ外諸願屆書ハ總テ級長ノ認印ヲ受ケ生徒課ヘ差出スヘシ

第十四條　示達又報告等ハ速ニ承知スヘキモノナレバ常ニ掲示場ニ注意スヘシ

第十五條　醫藥法規ハ特ニ大切ナルモノナレバ上級ニ進ムニ從ヒ常ニ之ニ

注意シ置クコトヲ意ルヘカラズ

第十六條　懸買ヲナシ又ハ金錢ノ貸借ヲナスヘカラズ　臨時學資ニ差閊タルトキハ監督長者ニ相談スヘシ

第十七條　思慮ニ餘ルコトアルトキハ畏憚ナク當局長者ニ諮ルヘシ

第十八條　同志相謀リ校内ニ學藝修養其他善良ナル目的ヲ以テ會團ヲ組織セントスルトキハ豫メ發起人ヨリ其趣旨及規則案ヲ具シテ申出デ認可ヲ受クヘシ

第十九條　臨時集合セントスルトキハ其都度生徒課ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

演説會討論會ヲ催サントスルトキハ必ス其演題及討論題ヲ届出ヅルヲ要ス

級長及十全會諸部ノ會合ハ總テ級長又ハ部長ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第二十條　集會ハ成ルヘク校内ニ於テシ止テ得ス校外ニ催サントスルトキハ必ズ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條　會團及集會ノ事業成績經過ノ狀況等ハ幹事又ハ發起人ニ於テ報告ノ義務アルモノトス

第二十二條　廣告ヲ掲載セントスルトキハ其ノ正本又ハ文案ヲ具シテ申シ出テ指揮ヲ受クヘシ

第二十三條　身上及親元ノ住所ニ異動アルトキハ遲滯ナク届出ヅヘシ

戸籍ノ異動ニ關スル届出ニハ謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

第二十四條　一週間以上旅行セントスルトキハ其行先立寄地用件往復豫定日數等成ルヘク詳細ニ届出ヅヘシ

夏季休業ニ際シテハ親許ヘ歸省セサル向ニ限リ届出ヅヘシ

第二十五條　本校管理ノ寮舍又ハ本校監督ノ塾寮認定宿所等確實ナル宿所ニ寄泊シ且ツ成ルヘク數人同宿シテ互ニ督勵スヘシ

第二十六條　新ニ入學シタル生徒ハ一學年間必ズ本校管理ノ寮舍ニ入ルヘキモノトス

但シ自宅ヨリ通學セントスル者又ハ特別ノ事情アル者ハ願出ニヨリ詮議ノ上他ヨリ通學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條　生徒ノ宿所ニシテ不適當ナリト認ムル時ハ轉宿セシム

第二十八條　宿所ノ入口見易キ所ニ給付ノ氏名札ヲ釘掲シ置クヘシ

但シ指定ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニアラズ

第二十九條　宿所ヲ變更セントスルモノハ豫メ生徒課ニ諮リ其届出ハ所定ノ用紙ニ各項欄詳細ニ記入スヘシ

○校旗の制定

是迄吾が校には特に學校を代表すべき校旗ふるものなかりしが此度東宮殿下の行啓あるを機會とし東京の三越吳服店に注文して裝嚴なる校旗を新製したり紫色の羽二重地に淡綠の月桂樹を縫へ取りて中央に吾校の徽章を抱き黑漆の旗竿、金色燦たる旒飾、一見人をして崇高の念を禁ぜさらし、九月十九日午后本校第一分教場運動場に於て該旗の披露式あり各學年の學生は横隊に整列し職員一同參列の上、高安校長は高く左の告辭を朗讀して校旗を旗手に授與して式を終りぬ、今后は全告辭にある如く旒飾の金風に颯々として旗色の秋日に赫々たると共に吾校の氣風の益々發揚せんことは信じて疑はざる所とす。

告辭

北陸ノ地邊陬ニ位シ　皇澤遍ク率土ノ濱ニ及フト雖モ文化動モスレハ日進ノ趨勢ニ後レントス吾校此間ニ在リテ亦空シク學界ノ潛龍タルノ憾ナキニアラス今ヤ

鶴駕親シク此地ニ臨ニテ庶政ヲ鑑察シ風俗ヲ振興シ兼テ開明ヲ勸奬シ給フニ當リテ吾校幸ニ行啓ノ榮ヲ忝フセントス吾人豈恐懼感奮セスシテ可ナランヤ乃チ之ヲ機トシテ校旗ヲ作リ茲ニ之ヲ披展ス今ヨリ後闔校協

和ノ中心碎礪ノ標的皆寓シテ此校旗ニ在リトセン凡ソ學校ノ榮辱ハ校旗ノ榮辱ナリ若シ夫レ純良ナル校風ヲ發揚シテ普ク天下ヲ風靡シ大ニ學界ニ雄飛センコト一ニ諸子ノ奮勵ニ待ツ諸子夫レ努メテ悔ヲ後繼ニ遺ス勿レ今ニシテ深ク思ハ此校旗ハ是レ吾校ノ名譽ヲ擔フテ永久ニ傳承セラルヽモノナルヲ敢テ至囑ス見ヨ旒飾ノ金風ニ颯々トシテ旗色ノ秋日ニ赫々タルヲ是吾校ノ前途ヲ祝福スルモノニアラスヤ

明治四十二年九月二十二日

金澤醫學專門學校長醫學博士　高安右人

校旗取扱規程

第一條　校旗ハ學校ノ秩序ト名譽トヲ代表ス

第二條　凡ソ校風ノ宣揚ヲ期スル者ハ苟モ校旗ヲ辱メサルヘシ

第三條　校旗ヲ揭クヘキ場合ハ時ニ臨ミテ學校長之ヲ布達ス

第四條　校旗取扱ニ關シ生徒中ニ旗手副旗手補助ヲ置キ其任期ヲ一學年間トス

旗手副旗手補助ハ毎學年ノ始メニ教授會ノ詮衡ヲ經テ學校長之ヲ命ス

旗手副旗手補助タル者其任ニ堪ヘス又ハ其名譽ヲ維持スルニ足ラサルトキハ直ニ之ヲ罷メシム

第五條　本校職員生徒ハ式列中ニアラザルトキト雖モ總テ校旗ニ對シ相當ノ敬意ヲ表スヘキモノトス

○新入學生

本年度醫藥各學科新入學生は左の如し

醫學科（百十二名）

森部令次　岐阜　松崎清博　富山　成相象二郎　島根
野町孝吉　高知　河村良亮　三重　山崎德三郎　石川
大橋忠福井　下澤民雄　石川　北原直義　石川
田中吉左衛門　長野　鶴來政雄　石川　淺井勳　福井
布施宗一　新潟　蘭守常次　石川　生橋一郎　石川
窪美良　富山　小森定司　新潟　砂川茂男　石川
萩岡良作　富山　河野通雄　德島　安達敬智　長野
岡本晃　愛知　江龍一彦　滋賀　水口哲三　岐阜
芥川信　熊本　堀田愼之　富山　曾我逸雄　富山
谷口章三　香川　下川外史　石川　森薫　山梨
穴田留八　石川　佐藤保治　山形　石川寛二　愛知
林文桂　岐阜　伊藤時男　石川　太田潔　新潟
任田傳次　石川　徐二二　唐和歌山　長田敏　石川
宮内吉太郎　愛姫　松野敬和　富山　鹿野重太郎　石川
澁谷創榮　新潟　三輪穰　岐阜　中西文雄　大阪
古田錦榮　岐阜　伊藤忠一　兵庫　石坂正義　富山
中野憲吉　兵庫　松田喜作　石川　橘虎次郎　新潟
小島繭三　新潟　原田四郎　愛知　富永忠　福井
奥泉藤次郎　石川　岩崎宅治郎　三重　大瀧經　埼玉
阿川義入　山口　山村茂一　石川　木根洲清　長野
佐藤改造　靜岡　吉川僧奉　大阪　松井清輝　石川
高山周造　石川　廣松朝三　石川　廣瀨文岳　岐阜
村山良平　愛知　岡村重武　富山　富田學之　靜岡
石川義助　枥木　秋山爲夫　奈良　小出隆治　新潟
岩崎文太郎　島根　齊藤靜衝　群馬　盧村和壹男　石川
皆川眞　福井　石黑四郎　石川　後藤俊一　兵庫
太田外茂治　石川　大村作太郎　富山　板本兵太　富山
鈴木仁吉　愛知　窪田他作　石川　日比明　愛知
東義雄　石川　橋本正雄　鳥取　西本松三郎　石川

松江常行　石川　木村武夫　德島　內藤賴一　島根
脇屋誠義　新潟　神田　定　新潟　林戸正之助　京都
原　伊之埼玉　中村芳雄　京都　吉田敬一　福井
松尾陸一　福岡　駒井吾一　奈良　谷　藤吉　石川
茂木留吉　秋田　林　仙三　福島　馬詰研二　兵庫
高村二三　福井　千田　登　東京　齊藤喜之吉　新潟
細川孝一　富山　上出正男　石川　吉岡貞藏　福井
長谷川一郎　新潟　土門寅造　山形　松本乙男　石川
波々伯部重隆　福井

藥學科（二十九名）

柴田寅次郎　兵庫　大田彥八　石川　金森又一　岐阜
相　德太郎　北海道　西岡半三　山口　田中孝吉　新潟
井上源造　京都　西川他見男　石川　高木貞治　岐阜
手塚觀二　德島　藤本泰治　兵庫　增田　穰　福井
安原良政　新潟　伊藤磨他雄　石川　吉田一郎　富山
湯淺義信　石川　藤田研二　石川　末岡愛一　石川
堀部良吉　岐阜　原　薰　兵庫　淺原吉太郎　新潟
谷　量太　德島　村田義直　愛知　森田次郎　石川
中出長松　石川　大西政一　廣島　小原他吉　石川
高島英雄　熊本　辻　金二　石川

○本學年度各學年級長及幹生

醫學科第四學年級長　佐々木　達
（幹生）奥山義盛　吉川六郎　中村喜太郎
矢吹　清　馬詰定衛　北川文松
醫學科第三學年級長　宮田篤郎
（幹生）小泉與四郎　佐藤　進　住田　立
村松純吉　米多外男　延川　靖
醫學科第二學年級長　金子治郎
（幹生）高崎文雄　丸山浩平　今村鋏夫
鳥居　環　高橋邦次郎　河口二郎
醫學科第一學年級長　石川喜直
（幹生）田中吉左衛門　萩岡良作　宮內吉太郎
石坂正義　山村茂一　長谷川一郎
森　薰　茂木留吉　廣松朝三
藥學科第三學年級長　加藤靜雄
（幹生）楠本普平　川崎幾左右
藥學科第二學年級長　高山基重
（幹生）今澤義三郎　佐々木武雄
藥學科第一學年級長　林　常雄
（幹生）柴田寅次郎　森田次郎　辻　金二

○十全會各部長及委員

十全會々長　高安右入
副會長　櫻井小平太
理事　山碕　幹
書記　山本兵三郎　崎田誠四郎　笹井仁作
安達友直　押野與吉
雜誌部々長　松原三郎
委員　林　常雄　福田美明　川島　俊
吉野　嚴　醫四　吉野圓磨　醫四　白石福三郎
醫三　米多外男　醫三　川上操一　醫二　高崎文雄

醫二 福里次吉　醫一 森部令次　醫一 伊藤時男
藥三 井上廉太郎　藥二 安達銷吉　藥一 西川他見男

講話部々長　佐口榮　鬼頭英

委員 佐々城清臣　柴野順吾
醫四 馬詰定衛　醫四 轟茂　醫三 村松純吉
醫三 岩瀨國義　醫一 高橋邦次郎　醫二 河口次郎
醫一 松崎清博　醫一 廣松朝三　藥三 柳町茂家
藥二 松井啓　藥一 安原良政

ロンテニス部々長　村田金太郎

委員 林篤　醫四 板屋外之助
醫二 宇山春禧　醫一 山下一義　醫三 荒川修鐵
藥二 平野麻太郎　藥一 田中幸吉　藥三 牧野新之亟

劍道部々長　高山基重

委員 野崎芳孝　醫四 絹川義溫　醫三 加藤末吉
醫二 島豐喜　醫一 窪田他作　藥三 御影藤太郎
藥二 舘昌次　藥三 辻金二

弓術部々長　村上庄太

委員 影山清美　醫四 角田眞一　醫三 延川靖
醫二 岩田高明　醫一 千田登　藥三 大島時
藥二 山田甚太郎　藥一 伊藤磨他男

柔道部々長　石川喜直

委員 中野鑄太郎　醫四 坪倉利　醫三 池上豐
醫二 北野榮藏　醫一 下川外史　藥三 矢野孝次
藥二 山岸勘吉　藥一 藤田研二

茶話會部長　阿部莊二

委員 山本兵三郎　醫四 奥山義盛　醫四 松下嘉右衛門
醫三 武田良海　醫三 富永富久三　醫二 今村鐵夫
醫二 丸山浩平　醫一 穴田留八　醫一 松本乙男
藥三 後藤重彥　藥三 柴野昇　藥二 松田卷耳
藥二 山田彥十郎　藥一 森田次郎　醫一 小原他吉

學術實習部々長　佐々木達

司療醫館　保二　梶川靜夫　調劑司　三木榮末

委員
醫四 吉川六郎　醫 奥山義盛　醫三 住田立
藥三 楠本晋平

代議員
醫四 中村喜太郎　醫四 矢吹清　醫三 小泉興四郎
醫三 佐藤進　醫二 木下淵　醫二 行事喜作
醫一 長外喜男　醫一 河村良亮　藥三 住山伊衛
藥二 說田義隆　藥一 柴田寅次郎

劍弓柔道各師範

劍道部師範　宮川義令
弓道部師範　八島爲晴
柔道部師範　藤森千春
仝　補助　吉田宗一

○學校名ヲ冠セル學士稱號檢定細則

第一條　明治四十年以前ノ本校卒業生ニシテ金澤醫學專門學校醫（藥）學士ノ稱號ヲ得ンコトヲ願出ル者アルトキハ此細則ニ依リテ取扱フモノトス

第二條　出願者アルトキハ教務課ニ於テ資格ノ有無ヲ査定シ調書ヲ作リテ願書ニ添付シ其資格アル者ニハ自著論文ヲ提出セシムルト同時ニ檢定料ヲ會計課ニ納付セシメ其資格ヲ闕クモノニハ更ニ指令案ヲ具シ學科長ヲ

經由シテ學校長ノ裁定ヲ經庶務課ニ於テ願書ニ指令ヲ付シ却下スルモノトス

第三條　教務課ニ於テ既ニ出願者ノ有資格ヲ査定シタル時ハ其願書ヲ會計課ニ移シ會計課ハ檢定料收納濟ノ時ニ其趣及日付ヲ記入シ主務者捺印シテ教務課ニ廻付スヘシ

第四條　既出ノ願書及論文ニハ教務課受付ノ日付及檢定番號ヲ記入シテ之ヲ學校長ニ差出シ學校長ハ論文所屬ノ學科ニヨリテ本校教官中ニ就キ審査委員ヲ命シ審査セシムルモノトス

第五條　委員論文ヲ接受シタル日ヨリ三週日以内ニ於テ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ學校長ニ申報スヘシ

委員ニ於テ若シ必要ト認メタルトキハ本人ヲ出頭セシム

第六條　委員ヨリ申報アリタル時ハ學校長ハ之ヲ教授會議ニ附議シ當否ヲ裁定ス

教授會ニ於テ可否ノ意見同數ナルトキハ學校長之ヲ裁決ス

教授會ノ議事ニ關スル事項ハ總テ秘密ニ附スヘキモノトス

第七條　檢定ヲ結了シ學校名ヲ冠スル學士ノ稱號ヲ認ムヘキ者ニハ左ノ書式ノ認定書ヲ交付ス

〔第一號書式〕

金澤醫學專門學校教授（講師等）　何　誰

本校醫（藥）學科卒業生（某）學校名ヲ冠セル學士稱號檢定ヲ受ル爲ニ提出セル論文ノ審査委員ヲ命ス

年　月　日　　學校長官　氏　名

明治何年醫（藥）學科卒業生　氏　名

右者本校規則第四十九條ニ據リ金澤醫學專門學校醫（藥）學士ト稱スルコトヲ得

年　月　日　　金澤醫學專門學校長　官　氏　名　印

第何號

（以上）

○學校名ヲ冠セル學士稱號檢定出願者心得

一、本校規則第四十九條ニ依リ金澤醫學專門學校醫（藥）學士ノ稱號ヲ得ント欲シ檢定ヲ出願スル者ハ此心得ノ事項ヲ承知スヘシ

二、出願者ハ規則第四十九條ノ一號乃至五號ノ一ニ該當スル者ニ限ルヘキコトハ勿論タルベキモ若シ自己ノ資格ニ疑義ノ廉アル向ハ豫メ本校ニ照會ヲ經タル上ニテ出願スルヲ可トス

三、前項ノ適格者ニシテ檢定ヲ出願スル者ハ第一號書式ノ願書及第二號書式ノ履歴書相添茲ニ檢定料金貳拾圓ヲ現金又ハ爲替ニテ價格表記若クハ書留郵便トナシ本校宛送付スヘシ

四、前項ニ依リテ出願シタル者ト雖モ本校ニ於テ資格ニ缺ク處アリト認メタル者ニ對シテハ願書類ヲ却下シ論文及檢定料ヲ返附スルコトアルベシ

五、本校ニ於テ願書類及論文ト檢定料トヲ受理シタル時ハ本人宛檢定料領收證書ヲ交付（隔地者ニハ郵送）スル外別ニ通知ヲ發スルコトナシ凡ソ檢定ハ約一ヶ月以内ニ結了スヘキモノトス

六、檢定ニ合格シタル者ニハ本校ヨリ醫（藥）學士稱號ヲ認メタル學校長署名ノ辭令書ヲ交付ス

若シ檢定ニ合格セサル者ニハ本校ヨリ特ニ其旨ヲ通知スルモノトス

七、一旦受理シタル願書類論文檢定料ハ不合格ノ場合ニ於テ還附スルコトナシ

（第一號書式）　用紙美濃紙

學校名ヲ冠セル學士稱號檢定願

某（名）義

金澤醫學專門學校醫（藥）學士ノ稱號ヲ得度候ニ付御規則ニ基キ別冊自自著論文（何）通提出ニ及候間御審査相成度履歴書及檢定料金貳拾圓相添比段願上候也

年　月　日　　氏　　名　印

金澤醫學專門學校長官氏名宛

（第二號書式）　用紙仝上

履　歴　書

本籍何府（縣）何國何郡何（市町村）字番地戸主又ハ何々

何府縣何族（平民）

一勳位記其他文部官職公職　　氏　　名

（身分ニ屬スル著ルシキ事項ヲ記入ス）　　生年月日

一明治何年何月何々中學校卒業又ハ學力檢定合檢等

一明治何年何月無試驗ニテ又ハ選拔試驗ヲ經テ金澤醫學專門學校（又ハ第四高等學校醫學部）等（藥）學科一年級ニ入學

一明治何年何月醫（藥）學科卒業第何號證書受領

一明治何年何月開業免狀第何號受領

一明治何年何月ヨリ何地ニ於テ開業又ハ何々業務ニ就キ又ハ何々學校（病院）等ニ在リテ何々研究ニ從事ス等（卒業後現今ニ至ル迄ノ履歴ハ詳細記述ヲ要ス）

右之通相違無之候也

明治何年何月何日何地ニ於テ本書ヲ作成ス

氏　　名　印

會報

○弓術部春季大會記事（五月二十三日）

萬花樹枝を辭し幼綠競ふて樹枝に顯れ、燕雀樹間を飛び廻り、是より世は將に活動し來らんとする五月二十三日、英氣滿々たる古武士姿の健兒、今や遲しと待つ、是實に我弓術部春季大會の當日ぁり。氣は朗に、天晴れ奮戰の氣は天下を壓したり。午前九時頃、先づ數取の激戰始まりぬ。各戰士は互に勇を鼓し、能ふ戰ひたる樣、目にも留まらざる程なりき。當戰第一の月桂冠を戴きたるは內藤氏ぁり、以下第二より第五迄の勇士の芳名を列記せば左の如し。小木氏、近藤氏、奧山氏、藤森先生ぁり。第一戰數取終るや拍手の間に第二戰第一種点取戰は火蓋を切られたり。此戰は前にも增して烈しく電光石火一時に來るの思あらしめたり、月桂冠を得られたる第一の勇者は近藤氏、つゞいて延川氏、藤森先生、角田氏、奧山氏ぁり。次の戰は五寸的競射ぁり。賞を得たるは影山先生、延川氏、石丸氏ぁり、次は第二種点取戰ぁり、之に於て名譽の月冠を得られし諸士は茨木氏、佐復先生、松田先生、鷺山先生、阿部先生ぁり。次は當日第一の目覺しき戰花ぁる金的競射戰ぁり。此戰には數名の勇士見事に金的競射破せられたり。戰終局の勇士即ち名譽の月桂冠を得られ恰も奈翁の如く迎へられたるは延川靖君なりき。

次は天下の關ヶ原け戰たる各種撰手戰なり。此戰に於て目出度凱歌を奏し、天下の覇とぁりしは本校撰手近藤氏ぁり。之に次では協和會の安達氏、次に一中校の河野氏、次は四高校の金田一氏、又もや本校の內藤氏ぁりき、

終りの戰射割は協和會の黑川氏、四高校の金田一氏の手に歸したり、尙續て來賓の競射あり、賞を得たる諸氏は次の如し。安達氏、本多先生、八島先生、松田先生、影山先生なり。最後の大擊戰源平の競爭は目出度源軍の得たるころとおりたり。時將に暮色四邊を拂ふて夕暮の鐘かすかおり。かくの如くにして本年の春季大會は正に終を告げたり。

來賓佐々木關口兩氏より各矢の懸賞ありしも時間おく競射を秋期に延ばせり。

○三得會の茶話會（十月三十一日）

本年一月以來金澤醫學專門學校及金澤病院の職員諸氏が合同して三得會おるものを組織し毎年春秋二季に茶話會を開き且つ新年宴會等によりて娛樂を共にし親睦を厚ふせんことを謀り去五月には差支のため茶話會を開くこと能はざりしが去十月三十一日の日曜を卜し卯辰山に於て發會式を兼ね盛大おる茶話會を開きたり當日會せる者七十名計にして提灯及スプーン競爭あり大に食し大に飲み或は歌ひ或は舞ひ各々充分の歡を盡して歸路に就きたるは午後四時過なりき尙ほ同會にては毎回幹事を撰ぶことゝおし今回は學校側にては松原三郎、影山清美、笹井仁作。病院側にては加藤慶三、田中一次郎、林篤の六氏にして次回は學校側の宮田篤郎、林常雄、押野與吉。病院側の田中正一、深見貞之助、酒井の六氏に定めたり

○神戸同窓會（淺利義治氏通信）

拜啓貴會益々隆盛の段奉賀候陳ば本年四月七日第一回會合を催せし在神戸校友の組組せる同窓會は會名る七日會と稱し毎月七日楠公社內の一茶亭に開くことに相成申候。會するもの毎回左記十一名に御座候

兵庫縣立神戸病院の本城熊三郎君（產、婦、科）岩井尊宗君（外科）鎌尾万明君（眼科）及び拙者（內科）次ぎに市內開業の安積鼎君（產、婦、科）柴原外男君（眼科）淺田耕造君（耳鼻咽喉科）鷹津冬藏君（全科）川崎造船所病院の松尾等君（外科）鐘淵紡績會社病院の山內馨二郎君（眼科）横濱生命保險神戸支店の吉武安男君即ちこれにて何れも本會の創設に向つて熱烈同感の士に御座。而して毎回各自多大の抱負及び職務上に於ける有益おる座談、毎校の事ども相語り最も親密に愉快に圓滿に各自胸襟を開きて夜の更くるをも知らず盛會を極め申候

因に今後神戸、兵庫及び其附近に轉任の校友諸君は其居住を兵庫縣立神戸病院內科淺利義治宛に御一報被下度切望に候、尙本會は近き將來に於て京都大阪の校友諸氏と連合をおし一大校友會を組織し母校のため發展を試みん筈に御座候。校友諸氏の健康を祈る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

人事

○櫻井教授の陞叙

多年吾校に教鞭を取り藥學科の主任教授として日夜學生の薰陶に盡瘁せらるゝ教授櫻井小平太氏は去十月九日附を以て高等官二等に陞叙せられたり吾人は滿腔の熱誠を濺ぎて此の大慶を祝し併せて全教授の益々健勝おられんことを祈りて止まず。

○野口詮太郎氏の露國勳章受領

本校出身陸軍二等軍醫正野口詮太郎氏は今回露國皇帝陛下より贈與されたる神聖アンナ第二等勳章を受領佩用することを允許せらる。

○鈴木寛之助氏の轉任　海軍々醫少監仝氏（明治二十九年卒業）は以前軍艦宗谷軍醫長なりしが去十月十一日吳海軍鎭守府病院附を命ぜられたり仝氏は一時恙ありしも今は以前よりも尙一層强健に復せられたりと云ふ。

○中野才幸氏の昇任　海軍大軍醫仝氏（明治三十一年卒業）は去十月十一日附を以て海軍々醫少監に昇任せられ軍艦姉川軍醫長を命ぜられたり。

○小野醇吉氏の昇任　海軍少軍醫の同氏（明治四十年卒業）は去十月十一日附を以て海軍中軍醫に昇任せられたり。

○梶川靜夫氏　明治四十一年卒業の同氏は永々內科一部に研究の所今度丹羽氏の後任として金澤病院內科貳部醫員を任命せられたり。

○月岡勝治氏　明治四十一年度卒業の同氏は今回石坂氏の後任として金澤病院眼科醫員を任命せられたり。

○中村欣一郎氏　同氏（明治四十年卒業）は丹羽氏の後を襲ひ石川縣第一中學校々醫を囑託せらる。

○福田美明氏　金澤病院神經科醫員の同氏は（明治四十一年度卒業）去十月二日附を以て石川縣育成院醫を囑託せられたり、育成院とは感化法に基き六才以上滿十八才以下の一種の不良少年を收容し智德体育を養成し傍ら實業を授くる爲めの一感化院と見て可ならむか同院は目下新築中にて近々中には一大院舍を見るを得べしと。

○加藤寛氏の轉學　在獨の加藤寛氏は今回左記へ轉宿の由。

Ludwig Wucherer Str. 71 II Halle a/s.

但し、In der medicinischen Klinik Universität Halle a/s. の方が確實也との通報ありたり。

通信

○娘が嶽 Jungfrau 登山の記

南越山人

南越山人河合鷹氏は明治三十年本校醫學部を卒業するや一年志願兵となりて其心神を練磨し次で越前鯖江市に病院を開きて令聞遠くに轟き院名益々揚りて理想愈々高く昨年終に西比利亞の野を起ゐて歐洲に遊び今は端西國の首府ベルン大學にありて年來研究せられし產科婦科學の蘊奧を究はめつゝあり今夏有名ゐるアルプスの娘が嶽に登りて其興を讀者に分たんとす此研學の餘暇を以て常に吾人に通信せられ芳志感謝に餘あり思ふに端西の絕景益々君の健康を增さん　（編者識）

＊　＊　＊　＊　＊

十全會諸兄益々御勇壯奉賀傳本年の暑中休暇は諸兄夫々攀山涉河勝を探られ候と遙察致候小生も去月又とは出來申さざる「ユングフラウ」に登山を試み候間其登山記御目にかけ諸氏の御旅行と比較被下ば多少の興味あらんかと拙筆を弄し候　以上

歐州で著明の山脈は Alpen 嶺で其內の最高山は Jungfrau 四時白雪を頂き海拔四千百幾「メートル」我邦の芙蓉と仝高である。歐州有名の高山で瑞西旅行の一の Factor である。併し其格好は白扇倒懸云々と云ふ譯には行かぬが只其附近に四天王とも云ふ可き Eiger, Mönch, Schneehorn と云ふ樣ゐ高山が控へて居るから愈々崇高の感を增さしむるのだ。時は暑中休暇七月末、名古屋醫學長熊谷氏と仝行で Bern 停車場に趣き普通列車此山汽車、

電車各往復二等切符を驕つて九時發車した。此切符さへあれば靴底泥ふしに登山出來る便利の仕組とふつて居る。途中乾田は蒼然として麥熟る。

麥秋や村は見にず牛の聲

語るのか謠ふ翁か麥の秋

二時間計り走つて Thun に着いた。Thunnersee 湖畔にあり、瑞西名勝の一つで屹立せる山屏風と翁鬱の老木に圍まれたる紺碧の樣ふ水が眞白の小蒸汽を泛べる所、樹の間から寺院の塔が隱見する所ふど能く油繪に見る圖だ。湖水の沿岸の景を稱しつゝ Interlaken 驛に着。此驛は遊覽諸國人の兵站基地で殆んど全町「ホテル」から成つて居る。此驛から一の坂を超へば Luzern と名づくる極めて景に富む勝地に達するのだ。其爲め インテルラーケン驛では澤山の降客があり。是から勾配が愈々急とふり四邊見渡す所山許り、山腹に麥畑も在り、牧場もあり散在する板葺の山家も見ゆる。予は曾て貴校に學びし頃誰かの教授から瑞西の山に甲狀腺腫と「クレチニスムス」が多いと聞きしが當時は夢にも其珍らしき瑞西の山間に來たろうとは思はざりき、人生の境遇は面白き物よ。是等山家では牛を蓄い乳、バターを取る。

夏もあり一條道の山家かふ

薫風や乳搾女の袖に入り

岩を繞り樹間に隱れ漏々として落ち來る溪流は高山の雪の名殘である。惜しい哉雪解れば灰を溶かしたらんが如き濁流でアタラ仙境を汚かす。駄句、

汽車止まり何か聲する樹下暗

高山の雪の名殘りで行水す

初めは車窓から前方に白帽を戴ける若孃の差ばみんで山又山の間に隱見する樣であつたが汽車の進行につれて其胸、腹、裙の順で其本態を顯はし高き事其評判に違はぬ。Glindelwald で汽車は終点。是から山汽車 Bergbahn に乘り換へる。山線路は「アプト」式、齒車仕掛汽關車の斜面にふつた奇ふる列車はヨツ々々急峻の坂が登り行くのである。此の Glindewald で背に Rückensack を負ひ底に鋲附の頑丈ふ靴を穿ち鳶口樣の杖を提げる澤山の徒步登山者下車した。是等は山汽車に依らず徒步登山するので內には學生もあれば官吏もあり、町人もあれば健氣ふ婦人迄混じて居る眞の愉快は此種の登山にあるソーだ。勿論絕頂まで達するには二三日を要し其間に石室の小ホテルが散在して是に宿泊する事が出來る、絕頂に近けば峭峻ふる岩石許りだが度例の鳶口樣の杖の鈎で岩角を引掛け之に賴りて攀登するのだから絕頂迄達するには中々困難。殊に山上で雷に打たれ或は雪崩に埋められ行衛不明とふる者も不少往々新聞で見る所である。歐洲にも日本に負けぬ彌次馬が多いのに愕く。序に背のヅタ袋はヅツク製の囊で其內に麵包其外の食餌、手帳、襯衣、石鹼ふど一切日用品を容れて兩側に付け、革紐で肩から腋へ掛けて背負い登山するもので獨逸人でも當國人でも大抵平素から持參し居る。我留學生でも之を持參し出掛る勇者も往々ある。小生等の如く蒸滊、電氣の力を藉り煙艸を吹かしながら是で登山で御座るとはチト嗚呼がましいかも知れぬ。

山汽車は喘々焉として登り行く間に喬木帶も將に盡きんとし枝の脫けたる老松の肌寒げに彼方千古の白雪と根氣比べする樣に見ゆるも床し。權木帶も過げば此邊一面に「アルペンローザ」(我岩躑躅に類し花に勢ふし)の花盛り、深山の花の手折る人なきを嘲ちつゝある。

左方幾千仞、丁度切立てた嶺が Eiger と云ひ、右方鋒尖に眞綿を覆はせた嶺が Schneehorn 其中央に一段天を摩するもの Jungfrau なりと、隣室にある老客の說明を聞き Ja! schön! schön! を繰返しつゝ終に午後三時 Scheidigg 驛に著した。山汽車は之で終点である。斯かる高山の山腹にも立派な「ホテル」から料理店迄用意周到流石は歐洲である。午過ぎだあら先づ「レストラン」の最も景に富む位置を占し午飯の仕度をした。「スープ」に魚肉一皿、肉片と野菜、ビールで高い稅金?を拂つた。爰から「ユングフ

ラウ」の絶壁はスグ鼻端で白雪皚々其絶頂に一握程の薄雲懸り其中で大砲を放つた樣な雷鳴一聲實に奇觀だ。雪を踏んで登山する人間の黑い頭が見え隱れするとて隣客は大騷ぎ。「レストラン」を出でゝ繪葉書店に立寄りて電車に乘つた。是より愈々本物の「ユングフラク」探險に掛るのだが此電車賃が仲々高いかち此のシエーディツクで切上げて戻る人も多い。電車は急峻の阪を遲々登りて遂に Eigletscher と稱する山腹に停車、四邊厚氷で千古の老雪は灰色を帶びて居る。爰を發車すればユング山の絶頂より稍々下の山腹に胴穴を明け電車は其墜道の中を丸で蝸牛殼內の旅行の樣に上へ上へと登り行くので中々の大工事だ。暗中を登り軈て Eiswand（氷壁）に停車。爰は本墜道から横道を造り山の裏面に大窓を穿ち裏面の景を見るので窓を覗けば諸群山は遙かに瞰下ろし備付の望遠鏡で岩室の「ホテル」が散在して見ゆる標高が海拔二千八百六十七米突兒、寒暖計攝氏四度で上衣は冬服乍ら震へる、車掌が親切に茶毛布を勸めたから早速引被り眞正の赤毛布否茶毛布連が爰に出來た呵々。四面の墜道岩壁は其質蠟石の樣に光澤があつて觸る水が氷の如く冷やかゝり、アイスランドの名の依りて來る所ゝらん。尙ほ電車にて登れば愈々海拔三千百六十米突兒の有名な Eismeer（氷の海）に到着した。我等の目的地点で矢張り横に切貫き大窓を穿ち特に岩窟には「レストラン」迄設備し殆んど絶頂の積雪の壯觀を見せしめん爲めの仕組である。窓から瞰下せば名にし負ふ氷の海で二三丈とも思はれん積雪は崖と云はず谷と云はず眞白で普通の眞綿雪ではなく頑丈な岩雪だ。千仞の崖の上からポタ々々と小雪崩が遙かの谷に落ち行く奇觀もある。爰からダラダラ阪を降りて雪を踏みに行く途も出來てある。車掌亦來りて說明し吳れる。先程からの親切振り外客相手に馴れたものと感心すれど、一方から云へば此奴矢張り酒手欲しさの手品の種が顏で讀める呵々。餘り寒いから山賊の住家とも思はれん岩窟の「レストラン」に這入つて「シヤンパン」を命じ熊谷氏と紀念の杯を揚げた。斯る高山の上なれば何もかも電氣の應用で室內の暖爐から庖厨迄電氣熱とは感に入つた。客人は予等二名と他に佛國の夫婦連許り。シカモ仲居が二三十人ズラリと卓に並んで夕食の最中ドレガ客やら主人やらの感がある。佛國人は少々獨逸語が行けるから之を相手に景を稱し雜談の餘名刺を差出すを見れば、立派な紳士と思ひの外牛肉仲買で其歎聲に曰くだ私達も今少し勉强すれば御身達の身分と成れるものを、兎角學問厭いでと出た。高山に來て外國人に戲悔話とは可笑しいが無邪氣の点もある。六時發の電車で降る天は俄に曇り細い雪粉窓に打ち何時しかシエーディツクに戻つた。之より又山汽車で往路とは他の道を取り段を下れば左方は九十九折之に夥多の瀑布が懸り、別けて長い箒星の樣な埃の瀑 Staubfall は見物である。山腹に澤山の乳牛野に放ち頸に附いた鈴の音微妙に響き、日は蒼然として西山に春き新月山の端に懸りて其を背にする樹も山も深綠より陰黑となり遂に朦朧辨ずべからず、只脚下溪流の洒々たるを聞く。我等外客の感慨は又云ふ可かちずだ。Santerbrunnen に着。之より普通列車に乘替へインテルラーケン着。各「ホテル」の電燈の美麗さ、「イルミチーション」を見る樣だ、Bern に着いたは十一時過、

登山の話に忘れ夕納涼

○石坂直次郎氏通信（九月一日發當眼科醫局宛）

明治三十九年本校を卒業するや金澤病院眼科にありて斯學を研究せられつゝありし仝氏は去七月金澤病院醫を辭して福岡醫科大學眼科教室に轉し大西博士の元にありて目下研究中なるが今仝氏の通信を得たれば左に揭ぐ因に仝氏の宿所は福岡縣筑紫郡堅粕村馬出三角七二一〇小山氏方なり。

拜啓時下殘暑未だ退かず候處醫員諸兄益々御壯健御研學の御事と察し居候降而愚生無事見學致居候間御安心被下度候。當福岡市は金澤市と異なり市

内中に活氣有之殊に來年は當市に於て博覽會ある爲め市區改正を行ひ且亦近々中に水道及び電車等布設の由にて日進月歩の狀明に見受けられ候。却説生は恩師高安先生の御蔭により處々の專門家を訪問致候、今其内狀を見るに予の崇拜せる高安先生の如き溫厚篤實にして敎ふるに懇篤親切なる先生は又と他に求むる事不能候。醫員諸君！予は大に後悔致候に付き予の眞似をふして早々先生の膝下を離れざる樣殊に御注意申置候、當大學の助手諸君は實に御氣の毒ふる有樣に有之候。次に當大學眼科の内狀を概畧御參考迄申置候、當眼科は他科に比して中々盛にて患者數より云ふ時は病院、隨一に有之候目下入院五名(定員滿員)外來三百名位は有之候。眼科敎室の設備に關して未だ見聞せざる一二の機械有之候へ共更に使用せず只陳列的即ち飾り付的のものにて其他餘り異りたる点無御座候。又治療法に關しても別に變りたる事ふく甚だ簡單ふるものにて、治療藥として使用するもの只六品あるのみにてトラホームの治療の如きは今日迄盛に手術せられたる由に候へ共多年の成蹟上再發の免れざる事及び結膜を傷くる爲め機能障害を來すとの故を以て目下絶体的に行はず只硫酸銅の擦過のみに有之候。以上述べしが如く餘り予の心を動かすもの無之候へ共只一つ感じたるは豫診、現症及び經過の精細ふるには吃驚仕候、而して眼底は勿論眼外部に認む可き疾病有之候時は細大洩れなく其大さ形狀等を描寫及び記載致して其圖譜の如きは宛然專門家が物せるが如く美麗に有之候、且つ亦經過及び治療法は毎日外來入院の區別なく明記致し一目瞭然疾患の摸樣を知り得る樣に相成居候故病誌さへ見れば宛も自已が其患者を診察しつゝあるが如き感致候、依而予は目下四田ドクトルの厚意により大西博士來福以來の病誌を取檢べ居申候。豫診現症描寫等を精細に記載するは面倒の感有之候へ共非常ふる注意力を增加し隨而學問も進歩致す事多大と存候間お進め申候勿論釋迦に説法的に有之候へ共御參考ともふらば幸甚に候。尙ほ申上度事有之候へ共蚊軍の攻擊甚しき爲め之れにて落城可仕候予は住み慣れたる土地の狀況を承るを唯一の樂しみと致居候間何か變りたる事有之候はゞ其時の新聞紙或は御手紙を以て御報導の程偏に願上候　亂筆辭語御免

○石坂直次郎氏短信

（福田美明氏宛）

當地へ參りしも知人ふく全く孤獨の有樣にて實に寂しく候然し當福岡大學助手は一般に平民的にて隔てふく内狀を漏らしくるゝには大に喜び居候當地に參り日尙ほ淺けれども一般の摸樣は窺知するを得申候當大學大西博士は獨特の頭腦を有せらるゝだけ檢査方法治療法等は全く金澤と別科の觀をふし居り候へ共永く滯在研究せむとする念も起らず且つ大學とて別に「クリニック、ザイテ」に於ては其の設備も御座無く候目下住み慣れし地の事のみ忍ばれ御地の通信を望み候。

○小林唯四郎氏の通信

（八月廿七日發當眼科加藤、舘、玉森三氏宛）

全氏は明治四十一年本校を卒業し金澤病院眼科にあり高安博士の元に研究中ふりしが去八月臺灣新竹病院眼科へ轉任せられ大阪商船の鎌倉丸にて神戸出帆、基隆に上陸し全廿一日新竹へ安着せられ見るもの聞くもの物珍らしく殊に土人語には何とも閉口の由通信ありたり尙眼科敎室宛の手紙を得たれば左に揭ぐ。

拜啓殘暑未だ去難候處皆樣不相變御淸榮の御事と奉愚察候。偖而野生饑金澤病院在院中は一方ならぬ御厚情を蒙り萬事御懇篤ふる御敎示に預り難有感謝罷在候。御蔭樣にて道中無事去る二十一日午後三時過ぎ着新仕候間乍他事御安心下され度候。當時は台灣中尤も氣候溫和(比較的)の土地にて名物づくしの奇の中に基隆の兩台北のマラリヤ新竹の風及び嘉義の地震に台南ペストと申す言葉有之程にて凉風四六時中有之日中と雖も昨今は八十五六度を越にず甚だ暮しよく御座候。當地の病院は昨年新築改造せられ候由

にて意外にハイカラにて只滑稽なるは診察室、處置室も皆床はコンクリート。これは當街の住民九〇%は本島人にて其婦人は多く支那婦人と仝樣の纏足にて裸足を忌むを以て便宜上に造られたるものゝ由に候。尤も困難を感じ候は患者の土語にて少しも解せず診斷には各科一名宛の通譯と台北醫學校出身の先生とを助手に使ひ居候。

眼病甚だ多く殊にトラホームは蔓延に任せある姿にて皆多くはパンヌスかナルベントラホームもしくは失明者にてプレノロエも甚しく候。內科疾患としてマラリヤ、寄生虫多くペストは餘程以前より根をたちたる由、熱帶特有の黑水熱、デンガ熱等有之內地にては名も餘り聞かぬ方にて一驚を喫し申候。外科には皮梅科の病疾甚だ多くグンマなどは鑵詰に致す程有之候。目下本院には新竹隘勇線の負傷者（中には內地人の巡査も三四名有之候）三十名をも收容致居候（皆貫通銃傷）。爲之醫員看護婦忙殺せられ毎日午前七時半より午後の五時頃までのれ務めれまけに隔日の宿直とは恐入候。其他當地の勸植物家屋人物の風俗等皆珍奇にして一々御話に入れ度候へども之はこの次と致し先は右御禮旁〻一寸御報知まで如斯御座候　頓首。

台灣總督府新竹病院　小林唯四郎

○久津木勝作氏通信

（松原教授宛）

拜啓益々御淸祥之段爲斯道慶賀に奉存候。時下所謂天高く馬肥ゆるの秋吾徒また燈下相親む可きの候に相向ひ候處筆硯益々御勇健の御事と奉恐察候過日はまた東宮殿下奉迎紀念のため態々美麗なる繪葉書御投與被下難有拜受仕候、御座にて母校に於ける殿下御巡廻時の盛況を知るを得、居ながら胸中欣喜に不堪候。又承れば今後十全會誌御擔任相成候由益々御手腕御洩らし大なる好機會と存じ轉た爲母校慶賀に奉存候。それに就き近況御報可申上旨御報告に候へ共生來筆重き小生常に御無沙汰致居候通り何共申譯無御座候、只何分開業後俗務に是逐はれ治療多くは只對症的に流れ病原を探究し興味ある治療成蹟も御報知するの機會少きは眞に御恥かしき事に御座候。會ても御話申上候通り當地は廿年以來月次醫會ふるもの成立致居候、毎月五日郡內同業者相會して各學理經驗談を試み居申候。從而時には討論花を咲かしめ口角泡を飛すの活況を呈する事も有之眞に研究的の材料は乏しきも在野的開業としてはまた多少亢奮的藥劑たるの價値充分有之可申候會員中吾校出身のものは爪生保之君（武生町開業の最流行兒醫學部時代出身第一回卒業の由）窪田房吉君（武生私立病院長）河野勇君（丹生郡本保開業の流行兒）輕部修一君（鯖江開業の流行兒）駒田君（窪田病院奉職）大橋常君（丹生郡石田開業の流行兒）及び小生と七名に御座候。要するに母校出身は比較的少數に候へ共皆社會の寵兒たるは意を强ふするに足り可申候（小生は不然）

殊に近來醫風問題の稍もすれば拙劣なる誹謗を受る此際吾校出身者の比較的意を上意にし敢て其職を全ふせんとするは小生密かに欽喜する處に御座候。人は云ふ人格の養成と、小生は寧ろ醫格養成の層一層神秘的ならんを希ふものに御座候。何か興味ある御報告申上十全會へ御記載願度候へ共前述の次第萬々御海恕被下度候。臨終貴兒益々御健安を祈居候、敬具。

若し未だ時日の御猶豫有之候はゞ十全會誌を汚し度一材料有之候間多少「リテラツール」詮索の上御手數を煩し度存候に付御一報願上候。

○丹羽直氏の轉任

仝氏は明治三十九年本校を卒業したる后金澤病院科第二部に奉職し佐々木教授の下に內科を研究中なりしが去八月宇都宮病院內科醫員に轉任し八月十二日石坂氏と共に金澤を出發して一旦鄉里福井に歸省し二週間斗り鄉里に滯在の后ち宇都宮に行かきたり因に同宇都宮病院長は本校の前教授松浦龜太郎氏なり。

○横山鼎氏の通信（田中一次郎氏宛）　同氏は明治三十九年度の卒業生にして金澤病院内科に研究其后外科一部醫員となり本春脚里にて開業せられたる方なり（編者附）

（前略）小生も學兄等の懇篤なる御指導により安意診療に從事いたし居り候昨日もヲパリアのデルモイドチステンをラパラトミーいたし申候幸にアインクレンメンいたさず容易に摘出し得幸福と存じ居り候、開業醫は思うたより繁忙のものにて書見書面等の暇を作るには餘程の勇氣を要するものに御座候、朝は六時より診療いたし午后三時頃より往診いたし十一時頃に歸宅足はつかれる一寸靜止する時は身神の疲勞によりて睡眠に襲はれ申候患も日々外來七十名入院五名位は御座候、伸々収入は多く候も交際費に追はれ、とても永住の地には御座なく候、來年一二月頃は東都に游び眼科を研究いたしたき考に御座候云々

長野縣東筑摩、片丘村、　横山鼎

○名取博三氏の通信　本校を卒業して金澤病院内科一部に入り轉じて京都醫科大學法醫學教室に行き岡本博士の下に助手たる仝氏より梶川靜夫氏へ宛てたる通信を得たるにより左に掲ぐ

遂に僕は送らるゝ身となつて見た、あんまり好い氣持もせぬわい。只なつかしさが胸一杯にあるよ。洛陽の人となつたが依然金澤は戀しい。万事の御禮は拙筆に表はせぬ。心に期しとる。此處は當分の宿だらう。又次に申述ることにせう。此端書は通知を意味して出すのだ』

京都油小路高辻上ル岩崎方　名取博三

○梶川甚一氏の通信（梶川靜夫氏宛）　昨年本校を卒業し廣島病院眼科に奉職し先般宇都宮へ轉せられ后再び同院を辭せられたる同氏の通信を得たれば左に記しぬ。

拜啓御冤被下度候其後無言に打過き候段御容赦被下候不肖軍宇都宮辞職後東京醫科大學病院小兒科に通勤致居候間乍他事御放念被下度候尚此小兒通勤傍ら胃腸病院にて講習し次回の北里傳染病研究所に入會の積りに有之候只今は下宿、何れ一家を搆へる積りに候先は大畧

東京本郷區追分町三十一　久保田儀助方　梶川甚一

○白井濟氏の通信（高木琢磨氏宛）　拜啓時下白露地にしたゝり金風枯葉を吹くの候爾來無音多謝々々學兄頃日如何御起居被爲渡候哉小生去月廿七日福島縣岩瀬郡立病院へ近藤外科の岩島助手長の勸により赴任仕候何分東北の僻地とて江戸時代も思ひやられ候目下平穩無事毎日メッセルをいぢり居り申候先は御報申上候早々不一、

福島縣須賀川町西八丁目七　杉原方、白井濟

○河本博士の獨逸通信

近着の日本眼科學會雜誌に河本博士の「眼科小言」あるものあり趣味津々たるものあるか故に茲に其一二を抄錄して同好の士に制愛す

南部獨逸大學を巡行することゝなつた先つウユツブルグ大學に行く此地は二十年前予か宮下氏と共に在學せる地なり以前の眼科教授ミツヘル氏は伯林に轉任せられ若手の大家ヘツス氏當大學にあり氏や四十七八歳の巨漢にして頭髪少なしと雖もまだ禿頭と云ふに至らず眼鋭くして鷲の如く一見其の常人にあらざるを知る予は氏の處に二日逗留して白内障の手術を見たり無虹彩切除式にして他人と異るは手術後虹彩を其根のみ少しく切除して孔を穿ち創口より虹彩脱出を豫防するにあり予は二十年前の舊屋を尋ねたら舊の家婦六十五六の老婆出で來り舊事を語りて大笑せり昔の居りし室を示し今は立派になつたが日本人を世話して吳れと云へり其餘りの現金的なる

には少しく面を喰へり但し現金主義でおければ世は發達せざらんか一考を要す

ウユルヅブルグを去りてウユルテンベルグに行けり此所にはベルツ氏居住せらるゝも時間おければ訪問せず市を見てフライブルグに行けり此大學は予か二十年前在學せし地にて先師マンツ氏今も存命おれども最早老齡おれば退隱して若手の大家アキセンヘルド眼科教授たり

マンツ氏を訪ふ予は二十年の間一年三四回仝氏と手紙を往復せり此度予が獨逸へ行くと云ふて書きしより待ち々々て予の至る日を問ひ越されたり予の訪問するや涙を流して喜はれたり只憂ふるは氏や年七十四歲にして老衰に傾き手杯は震ふて確おらず

アキセンヘルド氏を其教室に訪ふ氏は丈け低く言語明徹にして待遇非常に懇篤たり氏は毎朝七時より夕刻迄教室に在り朝も晝も教室内にて食事し外來は專ら助手に任かし氏自身は雜誌を出だし書物を書き尙ほ教室内にて私診患者を見て居られた是れ確かに歐州式にて之か日本であつたらさぞ新聞屋の攻擊に價するものおらん予は仝氏の招待を受け助手數名と共に某「ホテル」に於て極めて簡單おる食事の後ち眼科雜誌の論文を各自に抄讀せしめられたり入を招待して置ても後には學術の研究とは少々日本の牛飲放歌醉舞とに比し頗る其趣味の異おるを感じたり

同所在學中は例の世界有名おる動物學者アイスマン先生の進化論を拜聽せしが今も昔も白髮の老人おるが其意氣盛なるには感服の至りおり又一夕某理學教授の着色寫眞論を聞て耳新しく思ひしがさて今春台灣に行き台北で看色寫眞の廣告あり又小生の許に在學せる一軍醫の自ら着色寫眞とられしを一見して日本人の模倣早きには毎度おがら感服せり

フライブルグ市を去りて瑞西國のバーゼル市に行き近來食鹽の眼球注射で有名おりしメリンゲル氏を訪問した氏は一種奇人の風あり平素諧謔を喜び個診中も只滑稽のみ申し居られたり其病院は獨逸のものに比すれば甚だ小にして其材料も少おき樣に見へたり只予の氏に就て一見を乞ひしものは氏の新發明おる鐵片拔去の器機おり氏に見せられて實に感服せり其器械は銅製の一大輪あり其輪内に顏を入れるおり而して此輪には電氣を通じ輪の中央に電氣を集中し眼球こゝにあれば眼球に近き鐵糎が磁力を發し眼球内の鐵片を前房に引出し得るに至る奇案頗る妙おり日本人に兎角奇案おきは困却の至おり

バーゼルよりチューリツヒ大學眼科に行きハーブ先生に拜謁せり昔日仝所訪問の節は矮小不潔であつたが今は丘上の堂々たる建築である此教室にて別に新らしき点おく只奇おりしは白内障の手術後眼瞼を覆ふに硼酸「ワゼリン」を多く塗りて繃帶し其有効を賞し居られたり

此地よりボーデンゼーの湖上を雨風の中に渡りてミュンヘンに着し其夜一劇場に至る予は高坐に獨り着席して下を見しに日本の留學生五六名卓を圍んで觀劇し居りしが皆色黑くて銅色を呈し一見其邦人たるを知れり歸途出口にて互に相見て相語らず自ら此れ他鄕の人たりき翌日大學眼科部を訪ふ實に獨逸一等の立派おる建築物で誠に驚くに余りあり今尙完成せぬ樣子おり教授はエウエルブツシュ博士おり其手術室に入る者は衣を更へ面を覆ひ恰も白衣の山賊風をおすおり燒灼電氣の箱迄も大理石で出來て居て消毒の可能おるものおり併し先生の手術の下手おると其憤怒の非常おるには驚き入りたり教室等も非常に色々と能く出來殊に研究室、生理研究室、料室等別々にあるを見たり併し其研究室の能く完備せる割合に研究者の一向見にざるはエウエルブツシュ氏は寧ろ建築家で有名なることを知るべきおり此地より伯林に歸りたり

伯林に一時休息の后北方ハンブルクに行きたり仝市は日本の横濱といふ資格であるが現在非常に盛大で最も感じたのは魚肉店花賣店の立派にして清潔おること實に外科の消毒手術室に入りたる心地せり魚を置く所は「タヽキ」で出來其下は一大硝子室あり之に生魚の浮游する觀を見て日本の魚河

岸も是非改良したきものと思はれたり仝港は大學地でもあきに外科にキュンメル氏あり皮膚病にウンナ氏あり何れも大學博士以上の令聞を天下に轟かし又近來眼の神經病論に大著述をなせるウイルブランド氏も此地にあり夫よりボン大學に行くも余り感服したることなし去てギーセン大學を訪ふ仝眼科教室は新築した斗りの所でホッシュス教授は大々自慢で各室を案内せられたり別に傳染病室を建て室内には只二名の「トラホーム」患者を虎の子の如く大切にして保護せられあるを見たり如何に「トラホーム」の少なきや以て窺ふべきなり仝所にて舊友戸塚醫學士に逢ふ氏は予の二十年前歸國の際行きて今に歸國したることなし留學二十年とは亦短しと云ふ可からず

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

醫校雜報

○本年の各醫學校卒業生　本年度三醫科大學を始め、十個の官公私立醫專校卒業すべきものは千三百一名の豫定なるも、此豫定數中に病氣、事故、不合格等の爲め落第となるべきもの、多年の例に見るに仝數の五分なり、故に實際の卒業數は千貳百三十五名と見て過らなかるべし。各學校別卒業豫定は左の如し。

東京醫科大學	一〇五人
京都同上	七三人
福岡同上	八五人
金澤醫專校	一二五人
千葉同	一一三人
仙臺同	一〇〇人
岡山同	一〇二人
長崎同	一二一人
大阪同	六七人
京都同	一〇〇人
愛知同	一〇〇人
慈惠同	一〇〇人
熊本同	一〇〇人

醵て本年一月より去四月廿日迄四ケ月間に死亡、廢業轉業等にて醫籍より削除せられし數を見るに三百二十餘名なり、故に試に殘八ケ月間も此比例にて醫籍より削除せらるゝものありとせば、本年度の醫師減少數は九百六十名とするに至るべし之を前の卒業者數千貳百三十五名より控除する時は、二百八十五名を得。此貳百八十五名が學校出身のみにて增加する醫師なり。此以外に文部省の開業試驗により免狀を得たるもの本年第一回並に臨時試驗のみにて現に百六十二名あり尙第二回試驗に於て少くとも五十名は及第すべければ開業試驗の及第者は本年總計貳百十二名以上に達すべし、此の數を先きの學校卒業者に加へ、而して之れより彼の醫籍削除者仝數を控除する時は、四百九十七名を得。

即ち醫籍削除者と、新登錄者數とを差引するに、本年度に於ては實に。千百九拾八名の醫師が增加するなり此數は開業試驗廢止迄は增加するも減少する事なかるべし、試驗廢止後も矢張り年々多少增加する一方なるべし、近來醫師の生活難の聲が都鄙を通じて然るは當然なり、是實に醫育當事者及經世家の一觀を要する處唯々自然にのみ放任せず、人爲的施設の必要を感ずるの時遲からざるべし。

○各醫專校の入學志願者と收容數　五官立醫專校、並に京都、愛知、東京慈惠の各公私立醫專校へ入學出願せし數、及其採用數は左の如し。（但し清韓人採用定數外ありと、

校名	志願者數	採用數
千葉醫專	一二五九（內清人三八四 韓人二）	一〇〇人
仙臺同	五八一（內清人 一四）	一一〇人
岡山同	七二五（內清人 一四）	一〇〇人
金澤同	五五七	一〇〇人
長崎同	四四一	一〇〇人
愛知同	七〇九	一四三人
京都	七二五	一一五人
慈惠	約四〇〇	一二〇人
計	五三九八	八八八人

右の外大阪高醫、熊本醫專の兩校の收容數も各百名內外たりといふ。されば收容數合計千八十八名に過ぎず然るに、熊本大阪を除きても志願者六千名に近く、即ち採用者の六倍に相當するに至る、一方右採用者に三醫科大學の採用數二百六十餘名を合計せば本年大學始め各醫學校へ入學するものは實に千三百四十八名とふる換言せば四年間の後明治四十六年には學校出身の醫師も從て千參百名餘を得る譯ふり是を前卒業者數と比せば、又た興味ふしとせず。之に見るも醫育が如何に完域に達し今日以上學校增置の要ふく、同時に醫師數も亦稍々充足し且つ醫師の種類が改良されつゝあるかを察すべし。

○本年の藥學科卒業並に入學者　東京醫科大學藥學科及四醫專校藥學科を卒業する豫定數並に其入學志願者並收容者數如左

校名	卒業者數	志願者數	收容者數
醫科大學	十四名	二十六名	二十名
千葉醫專	二十名	九十二名	三十名
仙臺醫專	十名	五十三名	二十名
金澤同	二十名	五十一名	三十名
長崎同	十六名	三十九名	三十名
計	六十六名	二百三十五名	百十名

○京都府立醫學專門學校卒業式　仝校第三十二回卒業式は去七月三日同校新築講堂樓上に於て擧行せられ島村校長病氣に付敎務主任池田博士代りて卒業生九十八名に証書を授與せり因に仝校卒業生は明治十七年より總計一千三百二十二名にして現在の在學生は五百二十六名、看護學生徒八十五名、產婆學生十九名にして仝校出身の第一回學士號は本年の卒業生より授與さるゝと。

○秋田縣と醫專問題　仙台に大學出來たる上は仙台醫專を閉鎖すると仝時に秋田又は靑森に醫專校を起すべしとの議ありたるが秋田縣知事は仝縣下に醫專校の設けられん事を希望し然る際は縣より敷地並に資金一部を寄附する旨文部大臣に內申せしといふ。

○三私立醫學校の將來　醫術開業試驗受驗者の養成機關たる東京の三私立醫學校即ち東京醫學校、日本醫學校、東京女醫學校は醫術開業試驗廢止迄には是非醫學專門學校とふさんとは各經營者の希望ふるべく現に女醫學校の如きは文部省に向て認可を申請したる由ふり而して先きに文部省は視學大澤博士に命じ都下の三醫學校即ち石川氏の東京、山根氏の日本、鷲山氏の女醫學校の內容を視察せしめたり、然るに博士の報告書は餘りに簡にして今回の申請に對し、許否を決定する能はず近日更に同博士に就き詳細を聽取の上許否を決する筈ふりと。

○將來の開業試驗受檢生　文部省醫術開業試驗及第者は、最近二三回の實例に見れば、千人中（實地）僅に四十七人二分に相當し居れり、而も此の及第者は平均五回以上の受驗者にして、年齡は平均三十四才なり

と(女子は廿六才)此の点より推論せば本年度に於て前期試驗に及第せし者も、僅に四十七年の試驗廢止間際が及第期ふるべし、若し一歩晩れるときは終生浮ぶ瀨のなきものとおり果つべし今后受驗目的の人は大に注意を要する事にこそ。

○富山藥學專門學校　文部省の認可を得たる同校にては目下校舍の新築其他の設備に汲々たるが設備費は六萬圓にて内二萬圓は富山藥業者の寄附に係り赤十字社病院跡の敷地二千七百坪と近地三百坪合計三千坪を壹萬五千圓にて購ひ舊建物中後部の病室を寄宿舍に充て調劑室は其儘襲申し其他は一切取拂ひて新たに大講堂一棟教室四棟を新築する由而て一ヶ年の經常費は一万五千圓とし本科別科とも三ヶ年の修業にて各學年の定員三十名計九十名づゝの定員とし入學資格は本科は中學卒業程度、別科は高等小學二ヶ年修業程度、授業料は本科一ヶ年貳拾圓、別科同拾貳圓孰れも三期に分納するの規定にて現在藥業學校は明年三月三十一日限り廢止し四月一日より專門學校を開設する旨縣令第三十五號を以て發せられたり。

○齒科醫學專門學校卒業者の稱號應用　文部省當局者が各官立醫學專門學校卒業の稱號冠用に對して規定を設け各學校所在地の地方長官に向けて通牒せしが尚齒科醫學專門學校卒業者にも同規程を定むべきや否や未定にして是に關し當事者の言おりとて傳へらるゝ所によれば齒科醫學專門學校は直に官公立醫學專門學校と全一視すべからざるものあり隨て其卒業者に等しく學士稱號を用ふべきや否や今日猶ほ未定おりといふ。

○千葉病院留學生規定　同病院にては、自今職員をして、順次海外に留學せしむることとふしたり、その規程左の如し

縣立千葉病院外國留學生規程

第一條　縣立千葉病院外國留學生ハ外國留學ヲ必要トスル醫學ヲ研究セシムルカ爲縣立千葉病院長ノ推薦ニ依リ同院職員ノ中適當ト認ムル者ニ之ヲ命ス

第二條　留學生ノ研究學科留學國及留學期間ハ其時々之ヲ指定ス

第三條　留學生ニハ留學手當ヲ支給ス其ノ額ハ留學ヲ命スルトキ之ヲ定ム

留學生ニハ前項ノ外支度料旅費及學資ヲ支給セス

第四條　留學生手當ハ出發ノ月ヨリ歸着ノ月マラ月割計算ノ法ニ依リ會計年度毎ニ區分シ前金渡ヲ以テ之ヲ支給ス

第五條　留學生ノ本職ニ對スル給料若ハ手當ハ留學手當ノ支給ヲ受クル間之ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ給料又ハ手當ノ二分ノ一以内ヲ支給スルコトアルベシ

第六條　留學生ハ留學國ニ於ケル就學ノ場所及宿所ヲ定メ直ニ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

各地ヲ巡歷セントスルトキハ其ノ巡歷地ヲ豫定シ直ニ届出ツヘシ

第七條　留學生ハ自已ノ便宜ニ依リ留學中半途歸朝スルコトヲ得ス但シ疾病ニ因リ留學ニ堪ヘサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ當該國駐在帝國大使公使又ハ領事ノ證明ヲ得テ歸朝スルコトヲ得

第八條　留學生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ留學生ヲ免スル事アルヘシ

一　命令ニ違背シタルトキ

二　品行不良其ノ他不都合ノ所爲アルトキ

三　疾病其ノ他事故ニ因リ成業ノ目途ナキトキ

第九條　留學生滿期ノ上ハ遲滯ナク就學地ヲ出發歸朝スヘシ但シ止ムコトヲ得サル事故ニ因リ出發遲滯シタルトキハ歸朝ノ上其事由ヲ知事ニ届出ツヘシ

第十條　留學生歸朝シタルトキハ直ニ其旨ヲ知事ニ届出テ且ツ留學始末書ヲ届出スヘシ

第十一條　留學生ハ歸朝ノ日ヨリ其ノ留學期間ノ二倍ニ當ル期間縣立千葉

病院ニ勤務スヘキ義務ヲ有ス

第十二條　留學生前條ノ義務ヲ盡サヽルトキ又ハ第八條ニ依リ留學生ヲ免セラレタルトキハ其支給シタル留學手當ノ全部又ハ幾分ヲ償還セシム但シ特別ノ事由アルトキハ縣會ノ決議ヲ經テ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第十三條　留學生ヨリ差出ス書面ハ總テ縣立千葉病院長ヲ經由スヘシ

第十四條　本規程ニ依リ留學ヲ命セラレタル者ハ左ノ誓書ヲ差出スヘシ

（誓書畧之）

○千葉病院貧窮患者救濟會設立

同病院にては、今回各科醫長の發企によりて、貧窮患者救濟會を設けたり、

貧窮患者救濟會設立趣意書

縣立千葉病院ニ施療ヲ受クル患者ノ數ハ、一日平均百名内外ニ達シ、老幼男女病床ニ呻吟シ、懊惱煩悶ノ狀態ハ眞ニ痛情ニ堪ヘザルモノアリ、勿論醫ノ上ニ就テハ、本院醫師ガ技術ノ能フ限リニ於テ可及的滿足ヲ與ヘンコトヲ期スルモ該患者ノ中ニハ赤貧洗フガ如クニシテ、冬夏換フルノ衣ナク、日常必要ノ料紙、手巾ノ代ニサヘ事缺キテ、愁雲胸ヲ閉シ、暗涙枕ヲ潤スモノ多シ、況ンヤ病苦ヲ慰スベキ耳目ノ娛樂若クハ嗜好食物ノ口慾ヲ滿タスガ如キハ、到底之ヲ得ルコト能ハザルナリ又産科ニ収容セラレテ分娩スルモ其産兒ノ着衣ヲ有セズ纔カニ醫員看護婦ガ一掬ノ涙ニ惠マル、粗衣ヲ纏ハセテ退院スル者ノ如キ座ロニ哀憐ノ情ヲ起サシムルニ足ル、豈ニ人生悲慘ノ極ト謂ハザルベケンヤ、不肖等久シク此多數薄命ノ患者ニ接近シ、親カラ其實況ヲ目擊スルヲ以テ、毎ニ同情ノ涙ヲ禁ジ難シ、然カモ院費ノ支辨ハ、法規上斯如救濟區域ニ及ボスコトヲ許サズ、依テ茲ニ本院醫長等ノ職ニ在ル者一同ハ、貧窮患者救濟會ヲ起設シ、廣ク有志ノ贊助ヲ得テ救恤慰籍ノ一端ニ努メントス其方法ハ載セテ別記ノ規則ニ在リ希クハ有志各位奮テ贊同アランコトヲ、敬白

明治四十二年六月

縣立千葉病院内　發起者總代　醫學博士　三輪德寛

貧窮患者救濟會規則

第一條　本會ハ貧窮ニシテ縣立千葉病院ノ施療ヲ受クル患者ニ對シ救恤慰籍ヲ爲スヲ以テ目的ス

第二條　本會ハ縣立千葉病院内ニ置ク

第三條　本會々員ハ千葉醫學專門學校及縣立千葉病院ニ關係ヲ有スル者及其他ノ有志者トス

第四條　會員ハ救濟資金トシテ毎月一口金五錢ツヽヲ醵金スルモノトス但一人二口以上醵出スルモ妨ナシ

醵金ハ一時ニ五ヶ年分ヲ全納スル者ハ一人年額五十錢ノ割合トス

會員ニアラザルモノト雖ドモ本會ノ趣旨ヲ贊成シテ救濟資金ニ寄附セントスルトキハ金額ノ多少ヲ問ハズ之ヲ受納ス

第五條　本會ニ左ノ理事者ヲ置ク

會長　一名（縣立千葉病院長又ハ醫長ニ囑託ス）

評議員　若干名（同院司療醫、調劑司、書記ニ囑託ス）

幹事　一名（同院事務長ニ囑託ス）

事務取扱者　若干名（同院事務局員ニ囑託ス）

第六條　醵金ハ毎月幹事ニ於テ取纏メ所定ノ銀行ニ利殖預ケトス

第七條　救濟募金ヲ支出セントスルトキハ評議員ノ議決ヲ經テ會長ノ決裁ヲ受クルモノトス

第八條　幹事ハ毎年一月其前年ノ收支精算書ヲ作リ評議員及會長ノ認定ヲ得テ之ヲ會員ニ報告ス

第九條　患者ノ救恤慰籍ハ日常ノ必要物及嗜好ノ食品ヲ贈與シ又ハ觀覽物音曲等ヲ聽觀セシメ其他適當ノ方法ニ依ルモノトス

○千葉醫專校と狂犬病豫防接種　同校附屬千葉病院に於ては、今後狂犬咬傷の患者に對し、押田教授主任となり、豫防注射を行ふ事となりたる由。

○醫專校出身軍醫の優遇法　陸軍にては、從來醫科大學出身軍醫に非ざれば海外留學者たる資格なきものゝ如く、今日迄非醫科大學出身の海外留學を命ぜられしもの殆んど絶無なり。如此は軍醫補充の上に大影響を及ぼすべし、近年醫學專門學校出身者にして陸軍に身を投ずるを潔しとせざるもの多きは。他に種々の原因の存するならむも、其主たる原因は榮進の途大學出身者と等しからざるが爲めなり。現今陸軍に於ける軍醫の不足は約百餘名にして、豫後備在籍の一二等軍醫の現役志願者中より百十餘名を採用して僅に補充し居れる有樣にして、本年新に募集せらるゝ醫學專門學校依托學生の如きは到底豫定數を得ると覺束なしとの事なり專門學校に於ける此の不結果は、一に陸軍當局の大學出身にのみ厚ふして、醫專校出身者に薄きに基因す。然かも此傾向は年々著しくならむとするのみならず、よし依托學生を志願するものあるも、そは悉く比較的學業の劣等なるもののみとなるべし故に陸軍衛生部にして此點を察し醫專校出身者に對しても大學出身者同樣の優遇法を設け是を奬勵するに非ざれば將來陸軍衛生部の爲め甚だ憂ふべきものあるべし、故に現任森局長は此點に就き大に覺る所ありたるにや明年度よりは各醫學專門學校出身者にしても、陸軍依托學生たるものは、大臣の認可を受け、若干年間は尙其醫專校に止まりて、其志望專門學科に就き、或る期間實地研究の途を開かむとて目下調査しつゝあり尙ほ海外留學選定方法等に就きても偏破のなき樣研究中なりと果して事實とせは是全く、醫專校出身者權の當然の利と云ふべく亦一方陸軍衛生部の一進歩と云ふべきなり。

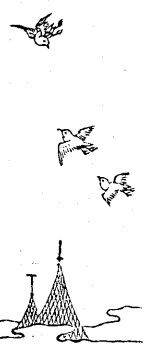
○海軍々醫と醫專校　醫務局にては軍醫補充の一策として、陸軍と等しく依托生の範圍を擴張して醫學專門學校にも及ぼさんとの議ありたるが今日迄決定せる樣子なし。

○臺灣中央試驗所　同所設立後の成蹟極めて良好にして總督府の生産事業に多大の利益を與へつゝあり今後益々擴張の必要を認むるを以て明年度に於て廳舍の增築を行ふ外、技師若干名を增員すべく其が豫算を計上せる由。

○陸軍依托學生數　三醫科大學及各醫專校へ陸軍より依托せる學生數は目下四百餘名なるが、之に本年の依托者を合計する時は約四百五十名に上るべしと。

○少軍醫及同候補生募集　海軍にては海軍少軍醫（醫專校卒業生）同候補生（開業試及驗第者）二十名を募集せり、採用試驗は十一月二十四日より、東京は海軍々醫學校吳は同鎭守府病院、佐世保は、佐世保鎭守府病院の三ケ所にて擧行、願書は十一月十五日迄に海軍部人局宛に差し出すべし、詳細は九月一日の官報にあり。

○文部留學生選定　本月任命の同留學生は各學校よりの推薦者に付き目下選定中なるが愈々東京二名、京都、福岡各一名、新潟醫專校一名と略定せられ近々中發表の筈なりと。



內地雜報

○學位請求論文

七月二十日學位授與式を擧行し、志立、富田、尾見今、井上、馬越の諸氏に學位を授與されたり、其提出論文の題目は左の如し。

一、皮下脂肪組織萎縮ニ就テ（獨文）
一、硬結性紅斑ニ就テ（獨文）
一、汗腺囊腫（「ヒドロチストノーム」）ノ實驗的形成（獨文）
一、沃度加里ニ因ル結節性紅ニ斑就テ（獨文）

以上志立富松氏

一、蟲樣突起ノ粘液漏出ニ就テ（獨文）
一、蟲狀突起ノ閉窄ニ就テ（獨文）
一、エスマルヒ氏驅血帶ヲ解除シタル後ノ皮膚ノ充血ニ就テ（獨文）
一、手術的治療ヲ施シタル盲腸結核ノ二三例ニ就テ（獨文）
一、骨移植ニ關スル試驗的研究（獨文）
一、管狀骨ニ於ケル長大ナル缺損ニ骨移植ニ施シタル實驗
一、胃內壓ノ變化ニ由レル胃壁血液量ニ就テ（獨文）

以上富田忠太郎氏

一、癲癇發作後ノ尿中ニ發現スル異常成分ニ就テ特ニ右旋乳酸ニ注意ス（獨文）（井上嘉都治、佐伯矩共述）
一、酸化鉛「アムモニアツク」ノ「デー、ガラクトーゼ」及「エル、アラビノーゼ」ニ及ボス作用ニ就テ（獨文）
一、「ヌクレイーン」酸中ニ「レヴリン」酸ヲ形成ス可キ原子族ノ現存ニ就テ（獨文）
一、腸「ヌクレイーン」酸ニ就テ（獨文）
一、腸ノ精絲ヨリ獲タル「ヌクレイーン」酸ニ就テ（獨文）
一、動物性臟器ノ自家融解ニヨル右旋乳酸ノ形成ニ就テ（第三報告）筋肉ノ自家融解ニヨル（歸文）（井上嘉郎治、近藤乾郎合著）
一、腸「ヌクレイーン」酸ノ熱灼ニヨル「チミーン」ノ形成（獨文）

以上井上嘉都次氏

一、腹水ノ外科的療法ニ對スル臨床的及ビ實驗的追加（獨文）（伊藤隼三、尾見薰共述）
一、タルマ氏手術ノ疑問ニ對シ試行セル實驗續報（獨文）
一、健者及糖尿病者ノ體中ニ於ケル「ザリチーン」ノ動作ニ就テ（獨文）
一、脾臟周圍膿瘍ヲ伴ヘル外傷性脾臟壞死ニ就キテ（獨文）

以上尾見薰氏

一、「アルカロイド」化學補充（獨文）

以上馬越孝次郎

一、臺灣ニ於ケル地方病性赤痢ノ病理學的研究
一、惡性腫瘍ノ骨ニ侵入セル關係ニ就テ
一、脾臟皮下損傷ノ「メハニスムス」及其病理解剖（獨文）
一、鷄家ノ白血病ニ就テ（獨文）
一、子宮壁ニ於ケル血管ノ關係（獨文）
一、肝臟格子狀硬度ノ甚シキ生理學及病理學的關係（獨文）
一、大腦下垂體ノ研究

以上今裕氏

○新醫學博士の閲歷

▲**富田博士**　氏は石川縣の人、明治二十九年東京醫科大學を出て、職を陸軍に奉じ、日露の戰役には、廣島豫備病院に在りて敏腕を揮はれ、三等軍醫正に進みて休職となり、次て自費を以て獨國に航し、外科の蘊奧を究め、今や現に新潟病院副院長として外科部を統べ、追ては新潟醫學專門學校外科教授たるべき筈也

▲**志立博士**　氏は島根縣松江の舊藩士、去る明治三十四年東京醫科大學を卒へ、皮膚科教室にありては土肥博士に親炙すること歲餘、出でゝ朝倉病院に次長たり、明治三十六年の夏、歐遊の程を發し、專ら瑞西ベルン府なる同大學にありて、皮膚病學の泰斗たるヤタツソン氏に師事し、猶ほ獨佛諸邦を歷遊し、三十九年八月を以て歸朝し、朝倉病院に奉職の傍ら、吉原病院長として新手腕を揮はれつゝあり

▲**井上博士**　は明治三十五年東京醫科大學を出で、優等生の故を以て恩賜の時計を拜受し、その年京都醫科大學講師に擧げられ、翌年助教授に進み、專ら醫化學を擔任し荒木博士を助けて頗る名あり、今春三月自費を以て歐洲留學の途に上り、今や孜々として斯學の研讃に任ぜらる、年纔かに三十有三、蓋し年少の博士といふべき也

▲**尾見博士**　氏は京都の人にして、府立醫學專門學校の出身也、久しく京都大學に伊藤博士に親炙して、外科及び皮膚病學に於て令名あり、出でゝ臺灣總督府醫院醫長として、臺北醫院皮黴科部長たり、後ち墺獨に官遊して「ドクトル」の學位を齎らし、歸來今亦たこの榮ありし也、近々南滿洲鐵道株式會社大連病院に轉任せらるべし

▲**今博士**　氏は青森縣弘前の人、醫學を仙臺醫學專門學校に修め京都醫科大學に趣きて病理學を藤浪博士に修得し、臺總督府醫學校教授に任ず、去る三十九年獨國に留學し、今春歸朝せらる也、近々帝都に入り東京慈惠會醫院醫學專門學校に教授を執らる、仙臺醫專の出身にして、學位を贏ち得たるは、蓋し氏を以て嚆矢とふす

○**脚氣病調査會報告會**　陸軍臨時脚氣調査にては去七月三日九段坂上階行社に於て第一次報告會を開きたり當日の出席委員は青山、荒木、北島柴山、照內、矢部、岩崎、宮本、須藤、石原、富士川、岡田、都築、井上、梶浦、山極の十六氏並に森會長、大西幹事の二氏にして北里、藤波、平井、戸塚、山口、稻垣六氏は缺席せり初め大西幹事より從來の經過を報告して各委員に調査上の意見を求めたるに宮本、柴山、石原、山極、青山富士川、照內諸氏は交々其實驗上に就て述ぶる所あり夫より委員各自に意見を交換し將來は各委員共に玄米と白米とが脚氣に及す關係に就き在新嘉坡英醫の說を確める爲めに試驗的に玄白米を供給せん事を希望し今後は鑛山若くは監獄等の倉餌の規則的に行はるゝ所に依賴し或報酬を與へて麥、玄米、白米の三者に就き比較研究を試むる事を決して散會せり其後海軍より脚氣調査に關する參考書の提出あり又京橋區の開業醫田中達三郎氏は脚氣菌を發見せりとて其研究報告書を調査會に提出したる由なり又仝會は實地研究材料として衞戍病院にて患者の診察を開始したるが六月一日開所以來未だ二名の入院患者ありしのみにて極めて少數なれば何等かの方法を講じて患者を吸收せん考案中なる由にて新聞廣告或は之に似寄りの手段を採るに至るべしといふ。

○**外醫の恙虫病調査**　獨逸ハンブルグ市立病院の熱帶病部主任フユルレンボルン氏は熱帶病調査の爲め來朝し新潟縣に於て恙虫病々源の研究に從事すと云ふ。

○**新潟縣の恙虫患者**　本年初發以來八月廿五日までの恙虫患者通計百十九名內死亡廿四名仝治三十八名現在患者五十七名にして患者の最も多きは古志郡の五十三名次きは中蒲原郡の廿三名。

○**恙虫病原調査所閉鎖**　新潟縣中蒲原郡葉本村に於ける恙虫病原調査所は宮島、北島兩博士の歸京後該縣當局者に於て殘務を整理し八月三十日閉鎖せり。

○顯微鏡科講習　東京顯微鏡院の顯微鏡科講習は去九月廿一日より開始せられたり。

○傳染病の流行　新潟縣下佐渡に佝僂病ある由の報告に接し東京醫科大學より調査のため田代博士が出張し新潟縣よりは小沼技師同行調査に從事したる結果七十余名の患者を發見せるを以て全縣にては全郡內に一の佝僂病療養所を設けんとの計劃あり。

○傳染病の流行　傳染病流行の兆ありて各府縣孰れも多少傳染病せざるは無く東京市の如きも腸窒扶斯大流行にて駒込病院滿員とおりて廣尾病院を開き東京郡部の赤痢も中々侮られず多摩郡には甚だ流行して東京市內にも侵入したり。

○赤十字本社新築　兼れて東京芝公園元血清藥院跡へ計劃中おりし日本赤十字本社の建築は愈々今秋より工事に着手する由なるが其工費は三十八万圓余おりと。

○大坂火災負傷救護　日本赤十社大阪支部は大阪市大火に際し八月三十一日同市北區小學校內に救護所を開設して常務幹事及書記出張し醫員四人、調劑員一人、書記一人、看婦長一人、看護婦十人を救護員とし患者救護に從事せしめたるに患者百四十七人を收容し九月一日午後六時事務終結救護所を閉鎖せり尚ほ右閉鎖後は市役所と交涉し市設罹災者救護所より護送する患者を仝支部病院に於て施療することゝし七十五人を收容せり。

○赤十字病院の寄附增築　住友吉左衛門氏は赤十字社大阪支部病院新築につき手術室建築工費及び修繕費を、藤田傳三郎氏は特等病室二棟新築工費及び修繕費を、鴻池善右衛門氏は施療室一棟を寄附したり。

○赤十字社の戰後事業　赤十字社にては戰後の事業として今回新に病院船を增加すること、患者運搬列車新造、救護員戒機關完成業等に着手する由。

○赤十字救護所　東京市京橋區南紺屋町に只一つある日本赤十字社の救護所は醫員二名、看護婦四名、看護人二名が交代にて不眠不休に詰め居れども仕事頗る閑散にて開設以來一ケ月四十件位の平均なりと云ふ。

○江州大震の負傷死亡者　八月十四日に起りたる滋賀縣に於ける地震には慘狀を極め即死三十一、負傷百六十八、社寺全壞二十、仝半壞五十九、住家全壞四百七十、仝半壞千三百六十七、其他建築物全壞六百十六、仝半壞九百九十一。

○富山赤十字支部病院　同院は愈々十月十七日東田地方の新築病舍へ移轉し同院跡は藥學專門學校に宛てらるゝ筈。

○醫師控訴さる　枥木縣下足利町の開業醫池田愛三郎氏は、巡査高橋某が疾病に罹りし際故ありて往診せずとて、足利署にて金三圓の科料に處せられたるを、氏は不當として、佐野區裁判所にて無罪の宣告ありたるを當日檢事代理外山佐野警察署長は、右の判決を不當として、更に宇都宮地方裁判所に控訴したりと。

○臺灣の醫士　臺灣土人は最初醫士を卑み台北醫學校創立の時代には入學希望者甚だ尠なく爲めに當局者中には程度を低くし速成せしめんとの事。

○外人の細菌學修習　英醫ヒュース氏は英大使館醫なるが去七月下旬より、又佛人フランソーア孃は六月下旬より共に我傳染病研究所に入りて細菌學を修めつゝありと。

○獨逸留學　岡山醫學專門學校教授博士本田重次郎、長崎醫學專門學校教授田中民夫、大分縣立病院長博士中山政男の三氏は去八月廿三日丹羽丸にて出發せられたり。

海外雜報

○萊府大學創立五百年祭

獨逸國ライプチツヒ大學にては、本年七月、その創立五百年祭を施行せり。同大學は、伊太利のサレルノ、ボログナ、パヅア、英國のオツクスフオルド、佛國の巴里等諸大學に比ずれば、創立の年紀甚だ遲しと雖も、而かも、その創立は一千四百九年にして、我朝の應永十六年に當る、その醫科大學は少しく遲れて、一千四百十五年七月十日の創立に係り、我朝の應永二十二年に當る、應永二十二年は稱光天皇の治世にして、世人の記憶に殘れる應仁より凡そ五十年以前なり、此時我朝は戰國の世にして、文藝はすべて地に墜し時代なるに、彼に在りては已に大學の創立あり、彼邦學問の淵源の遠きはこれを以ても、その一斑を察すべし

ライプチツヒ大學が、既往五百年の間に、獨逸に於ける學問の中樞たるり、殊にその醫科大學が、近時、獨逸國醫學界の樞府の位置を占めしことは、ヒス、ルードウイヒ、ウンデルリヒ、ワグネル、コーンハイム、チールシユ、クレーデ等多數の名醫が、斯の大學に在りといふの一事を以て、その我が學問界に貢獻したることの偉大なるを推して知るべし

ライプチツヒ大學にては、この度の五百年祭に際して、知名の學者に、名譽學位を贈與せるが、その醫科大學よりして、名譽學位を贈與せるはサクセン王國大藏大臣ビユルゲル、獨逸帝國衛生局長アム、維也納理科大學長ジユース、ライプチツヒ出版者ヒルチエル、畫工グライネル、彫工セツフネル、ライプチツヒ大學動物學教授キユーン、羅馬大學教授グラツシー、新約ウイルソン、プラーダレツヘリン、巴里リツプマン等なりといふ

○英國獨逸及日本の醫士數

英國にては千八百八十一年來醫師數は頓に增加し殊に八十年代の初めに著し是れ從來の無學の代診の醫業行爲を禁じ且つ醫術試驗の廢止を命ぜし故なり、醫師の增加は千九百〇一年に至る迄人口よりは餘計に增加せしが千九百〇二年以來は既に否らず。

年號	醫師數	毎年增加醫師	百分率	人口一万に對する醫師	醫師一人に對する人口
一八八一	一五、三〇八	—	—	五、八八	一七〇〇
一八九一	一九、一七〇	二、二三	一、一〇	六、五九	一五一六
一九〇一	二三、五三九	一、五七	一、一五	七、二三	一三八二
一九〇三	二四、〇〇二	〇、八七	一、一五	七、一九	一三九〇
一九〇八	二五、〇九二	〇、六九	一、一五	七、一〇	一四〇八

千九百年以來の僅微の增加は醫師收入の不良と千八百九十年以來醫學研究期間の延長に基因す。

獨逸國にては千九百〇八年に於て人口一萬に對し醫師五、〇二人にして其增加は千九百〇五年以來減ずるを見る。

本邦に於ける醫師數は衛生局年報に依れば、

年號	醫師數	人口一萬に對する醫師	醫師一人に對する人口
明治三三	四三、八三八	九、八〇	一、〇二〇
同　三五	三四、五七七	七、五六	一、三二三
同　三七	三五、二八九	七、四七	一、三三九
同　三八	三五、六三八	七、四四	一、三四四

其數に於て英獨を凌駕し人口比例に於て獨國に超ゆ英國と伯仲の間にありと云ふべし。

○米國の軍醫

合衆國政府の陸軍々醫募集の廣告文を見ると其條件が揭げてあつた、

亞米利加合衆國政府の認めた醫科大學を卒業せし合衆國人民にして一定の試驗を經たる者は二等軍醫に採用す、俸給二千弗、三年後一等軍醫に

昇級、二千四百弗、五年後は二千六百四十弗支給。官宅を支給し、本人家族の疾病は無料にて療養せしむ、休暇は毎年一ヶ月の事、若し五年間休暇を取らざるものは一時に四ヶ月の休暇を受くる事を得、三年以上の勤續者は千二百弗以上千六百弗迄の加棒を與ふべし、退職は自由意志。即ち二等軍醫の俸給二千弗の最低とするも吾四千圓である、これに住宅料や加俸など加へると三年以上の勤續者は優に四千弗を得るのである即ち吾八千圓を得るのである之を吾陸軍二等軍醫の年俸六百圓に比するとまるきり桁が違ふのである。

○印度のペスト患者　本年六月中印度全國に於けるペスト患者總數は五千九十七人死亡者四千三百八十人にして五月中の患者一万七千二百三十人死亡者一万四千七百九十人に比すれば患者數に於て一万四千人の大減少を示せり。

○露國の「コレラ」　一時猖獗を極めし露國内の「コレラ」流行につき其初發より今日に至る迄の統計によれば罹病者三万千八百七十四人にて内死者一万四千八百七十四人に及べりといふ。

○紐育の婦人死亡率　紐育市の統計によれば四十五歳までの婦人の死亡率は年々增加し來れり是れ全地に於て婦人が工業に從事すること毎年增加する爲なりと。

○歐洲市の嬰兒死亡數　最近の統計によれば歐洲大都に於ける嬰兒死亡數は一八九九年―一九〇六年までの平均數よりも漸次減少し來れるは喜はしきことにして一昨年即ち一九〇七年に於て生産兒百人に對する死亡者は

伯林	一一・二％	ロンドン	一一・四％
羅馬	一三・三	維納	一四・四
紐育	一五・六	ミュンヘン	一九・三
露都	二六・六		

○乳兒病院の新設　人口增殖は國家富强の大本にして嬰兒死亡の防遏は人口增加の第一手段なりとの見地より世界の識者擧げて乳兒死亡數減少の方法に腐心し種々の嬰兒保護法、母乳奬勵法等を實行せる獨逸國にては近來更に乳兒患者のみを入院せしむべき專門病院を設立するの地方少ならず近時伯林の近効ワインセンゼーに建築ぜられつゝある乳兒病院は其備甚だ完全なるものにして全建築は一階式を採り傳染病室は別棟として隔離せる場所に設け尙ほ遊園を附し採乳用の牛舍を建て又臨床講義室をも設備し其規模は廣大ならざれども出來得る丈け衛生的設備を完全にし甚だ嘆美すべき病院なりといふ。

○英國の小兒保護法　英國に於て近頃實施せられたる小兒保護法によれば小兒を火ある場所に放し之が爲め其小兒に危害を蒙らしめたる者は罰金十磅に處す。小兒には卷煙草を販賣するを禁止す但し煙管用刻煙草は小兒に販賣するを得れども其小兒が自用に供せざると確實と認ざる場合に限る。警官及公園監視人等は街路上或は公園内に於て十六歳以下の兒童の喫煙する者を發見すれば卷煙草、卷製用紙或は其刻煙草を設收し又其兒童の身体に就て搜査する事を得。料理店飲酒場には十四歳以下の兒童を携伴する事を得ず。疾病の場合に於ける服藥用を除くの外五歳以下の小兒には酒類を與ふることを禁ず等の條項にして幼兒に酩酊性飲料を與ふるの罪は最も嚴料に處すべき旨を規定せり。

○韓國の女子種痘技術員　朝鮮にて韓婦人をして婦人間に種痘せしめたるに其結果良好ありしが故に警視廳にては今回愈々韓婦人に種痘を施こさしむる目的にて女子種痘技術員を募集し志願者三十余名の内十一名を適當者と認めて採用することにかれりと。

○北里博士一行の着獨　諸國に於ける國際癩病豫防會議及伊國プタペストに於ける國際醫學に列席の爲め去七月十七日敦賀を出發せられたる北里、緒方、大澤諸氏の一行は七月卅一日無事伯林に着せり緒方博士は

八月二日伯林を發しドレスデンに舊師を訪ひ產科院を視察し北里博士等が諾威より轉じて墺國に入ると共に再び一行に合してブタペストに向はるゝ由又諾威へ行かるゝは內野內務技師北里博士を始め內田重吉、高木友枝の諸氏あり。

○米國軍醫學會の列席者 舞鶴鎭守府軍醫長海軍々醫大監戶祭文造氏は十月五日より開設の米國軍醫學會へ列席のため渡米せられたり。

○ライデン博士の負傷 同博士は過般伯林の街上にて誤て顚倒し爲めに大腿骨頸部骨折を惹起し目下療養中ゐるが何分にも七十餘歲の高齡ゐれば其豫後が如何ならん乎との報あり。吾人は斯學の爲め切に此大家の全癒が一日も早からんことを祈りて止まざるざり。

○ストリュンペル氏轉任 內科學の大家ストリュンペル Strümpell 氏は嘗てエルランゲン Erlangen 大學より轉じてブレスラウ Breslau 大學にありしが本年五月更に轉じて維納大學內科教授に任命せられ其就任演說として『醫學の進步に對する「クリニーク」の價値に就て』を述べられ諸教授及學生の氣受け頗る宜しき由

○ペッブンコーフェル氏銅像 本年五月廿三日ミュンヘン市に於て衛生學の大家仝先生紀念像の除幕式擧行せられたり像は先生が椅子に凭りて右手を膝に又左手を輕く椅子にもたせたる處にして白髮長顏の大衛生家の眞面目に躍動するを覺ゆ中々の出來榮におりといふ

○ミクリッツ氏銅像 ブレスラウ大學に據りて盛名を四海に轟かしたる外科の大家ミクリッツ Johannes von Mikuliez 銅像の除幕式を仝市に於て行ひたり

○シュワン氏銅像 動物細胞の發見者たるテオドル、シュワン Theodor Schwann 先生の紀念像も六月六日ノイス市に於て除幕せられたり

○アルガイル、ロバートソン逝去 脊髓勞及瘧癲狂に於てロバートソン氏症狀（瞳孔が調節反應あるも光線反應ゐきもの）として入口に膾炙せるアルガイル、ロバートソン氏 Argyll-Robertson は本年一月二日逝去されたり仝氏は「カラバル」豆を眼科に使用することを初めて唱道せる人ゐり

○ラクエル氏逝去 獨乙ストラスブルヒ大學眼科教授ルドウイッヒ、ラクエル Rudwig Laquer 氏は去四月二十日七十歲にて白玉樓中の人となられたり仝氏は約三十年以上眼科教授として諸生を指導し其數多き業蹟中にて有名ゐるものは「交感性眼疾患」、「綠內障の臨床的研究」、「少年期に於ける綠內障」、「人腦に於ける黃斑」等なり

○ランケ氏逝去 小兒科學の大家フォン、ランケ von Ranke 氏は五月十五日七十九歲の高齡を以て永眠せられたり先生の著書は日本に於ても廣く用ひらる

○エンゲルマン氏逝去 伯林大學生理學正教授エンゲルマン Engelmann 氏は五月二十日永眠せられたり仝氏は生理學を專攻して最初「神經纖維と筋肉纖維との關係（一八六三年）、「滴虫類の發育」に就て研究して生物學界に一生面を開き一八七一年生物學及組織學教授に任せられドンデルス教授の逝くや其後を襲ふて生理學の正教授となられ「細胞の運動」「植物細胞原形質に於ける瓦斯發生」「纖毛運動」等の外神經生理及心臟生理等に關する論文は殆んど枚擧に遑なし仝氏の死因は動脈硬化症にして此學界の明星落ちて伯林大學に一光明を失ひたり然れども先生の名は永久に學界に輝き今後生活機能に就て語らんとする者は先生の名を忘れざるべし

漫錄

○北米合衆國に於ける醫育

久保德太郎

醫學士久保德太郎氏嘗て米國の一醫科大學に留學し當國の醫學界の狀況に就て語られたる談近着の東京醫事新誌上にあり興味深きが故に抄錄して本誌に移すことゝせり　編者識

▲序言　逆流に棹して遡るは難く、流れに順つて下るは易し、昨今斯學界の趨勢は、形影一たび歐洲の地に印せずむば、殆んど醫家にあらざるの狀にあり、海にも、陸にも、毎航海船若しくは毎連絡列車中、規として數人の歸朝者、或は歐行者を見ざることなし、これ亦一種の流行か、必らずしも其費すところの時間と財貨とに正比例して收獲するところありとは云ひ難しと雖、所謂百聞一見に若かず、個人に取りても、將た汎く吾醫學社會に取りても共に確かに賀すべき現象なりとす

斯の如く、歐行者の多きにも拘ばらず、特に余は他の先輩と聊か方面を異にし、北米合衆國の醫育に就て、聊か吾が聞睹したる一斑を茲に語ちんと欲す

▲北米の一斑　世界の地圖を按し、北米合衆國と日本帝國との面積を比較せよ、日本帝國全土を以てして尚ほカリホルニヤ州の大なるに及ばず、テキサス州に至りては更らにカリホルニヤに約二倍すといふ、是等四十六州よりなる北米合衆國の偉大なる面積夫れ知る可からずや、北と南、其氣候の異なるが如く、自から多少人情慣習を異にし、又た東海岸と西海岸とは、社會狀態並に其教育程度に於て非常の逕庭あり

『人、若し米大陸を西より東に旅行するときは、宛として社會進化史を一行〳〵讀み行くの懷あるべし、先づ始めに土民あり、狩獵の民あり、次に牧留の民あり、文明の傳播者たる商人も亦た徂徠す、次に農業の民を見、その東するに隨て都會生活をなし、遂に工場の組織をなせる商工業の民に遇ふ』

實にターナー氏の此言の如く、纜を横濱に解きシアトル港に達し、大北鐵道にて大陸を横斷するに、全く之れと同樣の感に撲たる、四望數千里、地平線の限り山を見ざる大原野を駛ること三晝夜にして、セントポール、次に市俄古、進んで紐育市に着するに及んで、所謂文明繁華の中心となれるを見る、而して其地勢風土の異なるる共に、住民も亦た其生活と知識の程度とを異にするは自然の趨勢也、然らば北米の醫學特に醫育に於て統一を得ざるは、亦た實に已むを得ざるものたらずや

▲米國の醫學　我邦の醫學は遠く其淵源に遡れば支那に之を倣ひ西洋醫學としては、初め和蘭、次に佛及び英を範として之れに則り、晩近は悉く獨逸を以て師父と爲すに至れり、而して醫家の洋行といへば殆んど全く獨逸留學を意味し、英派の醫學は今僅に其片影を海軍部内に留むるのみ、況んや米國の醫學の如きは、到底齒牙に懸くるに足るものとは、誰れも思ふものなけむ、果して然る乎、余は今濫りに彼我の優劣を論ずる者に非ざれども、吾人は何故に爾く彼の醫學を誤解せしかを茲に聊か辯せんと欲す

▲米國の「ドクトル」　北米合衆國に於ける病院若くは學校の多くは、其實を慈善家の醵金に仰ぎて設立せられたる者に係る、例之先に東京市に創設せられたる三井慈善病院の如きものありとせよ、之れには相當の專門家が各科の主任として職に就き、而して適當の材料患者ある時には、之れに附屬の醫學校を設け、其程度の如何を問はず、之を卒業せるものにはM、D、

の稱號を得せしむ、而して開業せむには、各州獨立の開業試驗委員（Medical Board）ふるものありて、この委員の行ふ開業試驗に及第するに非ざれば、醫師たるの權利ふきものとす、之れ醫育の統一を有する獨國等と大に趣きを異にする所以の者にして、從て其稱號とする「ドクトル、オブ、メヂシン」（M、D、）ふるものは、特に大なる價値を表示するものにあらず、唯だ單に醫學を卒業せりと云ふ一の看板たるに過ぎざる也

各州の開業試驗ふるものは、略ぼ其程度を同しふすと雖も、各州其知識の發達狀態を異にすると、將た需要供給の關係上、州の異なるによりて、其試驗にも高低難易あるは數の免かれざる所也、從て我邦に在りても、外國にて醫學を修業し、「ドクトル」の稱號を獲て歸朝したる者の中、獨乙「ドクトル」が其最も羽振り良きは、全く此理由あるに據る

斯の如く米國のM、D、が醫學校卒業の徽章たるに過ぎざるものふるにも拘はらず、我邦にては從來更に開業試驗の關門を經るとふく、直ちに開業免狀を下附せしものふりしが、近年漸く其情況の明かにふれると共に、外國人にして我邦土内に開業する者及び海外にて醫育を受けたる人々に對しては、一定の試驗を經たる後ち、初めて開業免狀を下附することりふせるは、その至當のもの也、聞く現下米國全土に於て卒業後M、D、の稱號を交附する學校の數實に百八十六の多きに上るといふ、而して英國には二十六、獨逸には二十一の割合也、如何に世界を提げて之に當るも、米國は遂に其數の上に於て遙に優勢ふり、是れ蓋し學校設立の起原既に前述の如く、又た各州獨立の制度あり、米國全體の醫育に對して一定の標準なきが爲めとす、故にM、D、ふる稱號も、其出身の母校を聞きて、始めて眞に其學殖の程度を知り得らるゝ也

事實上開業試驗に於て、受驗者中五〇%以上の落第者を出すの醫學校は隨分多く、之に反して落第者の數二%を超ゆざる學校としては、寥々僅かに八校のみ、而して後者の醫學校は、其設備及び教授の法に於て、吾人の大に模範とふすべき者多し

▲所謂宣教醫師　現に我邦に於ても、滿韓若くは清國に事を爲さんとする人々の中には、固より少壯有爲の人あるべしと雖も、少くとも第一流の人には非らず、之れと均しく、米國より從來派遣されたる所謂宣教醫師の如きも、其人格に於ては往々敬服に値する人なきにあらざれども、其の醫學上の知識並に經驗は、決して米國に於て第一位を占め得らるゝの人々に非らず、況んや十年若くは二十年、甚しきは三十年以前の頭腦を以てする人々に於てをや、身は永く異境に在りて孤立し、學術研磨の機會ふく、歲月と共に寧ろ退歩するとも、毫も進歩の機運に遭遇せざる人々を標準として、米國の醫學を喃々するは蓋し大に誤れり

▲十年後の米國醫學　輓近特に American Medical Association の幹部が其主腦とふりて、北米全土の醫育統一を企劃しつゝあり、今後の十年には蓋し更に刮目して大に視るべきものあらむ、之を要するに、北米の醫育は刻下未だ其統一を得ず、從て「ドクトル」の價値一樣ふらず、實に玉石混淆の狀態にあるを以て、其出身の學校を問ふて、初めてこれを評價することを得べし、然れども修業後更に進んで研究に從事すると否とは、其人の技能と學識とに偉大ふる影響を與ふることは、固より言を俟たざる所、而して我が醫學社會が米國の醫學を誤解せしは、全く彼の長を知らずして、單りその短のみを觀たるに因るものなるべし、次に、余が觀察したる醫科大學の大要を語らむ

△コロンビヤ醫科大學　コロンビヤ醫科大學は其起源を問へば「キングス、コレッヂ」（Kings College）の發達せしものにして、其創立は西曆一千七百六十七年に在り、實に北米合衆國に於て「ドクトル、オフ、メヂシン」の稱號を授與せし醫學校の嚆矢ふりとふす、然るに紐育市に於てはコロンビヤ醫科大學と稱するよりも、寧ろP、N、S、College of Physicians and Surgeons と云ふ方が普通に能く知れ渡れり之れ千八百〇七年來獨立の醫

學校として存在せしものが、コロンビヤ大學の設立を見るに至りて、新らしく茲に醫科の分科を設立するよりは、むしろ既に相當の設備あり、又た歴史を存する醫學校を擴張して、直に其分科とゐすに如かずといふの議出で、終に此 College of Physicians and Surgeons がコロンビヤ醫科大學と改稱するに至りしを以て也、如斯して紐育市に於ては、此コロンビヤとコネールとの兩醫科大學は、其教授の顔觸れ並に其設備の點に於ても、今日相對峙するを見る

由來北米に於ける大學として、永き歴史を有し、又内外に其聲名を有するものは、ハーバード大學とエール大學とにして、現今我邦に於て樞要の地位を占むる人々にして、曾て此大學の何れかに、螢雪の苦を積みし者多し、而して此コロンビヤ大學は、其歴史に於て此二校の如く、未だ燦然たる光輝を内外に放たずと雖も、近年其基本金の增加と共に設備の改善に努め、良教授をば内外より聘し、今やコロンビヤ大學の名聲、北米の全土に普及せり

校舍並に病院　校舍の主要なる部分は教室と研究室とにして、廊下によりて「バンダビールト、クリニック」及び「スローン」病院に連ゐる

「バンダビールト、クリニック」は其名の示す如く、バンダビールト一家の醵金によりて建設されし者、外來患者を以て學用に供す、其主任は次の如し

皮膚科	フオクツス　Prof. Fox
泌尿生殖器科	ハイデン　Prof. Hayden
産婦人科	クレーゲン　Prof. Cragin
咽喉科	シムソン　Prof. Simpson
神經科	スタール　Prof. Starr
眼科	クナツプ　Prof. A. Knapp
矯正外科	ギブ子ー　Prof. Gibney
小兒科	ホールト　Prof. Holt
内科	ゼームス　Prof. James
外科	ブレーク　Prof. Blake and ブラーワ　Brower

「スローン」病院 (Sloane Maternity Hospital) は百二十の「ベット」を有し、「プロフエツソル」、クレゲン (Prof. Cregin) 其長として、學生をして産科の實習をなすに資せしむ、此も亦たウイリアム、デー、スローン氏の醵金によりて設立されしものなり、分娩の數は一ヶ年間平均千五百を下らず、四年級の學生は各自二週間院内に住居して、正常並に異常の分娩に關し、教授若くは助手の指導の下にこれを練習するものとす、

由來コロンヤビ醫科大學にては、單に外來患者を取扱ふのみの設備に止まりて、特に附屬醫院の設けおく、以下の諸病院に收容せる施療患者を以て、直ちにその學用に供しつゝあり

Roosevelt Hsopitol
Berevue Hospital
New-York Hospital
Presbyterian Hospital
St. Luke's Hospital
General Memorial Hospital
St. Mary's Free Hospital for Children
Willariam Parker Hospital
Scarlet Fever and Reception Hospital
River Side Hospital
New-york Eye and Ear Infirmary

就中「ルースベルト」病院は、其位置の關係上最も親善ゐる關係を有す、則ちその施療の患者はすべて學用に供せらるゝあり、然れども如斯き學校に

してこれに近接して附屬の醫院おきは、授業上不便を感ずる點多し、されば四學年生は專ら臨床に時間を費すの組織にして、幾多の組に分かれて各病院に分配せられ、助手 Instructor 監督の下に、親しく患者に接して、其病歴、診斷、治療並に經過を觀察し得らるるものなり、故に學用の患者は各所の病院に分配さるゝ割には爾く多大の不便を感ぜざるおり

▲「ルースベルド」病院　該病院は、千八百七十一年の創立にして、二百五十人の患者を收容するに足り、其他外來部の設けあり、更に救急部は市内の一定區域内に於ける負傷者に向て、直に適當の所置を與ふる仕組とおり居れり

▲病院の組織及經營　来國に於ける病院は、我邦若くは獨國とは大に其趣きを異にし、所謂公立病院として存するものも、國家若くは市町村の費用を以て建設されしものおく、專ら義捐金によりて其創立を見、又た寄附金によりて維持さるゝか、若くは宗教上の係より各教會競ふて病院を設立するに至る者の如し、既述の如く既に其設立の起源を異にすると共に、其病院の組織並に維持方法に於ても自から逕庭あり、病院の經營が我邦に於て一般に見るが如く、病院長の仕事に屬せずして、各病院にぞれ〳〵事務長（Superindendent）おる者あり、以て院内の事務を綜括す、而して治療の方より云へば、各科に專門家ありて之を擔當す、然るに内科部長（Attending Physician）若くは外科部長（Attending Surgeon）たるべきものは、俸給を受くるもの甚だ少おく、加之病院と斯の如き關係を得ることが既になかおか容易の事にあらず、然らば如何にして彼等は收入を得るかといふに、各病院には私費患者の病室（Private Ward）の設備ありて、各部長は自已の患者を此病室に容れて自身に治療するの權能を有す、外科に於ては手術料を各部長の收入とするのみならず、内科に於ても毎日患者を見舞ふ爲め診察料（Medical attendance）として一定額を徵集し得らるゝものおり、而して院内の醫員並に看護婦は、治療上元より各部長の命令を奉じて其任務を執るものとす

米國に於ける病院の組織は斯の如く他と大に其制を異にす、果して何れか優れるか、之れ元より容易に斷定し難し、然れども慥かに此組織の時に勝れる事あり、看よ、我邦に於て病院長としての成功は、必ずしも醫術に於ける熟達の意にあらずして、むしろ部下の統御と他の操縱とに於て巧慧おるを得たる者に似たり、之れ院長が一方醫術に於て長たるのみならず、兼事務長たるの關係を存ぜざる可からざるの所以に非ずや、凡て人は萬能に非ず、醫家たるの本分よりいへば、主眼は巧に病を治療するに在りて、事務的才能の如きは蓋し其第二に位すべきものおり

▲病院助手は如何にして任用さるゝか　上述の如く、コロンビヤ醫科大學に於ては、直接附屬の病院おく、而して卒業後は志望の病院に入りて實地を研究すると、敢て我邦に於ると異ならず、然るに各病院には競爭試驗（Competitive examination）おるものあり、一定の人員は該試驗の成績によりて任用せられ、其期限は二ケ年おりとす、而して一般の助手は、相當に設備されたる自習室を與へられ、且つ一定の食事を給せらるる外は、俸給の如きものおく、唯だ Resident Surgeon 或は Residet physician（醫局長に相當す）に進みて、始めて玆に一定額の月給を支給さるゝもの也

▲「ジョンス、ホプキンス」醫科大學　「ジョンス、ホプキンス」醫科大學は千八百七十六年の創立にして、メリーランド州ボルチモアー市に在り、病院の開設を見るに至りしは實に千八百八十四年おり、當時同市の豪商ジョンス、ホプキンス氏單獨にして家に係累おく、其巨萬の資産を投じて、此大學の設立を見るに至れり、校名即ち之に因めるおり

ボルチモアー市は人口六十萬餘を有し、費府と北米首府華聖頓市との中間に在り、「ヂエスペック」灣に臨みて直接に歐洲との交通あり、然れども人目を惹くに獨立閣の鐘おく、又た四十八州の大統領が住居とする白宮（White house）おし、然るに歐洲より北米に渡る諸大家を始め、一般醫家がボルチモ

ーア市を訪ふ所以のものは何ぞや、即ち此「ジョンス、ホプキンス」大學及病院を訪はんが爲めのみ、果して然らば此大學並に病院の建築及び設備を見んが爲めか、否か然らず、其建築は「マウント、サイナ」病院（紐育市に在り）に及はず、其設備の如き他に之れを凌駕するもの敢て寡からしとせず、然らば其引力は何ぞや、蓋し人あり、生ける人あり

千八百八十四年、ウ井リアム、エセナ、ウエルシュ氏病理學教授として招聘され、次で當時北米全州に於ける各科の篤學者として其撰に學けられしものは、內科にてはウ井リアム、オスラー、產婦人科にてはハーワード、エイチ、ケレー、外科にはウ井リアム、エス、ホールステットの諸氏ありとす

北米に於て醫育の模範學校たるものは、實に此「ジョンス、ホプキンス」醫科大學にして、例之醫科大學に入學するものは必ず「カーレッヂ」(College)（我邦の高等學校の如きものか）の教育を卒へたるものにして、B、A、若しくはB、S、の稱號（degree）を有するものに限るといふ、實に入學資格の條件として此制を設けしは「ジョンス、ホプキンス」醫科大學を以て嚆矢となす、而して今日は此例に倣ふもの既に七、八の多きに至れり

此大學の學制は、英派と獨派とを折衷し各其の長所を採りて編成したるものゝ如し、我邦に於ても亦た大に學ぶべき點ありと信す、今左に其一班を述べむ

修業年限は四ヶ年にして、基礎醫學は初の二ヶ年に之を卒へ、次の二ヶ年にて臨牀醫學を教授すると敢て我邦と異あらず、而して彼我の教授上並に修學上大なる相違の點として見るべきは、要するに語學に基因するものにして能く讀書すると之れあり、隻言半句をも洩さゝるべく努むる筆記修學とは、大に其趣きを異にするものあり、例之解剖學の如きも、專ら實物に就て或は標本によりて之に教示し、講義としては唯だ主要なる點を擧げて相互の關係を明かにし、所謂觀察力と鑑識力とを養ふに勗めしむ、而して就中獨特の講義をなす教授は、其緊切なる部分を印刷に附して、之を學生に配布するとを見たり

細菌學並に衛生學は、孰れも基礎醫學として二學年に於て之を教授し、三學年に於ては特に臨床的研究室（所謂（Clinical Laboratory）の設けあること、處方學の一科を獨立して教授することゝは大に便利とする所あり、此臨床的研究室に於ては、學生各自に一定の席を與へ、診斷學上必要なる排泄物、分泌物、血液の檢査並に臨床上必要なる細菌學上の試驗法を、悉く習得せしむ、之れ先きに修習せし細菌學及び生理化學の應用を實習し、更に四學年に於て分配されたる患者の診斷に向て自から適用するの準備たるなり、處方學の如きは自に臨牀講義に於て、將た外來診察所に於て教示されるものなれども、內科の一助教授特に之を擔當して一般疾病の治療法をも具體的に親しく教授す

▲「ジョンス、ホプキンス」醫科大學の柱石　由來同大學が北米醫學界に於て、尊重せられ、自から勢望を有する所以のものは、既述の如くこれに其創立に際して柱礎となり且つ現る其四本柱たる四教授の功績に歸せざる可からず、

（未完）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

會告

○寄贈書籍

近世耳咽喉科學　岩田一氏

解剖術式手訣　鈴木文郎氏

○恩師小川勝陳先生遺簡

大絃は嘈々急雨の如く小絃は切々私語の如しとかや、恩師遺簡は私語あり私信あり私書あり、今之を公にするは恩師を懐想し恩師を敬慕するの微衷に外ならず、私語し給ふ所教訓あり諮問あり誨諭あり將た病況あり

恩師か在職や十有五年の久しきに及ひ醫局に出入せし者前後幾十其交迭の頻繁なる科として他に比すへきものあらざるなり、而して余の一度賀を其膝下に奉するや年に跨る七蓋し先輩岡田剛吉氏に次て其最長きもの〻一なるべし、其間恩師かものせられたる信書は塵けて數ふべからざるものあるべしと雖日夕薫陶に浴するの傍ら其余に賜はりたるものは皆悉く之を保存するの榮を得たるは最幸とする所なり、今や恩師か遺簡として之を拜し恩師か遺墨として之を閲す、温容慈言眞に恩師に見ゆるの思あり

余か藏する處の信書は前後四十七通に及ひ内醫局宛のもの五通にして他に繪ハカキ二葉名刺に認められしもの三あり、最初信は去三十八年四月仙臺方面へ出張の途次下野喜連川より發し給へる浦生君平碑の繪ハカキにして最終信は昨年六月廿二日病床仰臥の間より鉛筆にて認められ特に賜はりたる名刺也、就中信書四十七通の内其二十二通は一昨四十年八、九月の間に成りたるものにして最其多くを占む蓋し其候や恩師痔瘻の爲め引籠靜養せられ日に宮田教授の診療にいそしみ給ひたるときにして留守を預れる我等の努めて恩師か旨に副ひ且つは其無爲を慰し奉らんか爲に事毎に之を報し師亦欣んで之に應酬せられたるなり、昨秋たま〳〵御隱居樣奥樣と共に宣はく「昨年痔にて引籠中は日々八田サンへ手紙を書く〳〵」と云つてはアナ々より手紙の參りますのを待つ樣にして喜んで返事を認めて居りました、殊に療治の都合で休まねばならぬときは仰向きにて長い手紙を書いて居りまして時として體に障りはせずやと竊に案した事もありました云云」と以て恩師か厚情の一端を想ふへし、而して今我れ此間の消息を前きにし之に施すに附註を以てし次て其他に及ほさんと欲するもの又他意あるにあらさるなり

思ふに人の天眞を知らんと欲せは其書信に若くものなかるべし書信や折に觸れ時に應じ思の儘を一氣に書き染むるものなれば不知不識其眞情を吐露し不豫意の裡本來の面目を發揮し人をして熟讀玩味益其心胸を偲ばしむるものあり、殊更恩師か父の如く母の如き愛情を寧めて筆執り給へる消息に至ては他に求めて多く之を得さるべく、其懇情の紙上に溢れ其慈心の墨痕に現はるゝは宛として親しく恩師に見ゆ面のあたり其清談玉露に浴するの感ありと謂ふへきなり

さるにても恩師世に即き給ふや哀惋の情測るべからす痛惜の念抑ゆへからす仰て天に哭すれば天涯藐々として尋ぬへくもあらす伏して地に默すれ

は地角愍々として求むへくもあらす、往て返り給はさる恩師か後を追ひ去て來り給はさる恩師か靈を偲ひしこと嗚呼夫れ幾許ぞや、日は馳せ月は盡くれとも愁益盡き難く年改まるも愁愈新にして徒らにおのか孤影に對して泪の滂沱たるを覺えず知らざるなり、語に云く「樹靜ふらんと欲すれは風止まず子養はんと欲すれば親待たず徑て返らさるものは年ふり徑て追ふべからさるものは親ふり」と、然り我等また叫はんと欲す「樹靜ふらんと欲すれは風止まず弟事へんと欲すれは師待たず徑て返らさるものは年なり徑て追ふべからさるものは師ふり」と、而も余や事に羈れ物に接する毎に未た曾て恩師を懷ひ恩師を憶はさるはなきなり、憂苦あれは之を語り歡樂あれは之を報し疑惑あれは之を尋ね質義あれば之を正し默念瞑想只管恩師を想ひ思ふを以て窺におのか念とせり、げに恩師の英靈や邇きにあり之を遠きに求むへからさるなり、至誠を致して之を招來し至情を尽くして之を憶ふ恩師か端嚴たる溫容は冥漠の間に格り藹々たる其慈音は歷々として夢現の裡に我等を導き給ふ、我等は恩師照鑑の下に在り我等は恩師善導の下に在り、恩師や且に餘光を以て我等を照らし夕に餘力を以て我等を護り給ふなり、宜なり聲なきに聽き形なきに視奉らんとはさはれ年は時と共に馳せ意は歲と共に去るとは云へ恩師か厚情は銘心忘るへからず鏤骨謝せさるへからさるなり、我か百年の命を棄つるも恩師か一日の恩には報ゐさるべからず、唯聖は益聖にして愚は益愚なる、下愚余の如き其性移るへからず其身朽して雕るべからず惴々爲として徒らに其餘喘を保ち僅々として空しく槽櫪の間に斃死す、悉つる處此に在り嗚呼我か愧つる處眞に此に在り

十月八日夜　　門生　八田智証謹識

一　（八月廿八日）

前略、一昨日は月曜にもあり是非出勤致度存居候處何分家族のこらず服藥致居候處に小生も脚氣症やゝ增多し殊ニ痔疾愈々困難を極メ如何にも車行に堪ゐかね候まゝ欠勤致候次第に御座候

本日ハ自分受診かたゝ登院致度存居候處いつもの痔疾とは相違致候樣子故昨夜岡本京太郎氏ニ一診を乞ひ候處既に「アプセス」になり居り候樣子故本日宮田部長に一診を乞ヒ摸樣により手術相受け度と存候勿論入院必要ニ可有之と存候へ共何分前述の次第故自宅にて療養致す心得に御座候從て當分來客謝絶致候まゝ萬一病人側にて拙宅に病狀キゝに參り候樣のもノ有之候節ハ右アラカシメ御含置被下度看護婦にも御通し置被下度候

○別紙宮田部長に御屆被下度萬一本日出勤セラレサル場合ハ小使して自宅に御屆け被下候樣御命し可被下候

○宮田部長診察手術等ニ必要なる物品ハ中村ニ持參爲致候樣是亦御命じ可被下候

○學校休暇中故病院側には別段屆差出さず候へども先つ少くとも爾後一週日は家居致す事と存候左樣御承知被下度候

（追記）○前週までは可成耐忍して出勤致候も前述の次第故一週乃至十日間は欠勤可致候内外共可然御願申候

○（中略）

○八田氏其後消息如何（輪島よりのはがきアリキ）両君共アラシニハ遇ハサリシヤ懸念ニ候（后略）

○可成米田辨ゴ士方に電話御かけなさらぬ樣願度候

（註）此一通は婦人科醫局宛の封書にして痔疾の爲に初めて引籠靜養し給ふに當り使して送られたるものなり、想起すれば月の十九日余や田中一次郎、細川友次郎両氏と能登落と出掛け笠系楯に身を裹つし草鞋、脚袢に足を堅めて半島一周を試み二十六日夕歸澤、翌朝より登院執務せし事あり、登院第一二書を裁して昨夕無事歸澤し朝來登院執務せる旨を申上げんと思ひつゝ公私用務多繁の爲め空しく一日を過ごせしに、計らずも恩師より此書を寄せらるゝあらんとは、すなはち愚書捧呈無事歸院を報しまつりしに更に判紙一葉に認められし左の一書を賜はれり

二

（八月廿八日）

貴下ハ尙雲水の裏ニ在りて或ハ昨今の風雨ニ遇遭せられさるや抔案居候次第早や既ニ歸院されたるは意外にて殊ニ健康舊ニ復し元氣旺盛の樣紙外ニ溢レ候ハ大慶不過之候實ハ貴下歸院迄ハ必らす月水金ニハ出勤するつもりにて我慢致居候へ共昨週金曜日以來働作殊ニ不便を感しいつものなやみとはかわり候故愈々外科先生の御厄介相かけ候事と相成候病院及衛生會の義萬事よろしく願候

○（后畧）　八月廿八日　小川拜

他諸君にもよろしく願候

（註）參考にまで當時余か婦人科宿直日誌にものせし一節を掲げんに

「　八月廿九日（木曜）

健康快復程度試驗も意外に其目的を達し、歩力全行者以上に健ふりしは、不勘我をして思索する處あらしめたり

廿六日歸澤、直に院に立寄りて寓に着く、翌朝登院、部長先生の玉章に云く（余は廿八日婦人科醫局宛の手紙を廿七日附と思ひ誤りかくは書せしと見ゆ）

脚氣に加ふるに痔疾膿瘍をつくり、少もおくと一週間は欠勤すべし云云、乃ち廿日迄休暇すべき我れ、昨日より正式に出勤執務の人たるべく決し、不取敢休暇訂正屆を提出するに至れり

宮田部長昨午後往診せられ、今午後復赴かる、語に隨ひ我亦御伴を爲し、親しく先生に接す、昨日切開經過頗る佳良、少しく歩行し得と、思ふに外案早く全癒の愛を見るに至るべきや必せりと申上げん哉　」

とあり、即ち廿八日午後病院よりの歸途宮田先生往診せられ初めて膿瘍を切開せられたるものなり

三　（八月卅一日）

先日は早速御尋被下恐縮に不堪候貴下の健康を損セサル限リ小生欠勤中ハ萬事よろしく願候（中畧）

婦人科的治療ニ用ユル乾燥器及ヒ電音計（往診用ニモ輕便ノモノアリト覺ユ）小生購入致度乍御手數御取調ベノ上

「金澤病院内小川」トノ御注文被下度もし前金を要し候ハヽ御知らせ被下度候其外餘リ多額ヲ要セサル便利ノ器械等アラバ序ニ御注文（小生名前にて）被下候てもよろしく候

四　（九月二日）

拜啓過日ハ態々御尋被下尚昨日ハ布目翁ゟも御傳言慥に承り候日々局部よろしとの事にて爾後アウスクラッェンを不必要ならんと被申候患者となりては醫の命コレ從フ外無之 absolute Ruhe を毎日の行と致居候隨分却て頭痛を催し候

過日御賴申候醫療器械の外鬱血療法的の婦人科ニ用ユルモノ丈け至急トリヨセ度コレモ乍序御面倒願候(后畧)

拙宅ニ産褥一具入用ナレモ商店ノハ信用シ難キモノアリ看護婦ニ手スキアラバコシラエサセテモラヒタシ勿論材料等費用等差出スベシ御願申候

(註)産褥布は十一月三日御次男勝尤樣の用に供へられしものあり

五 (九月二日)

拜啓

昨夕別紙申來候事情同情を表すへき處もあれ共同人從來の素行上如何なりしや咎ムヘキフナシトスルモ現職の然ルヘキ後任ナキ以上ハ辭職せしむる事能はさるは勿論なり當科も欠員の儘に永くオクワケニモ參ルマジ可成ヨキ者ヲ選擇せんと思へども目下殆どなきを奈何せん萬一あるも餘り高給ヲ出シ難シ(來四月ゟハ一般增加の計畫アル由)其邊配慮して可成早く補欠致度と思ふ御考置き被下度候

前日の丶丶丶と同樣御考可被下候

六 (九月二日) (第二)

復啓別紙今朝認メ置候無用の處も出來候樣ナレモ其儘差出申候唯今繃帶交換後氣輕と相成候まゝ寢台の上ニ仰臥して認メ申候

○婦人科カンソ—器高山氏改良ノモノハ別冊小生に贈ラレタル論文差上候間コレニテ御覽被下度候」膣式ノモノ論文成蹟等詳知不致候へ共多少ナリトモ有効ナラバコレモ購求致し置度ツマリ病院ガノ「アテガヒ」をまち居る事出來サレハ甚しき高價ナラサル限リ先ツ小生ノモノトメ求メ置クつもり也

○電音計ハ小生瀨尾氏ノモノ實見したり評判程にもナカランガ少クモ内臟境界ヲ定ムルニハ打觸ニマサル萬々ナリ」往診用(小)ト診察用(大)トアルヤニ思ふ共ニ十幾圓位ト思ハル先ツ往診用ヲトリヨセント思フ（發見兼製造者自ラ撿セサル内ハ發賣セズトカ聞ク）

○鬱血療法婦人科的ノモノトハ圖ノ示ス處ニヨレハ膣部抔ニカケルモノ、樣ノ如シ（一具一切にて賣店ニヨリ十一圓乃至十七圓位ト思フ此内にて婦人科用ノモノノミ選ビ度考ナリ一品壹圓内外位ト價付ケ有之候雜誌廣告ニテ見たり」

○ゴムノ良否如何ハ尤も關係アルヿナランガ和製ノモノモアル樣子ナリ尙宮田先生に御問合可被下候

○、、の義此度の運ビハ餘リ迅雷的にて驚入候(中畧)推スルニソレ等ノ關係アル故當科にては既に承知と思ヒテカク取リ斗ラヒタルモノナラン」兎に角一應中止シタルモノ故任命前一寸斗リ内通アルヲ至當トスルハ勿論ナリ（后略）

○小生元來世ニ「不得要領」ノ人アルヲ信セス唯其人「不得要領」ノ事分量的多キモノナラント思フ（是亦不得要領ノ文!?）千言萬行悉皆不得要領トノミ限ラサルヘシ一點にても有益ト信スレハ先ツ言フハ可ナルヘシ（言フヿ必スシ

モ行ハルヽモノニアラサルハ勿論ナリ）其言直ニ聽カレサルモ其人ニ其言を注入シオクハ他日ノ用ヲナスニ幾分ノ「エチルギー」トナルヤ必セリト小生ハ信スルナリ（中略）

○、、子ノ義驚入候先般の事もあり十分御注意被下度小生の代理として首席醫員トメ將タ仁者タル醫人として!!!至囑々々

○越野君の言タシカニ一面の眞理アラン（蓋シ實撿的!?）シカシ事ニ大小アリ道ニ正權アリ選擇ヲアヤマラサランヲ要ス要スルニ、、子の如きはもとより傳令使ノミ簿書中の人ノミ規則ラチ内ノ人ナルノミ

○村上翁胃癌とは始て耳にしたり誠に痛哭の至りに不堪

○醫員副手センバツに付云云誠に同感ニ不堪毎年此點ニハ不少注意ヲ拂ヒ公私ニモ隱顯にもセンサクハ遂グルナリ乍去むつかしきは人物なり敢て容貌ヲ以テトルニモアラス成蹟を以テトルニモアラサレト種々センサクノ結果多クハ其尺度を定ムルニ苦ムニ終ルヲ常トス近來の如く餘リ多數にてはシバ〳〵接する二三子の外ハ名も覺にさる位これのみは實ニタンソクスル處なり尤も人選ノ決定ハ他科ゟイツモ最後ニスルヲ常トスルナリ

○產褥フトンハ面倒ナカラ三枚願ヒマス

○（中略）

○旅行後ハ減量ハ萬人皆然り以後十日目毎にハカラレヨ必ス增多スルナラン」御健康ノユルス限度ニ於テハタラケラレヨ決して無理ハシ玉フナ殊ニ時々精神を靜平ナラシメヨ桐山ヲマタセテ蓐上ニ仰書する事しかりワレナカラヨメヌ處モアリ推讀ヲ乞フ

電燈下認　臥牛生

（註）此日は二通の封書を全時に賜はり一は看護婦志願者某と補欠に就て述へられたるもの、他は「フート」に第二と記るされ長文のものにして茲に揚くるか如し、而して文中「不得要領云云」に就ては多少憚る處あるを以て敢て附註せざるべく、其「村上翁胃癌」とは第四高等學校漢文學教授村上珍休師の事にて木村博士銅像碑文を見て今は亡き全師を偲ふも亦人の心の誠なるべく、更に醫員副手撰拔に就ては如何に恩師の苦心考察せられしかは此文を見て察知すべきあり

七　（九月四日）

前略昨日高山氏論文を桐山ニ托するを忘レタリ

唯今菊地氏封書外はかき三通外ニ熊本々の雜誌慥に入手仕候ガーセ一函及ヒ昇汞水一瓶も同樣受取申候先日御賴致候產褥ト共ニ實費支拂致度御調へ置可被下候度々御手數恐縮ニ候へとも明日も看護婦の歸途カ若クハ中村ニアルコール一瓶硼酸水一瓶御持タセ可被下候先ハ願用迄如此に御座候

八　（九月五日）

前略昨日御贈被下候書狀之內菊地氏の封內には職員宛のものも有之かた〳〵其儘御目ニかけ候（中略）

○カンソー器ニ付て小生も深くは取調ベス候へとも先ツ腹部（外部）ヨリスルモノ通例ナルヘシ（ピンクスヲ使用して單ニ熱空氣ヲ子宮內ニ送入スルモ亦カンソーノ一法ナルベシ）

○膣式云云小生も某氏の膣內々冷却スルモノヲ思浮ベタルナリ功能書程ニハナクモ高價ノモノニモアラサルベケレバ試ムルモ可ナラン「小生も往年急性浸出パラメトリチス抔ニ腹部ヨリ冷却スルヨリ直接ニ冷却スルノ利アルヘキヲ信シ管狀子宮鏡ヲ送入シテ氷囊（若クハコンドームヲ利用ス）ヲ膣內ニ入レテ見タルコアリキ有効トハ信シタル

モ一寸煩ハシキ爲メ其後全ク用キザリキ」

○中略

○アトヨリ入ルものゝ却て割よきはいつとも同し秋の夕くれといひたき位ナリ此際ケイヒにヨユーアラバ在來者ノ勤勉ノモノニ相當增給ハ當然ナリかゝる事ハ考一考スル迄もナキコナリ一日も早キガ可然ナランカ

„Bald geben, doppelt geben!"
アスノ　百ヨリ　クラウノ　五十

サテ〳〵御役所ハ中々手續の面倒ナルモノナリ（タトヘ個人トノ敏活ニ行動シテモ!!!）

○又しても逃亡沙汰苦々敷次第に御座候「歷史ハ同じ事ヲクリカヘス」とはいへ餘り感心セズ」小生ノ毎々々々々々（度數ヲ忘ル）言フ如く管理上にも風紀上にも普通患者ノ感情上にもタトヘ別室ナルモ院內ニテハ不可ナリ須ク娼妓病院ニ收容スヘキモノナリ二三子ノ言ニ曰ク彼レ等ハ○○ニアラス故ニ收容スル能ハズト然リ公娼ニアラス私娼ナルノミ其娼タルヤ一ナリ往年佐々木幹事（現ケイシ）小生ノ言ヲ容レ來年度ヨリカクスベシト言ヒタレ𪜈言ヘリシ人ハ既ニ行フノ人ニアラズ爾來幾度カ言ヒタレ𪜈事誠ニ希有ニ屬スルヲ以テ徒ラニ空論ヲ吐ク如キ嫌ヒアリテ今ニ及べり如此事頻に續發當局者其煩に堪ヘズメ始ラ目覺ムルヲマツヘキ歟嗚呼事究セサレハ遂ニ通セサルカトハヒトリ此一些事ノミニトヽマラサルナリ

○中略

九月五日午前認

（註）從來市內に於て賣春婦の檢擧せらるゝや警察にて之を檢梅し有毒かれば拘留處分後護送し來り其治療と保管を病院に托し去るを慣習とせり、（警察

の都合上或は拘留處分後直に護送し來り初めて撿梓を乞ひ有毒なれば其儘之を托し去りし事あり)、婦人科部や常に此厄介物を背負込まるゝも學用的施療患者とも致し難く餘儀ふくも三等入院患者とし墮取扱へり、而も彼等の仕墮落にして羞耻心ふき筈に普通患婦の感情を害し院の風紀と名聲を損ふの外絶にず人目を忍んで逃亡を企て箸にも棒にもかゝらぬ白レ者、此百害ありて一利ふき所謂行政執行婦入院に就ては恩師始め全僚先任醫員屢爲に言を立て說を爲し我れ亦其非を鳴らし或別途の方法の下に彼等の墮落を救濟すると共に之か治療を施すの擧に出てんことを切言せし事一再に止らず、余や當時宿直日誌(九月朔日)に其所感を述へて曰く

「珍らしき新患二名あり、新町分署より來る、所謂査公附添の淫賣的拘留處分濟の者なり、稱して行政執行健康診斷と云ふもの是れ、共に尿道淋疾にて直に入院、いかゝはしき者あるに依り全く他患者と隔離す

全体行政執行患者入院治療に就ては夙に異議あり、先任全僚諸氏は素より部長先生亦茲に鑑み給ふ事深し、而も馬耳東風、言を有邪無邪之裡に葬るに巧ふる縣衛生課當事者の全く反省改善する處なき、空しく貴重ふる時間と金錢とを狼費せしめ彼等賣春婦をして歩一歩益墮落の淵に陷らしめ些の實効なき方法を徒らに繼續循環せしむるか如くなるは單に治療の任に當る我等と雖慨かさらんと欲するも得さる所ふり、殊に一汎普通入院患者をして痛く之を嫌忌し不快の感を起さしめ、科内はもとより延て院全般の信用にも影響を及ぼさんとするの憂あるは眞に悲しき事の極ならすせんや、特更本日入院の橋本某の如き前科三犯今尙監視附の者ふるに至ては余は大に院當局者各位のこゝに意を致すに吝ふらさると共に警醒一番、縣當局者をして反省顧慮、偏に適當の方法に就かしむるの擧に出てられん事を切望せさるを得さるふり、如何に有毒ふりとは云へ病院は監獄にあらず監視所にあらず、醫員、看護婦亦司獄官にあらず警官にあらず、若し彼等賣春婦を撿擧するふければ則ち止む、苟も既に下等巢窟に向つて時々之を斷する以上は、更に此等に對して可及的諸般の改善方法を講するに力むると全時に其有毒者に對しては全く別途の治療方法に出てられん事を、大聲疾呼こゝに繰返すものふり

○夜新町分署よりさきの入院淫賣婦殊に注意人物なるにより何分共宜しくと電話し來れる由傳ふ、體罰に加ふるに幾多の訓誨諭辭を以て司獄官、警官すら尙手甲ずるアバズレを、我等醫員、看護婦いかんぞ適當に取締るを得べき、終日終夜所謂彼の角袖的行動を取る能はざるは勿論、又之を一室に監禁するも得さる所ふり、若し不幸にして後日臍を嚙むか如き事起るとも(彼れ、某は掏摸的万引に長すとは警官之言ふり)我等全然其責の万分一にも應する能はさるをこゝに言明しおかんと欲す」

而して彼等の中一名は遂に逃亡せり、恩師か痛切ふる書中の語は親しく其の衝に在りし者の均しく感慨措かざる處ふりき、爾來幾年々此歎を再ひせさる夫れいづれの時ぞ

○小生義去水曜日受術後本日にて九日目に候へとも（昨日宮田先生の話に周圍ノ炎症ハ余程よろしくなりたれとも深サハ餘りかわらず餘り面倒ナラバ切開シテアウスクラッェンせん云云）此分にては十一日ノ始業前にはとても登院思束なくと存候オマケニ一昨と昨ハ兩日三回宛の下痢アリ（麥ガユト牛乳ノ爲ナラン）タレハ昨夜ゟ硝蒼劑ヲ用ヰタリ今朝ハ一回アリタレ𪜈爾後如何にや脚氣の方は口邊ト手指ノシビレ少ク輕クナリタル樣ナレ𪜈下脚ノ方ハ少しもかわらす要するに一日も早く出掛ケタケレト萬事宮田先生ノ手裏ニユダヲタレバ唯命コレ從フノミ

○約束のバン來ラス空腹ニタエズ仰臥して認ム

午后一時　　臥牛

二

褥布三枚慥ニ入手御手數恐謝ニ不堪候」酒精、硼酸も同樣今後もいろ〳〵拂下御依賴致候まゝ登院の上悉皆可致候

○電音計注文小生の名にてよろし實ハ數ヶ月前在京の友人ニ二點賴ミ候へとも捗々敷運バス候まゝ改メテ今般御依賴申候次第ニ御座候廣告中いろ〳〵アレ𪜈各種ヲ比較シテ實見セサレハイツレヲよしと定メ難ケレ𪜈先ツ輕便ナル往診用可然と思フ（小生ノ見タルハコレナリキ）

一、新製調節裝置付無線電音計象牙聽診器付　一九、〇〇若クハ　一、感傳電氣付電音計象牙聽診器付　一八、五〇

右兩者ノ内可ナリト思ヘ𪜈兩者實檢者ノ批評如何（瀨尾氏ハ坂本氏ニ就キ十數日學習シタル趣貴下御手數ナカラ右兩者ニツキ同氏ノ意見手紙ニテ御聞取被下間敷や若し坂本氏最近ニ來ルナレハ其時にしてもよろしけれ共一具丈けハ可成早く手ニ入レ度思フナリ

結局輕便ナル往診ニモ携帶ニ便ナルモノヲ望ム

貴下感冒の由折角御用心可被成候」院内よりの「チフス」「セキリ」も寒心ニ不堪

丶丶出頭之趣承り貴下の意氣込左もアルヘキ事と存候丶丶モ我科ナレバコソ參リ候次第に候乍去昨日貴下の書中にも見ゆる如く外科看護婦の辭職一時ニ三名?トアリテハ該科の不都合察スルニ餘リアリ勢サシ當リ他科ゟ一時融通ノ道ヲ講セムトスルハ該科トメハ勿論院長としても可然事なり然し昨今?各科トモ欠員ノ由唯其欠員ノ度合如何虚平ニ之ヲ視レバ先ツ欠員ナキ科ヨリ(若クハ欠員最モ少キ科ヨリ)最モ欠員多キ科ニ融通スルハ至當ナルヘシ昨今迄ハ我科ヲ以テ欠員最モ多キ科ト信シタルニ丶丶入リタルヲ以テ(丶丶ハ員ニソナハルノミ欠員モ同樣ナリ)ハヤ欠員最モ少キ科トナリタルニヤ果メ然ラハ不得止トいふの外なし此處如何

○第二　他科ニ融通スルニ就テハ德義上被融通科ハ融通科ゟ人ヲ選擇スルヲ得ジ(話シ合ハ別論ナリ)却テ融通科ヨソ其科中ゟ人ヲ指示シ得ベシ然シ在來ノ舊キモノヨリ新キモノヲ他科ニカスヲ便宜トスルヲ通常トスベシ

玆迄書きし時深美君宮田部長の代りとして參られ手術相受候」其後同君ニ外科ノ欠員ヲキクニ欠員四人ナリトノ「一二部十六人ニテ四人ナラバ一科八人ノ處二人欠員アルニ同シ即チ萬一丶丶ニメ外科ニユケバ婦科ハ二人ノ欠員ニメ外科ノ現況ト同シク外科ハ十六人ノ處十三人トナルワケナレハ十六分ノ一丈け婦人科ヨリ多キ數理ナリ況ンヤ實際上八人ノ六人トナルハ十六人ノ十二人(割合ハ同しけれとも)トナルヨリ苦痛多キモノナリ況ンヤ丶丶ハ中立ノモノニアラズメ婦科ノモノタルベキ自他ノ豫約アルモノナルニ於テオヤ

然シコレハ四角四面ノ議論ナリ單ニ科ト云ヒ部ト云フヨリ實際ハ入院患者ノ數、量(手術等)及ヒ該當看ゴ婦ノ新。舊。ナレ。不ナレ。敏。鈍等モ大ニ參酌セサル可ラス」推スルニ婦科ハ昨今迄實際三名ノ欠員(丶丶欠勤ノ時ハ丁度半數)ナリシナレ𪜈昨一名來リ今亦一名來リ一名ハ欠員同樣ナレ𪜈名目アレバ先ツ定員通リなり飜テ外科ヲ見レバ一名不足ノ處昨今急ニ三人去リタル故四名ノ欠員トナレリ他科ニモ皆若干ノ欠員アリ婦科ノミ滿員ナリコレ以テ直ニカリテ補欠スベキナリトノ胸算トナレリシナラン」

よく以上ノ事情ヲ委クシテ婦科ニハドーカ間ニ合ヒ外科にも非常ニコマルナラバ(此邊程度六ツカシケレド)兩科にて談合ノ上、丶丶でも手スキノ時暫らくカスモ亦仁俠ナルベシ既ニ產婆免狀ヲ所有スレ𪜈、丶ハ講義等傍聽抔ニ必要ノ時間ヲ與ヘタケレバナリ」

兎に角、丶ハ先ツ婦人科詰タルベシ然ル後他科ト交涉スヘキヿト思フ

先ツ事實ヲ述ベ理由ヲ悉クスベシ(先方ノ理屈も十分聽取シタル上)然ル後論議サルヘシ始メヨリ(あらざるへけれども)「アナタハ馬鹿ダ」といへる如き論法ハ少しく遠慮サルベシ一年でもとしとると少しく取越シ苦勞アリ所謂婆心ニスグレト駄筆如此御座候これ思の外の〇からこまの出る事あればなり英雄涙ナキニアラズ泣けばマサニ天下をクツカヘスベし君子亦怒ルヿナキニアラズ怒ラバマサニ人ヲ慴伏セシムヘシ猥リニゴーヲワカスハ予かトラサルトコロナリ　呵々

五日夕　臥牛

(註)恩師か看護婦採用、補充等に就ても尙微細ふる點に至るまで考覈せられたるは此文を見て其一端を察すべきかり、而して爰に揭くる各書中(中略)として省畧する處あるは概れ看護婦に關する事項を以て多しとす

「アナタハ馬鹿ダ」との語余はそゝろ當時を懷ふと共に恩師か今更ふらぬ厚き訓誡を銘謝せさるべからざるかり、金澤病院の猶中町にありける頃或丶丶が丶丶丶に關しかれての約に違ひ其責を免れ事を有邪無邪の裡に葬らんとせし不都合ありしを痛く論難し。年甲斐もなき丶丶とは思ひな

から餘りの腹立たしさに「アナタハ馬鹿ダ」と叱咤せし事あり、兼て恩師へは何事も包まず秘せず凡て其清聽を汚し參らす習とて歸來直に之を申上けたることあり恩師すなはち能く之を記憶し給へりと見に今此語を以て特に訓誨を垂れ給ふなり

九　（九月六日）

前畧今般病室内にタヽミしきつむるに付ては過般も一寸噂致候通り分娩室ノ如きは一小部分板ノまゝ可然殊ニ副室ノ如きは疊如何ハアルモ一二枚ニテ足ランカ此邊アラカシメ言ヒオカサレバ事ニ臨んて不都合と存候御注意可被下候（今般ハ特別ノ注意ナケレハ惣てタヽミをシクニナリオル筈なり

○（后畧）

（註）金澤病院には三十八年八月新築落成さゝもに小立野ふる高臺へ移轉し洋風に倣ひ凡て病室は椅子寢台板の間主義ありしも、患者の習慣便宜に準ひ四十年九月更に一二等室に疊を敷き鏡を懸け戸棚を備ふるなど一躍洋服下駄バキ主義に模樣換すること、なり多少裝飾を施せり、此一節の如きこゝに掲げざるもかなと思はさるにあらざるも病院設備改良上、後人の參考にもと思ひ斯くは掲くる所以なり

十　（九月七日後四時）

昨夕桐山參り候節貴下方の依頼品を忘レタリとて歸宅後態々使もて屆け呉レタリ早速面白く一覽シタリ本日宮田部長ニ相談致スベし却て都合ニよりては費用ハ小生負擔しても可なり少クモ別刷として甘部計り小生モラヒ置クベシ元來此種のもの小生閑アラバ自ラ渉獵致度と兼て思ヒ居リナカラ不果カノ一切經も餘り廣カンにて手ニ入レズ折々人ニキケルマヽ關係書類丈けでもアツメ置カント思ヒ居リ候（後日産婦科ニ關スルモノ丈けハモ少シ立チ入リテシラベ置キ度と存候）折柄ニカヽルモノヲ穫タルハ悔亦快トイハマクノミ

（註）「依頼品」とは本誌第四十八號に附錄として掲げたる「佛典中の醫術」の元稿なり、當時附言しおきたる如く佐藤慶英氏が特に贈られたるものを更に元稿用紙に淨寫し愚師の助力と雜誌部長宮田先生の好許により一篇として投載したるは皆人の知る處なり、愚師や内深く禪理を味ひ其奥義に達し且つ廣く和漢洋古今の典籍を渉獵し學識宏博勉めて倦み給はさりしことゝて斯るものは特殊の趣味を以て迎へられたり、而して愚師には其專門的婦人科に關する事項に就ては多くの感興を有し給ひ單に日本的にても良いから Das Weib に徴ひ廣く婦人に關する事項を蒐集し度しと屢申され仮令新聞雜誌の一節と雖苟くも之を等閑に附せず採るへきは之を取り其材料にあつる樣注意すべしと告げられぬ

○雜誌部云云ニ付ての直言タシカニ一面ノ眞理アルベシ取扱者ノ「ニ就テモ小生等直接之ヲ目睹シシモノハ現狀ノ改メサル可ラサルヲ每會議ニ公言シ居レリ」會長始メ皆然リト思ハサルニアラス!? 殊ニ會計部（十全會ノコト中々繁多ニシテ殆ント學校會計ノ半バニ居ル由）ヨリノ話モアリ早晩（小生ハ會長ニ對シテ專務若クハ兼務ニ會務ヲ司ラシムル樣申出テタリ）事實ニ現ハレント思フ

○多少ノ輕熱アルヤノ趣十分御用心可被成所謂惑物一源も一定ノ程度迄ハ眞理ト存候へは十分人事を盡クサルヘク懇請の至りに不堪候（中略）

○小生ノ疾御心にかけられ多謝々々

昨日宮田氏の話に一昨日ハ非常に淺くなれり云云今日の話に此分にては此まゝにてよろしき歟も知らず云云と老母を慰め吳レラレタリ」

兎に角小生ハ病人ナリ緩急只醫ノ欲スル所ニ從フ「患者ニハ依ラシムヘシ知ラシム可ラス」小生唯依ルノミ知ラント欲セサルナリ唯醫ヲ學ヒタルノ故ヲ以テ患者トナリテ其境遇ニ住シテ苦痛ヲ味フモ亦一藥タルヲ失ハサルナリ虎カ猫カ嗚呼ワレハ遂ニ臥牛タランノミ　呵々

（註）「患者ニハ依ラシムヘシ知ラシム可ラス」の語げに愚師か面目を發揮して餘さすと謂ふへし、愚師や夙に此見地に立ちて診察に從ひ治療を施し患者

をして安んして其治に浴し其苦の去るにつとめ給へり、恩師曰く「若し世に患者をして之に賴ること深くして之を信することの厚き敢て一語の問ふふく一句の尋ぬるふく唯々として甘んして醫命之れ從ひ生も願はす死も願みす一身を捧けて其欲する所に任し敢て悔ふきものあらしめは是れ眞の醫士也、醫にして此域に至らす未た以て其堂に達せさるものと云ふべく、古の所謂名醫と稱せられたるもゝ如き學に於て術に於て固より今日の精細明緻ふるに比すへくもあちすと雖其信用を受くるの厚きは今の大家先生の遠く及はさる所ふり」と、然り醫を信するの厚き牛溲馬勃は愚か鼻糞を丸とするも尙以て名藥たるを失はさるへし、かつて口達者なる醫局員あり診察に際し云はすもかふと思はるゝほと說明につとめ時として素人の解りかぬる茫然煙に卷かれしものあり、恩師之を戒むるに深く「患者ニハ依ラシムヘシ知ラシム可ラズ」の語を繰返し給ひ此弊を脫せんことを諭し給へることあり、思ふに實地醫家として臂頭第一豫後に就て聞かれ元因に就て質され治療の方法にまて立入つて試驗さるゝは殆んと每常遭遇する所ふるべし、余や屢此等の難詰に會ひ不快ふる彼等の試問に應する每に恩師か此語を懷ひ自ら省みて慙汗背に充つるもの夫れ幾許ふるを知らさるふり

○余の宮田先生に隨伴して恩師の疾を訪ひまつるや御隱居樣笑て勝利(當時四歲)がトーサンの療治を受けて痛さのあまり顏を顰めるを見て「トーサンの顏は猫顏だ」と云ひますと申されたることあり、虎カ猫カの猫とは蓋し之に因れるもの而も臥牛先生や遂に臥牛たるを免れ給はさりしふり

本日受取リタル貴書の返し

○津バタの事早速御承知被下安心致候十五日御歸鄕ナラバ其折時アラバ一診ヲ乞ハバ甚た好都合ナリ貴下其裕ヨアリヤ否ヤ」誠に可然よろしく願候

○、、の義所謂案するよりハ產むか易しといふべし然り先日ノ君カ筆イカニモ怒氣衝冠底ナリシ故聊か婆心を勞セシナリ　呵々

○內科ふ轉入ノ膀胱患者、福井の某を思ヒ出し候アノ片モ試ミンカト思ヒ遂ニ果タサヽリシカ非常ニ頻數にして疼痛烈敷ケレハ「ワザト膣瘻ヲ作リテ排尿セシメ同時ニ局部ヲ目睹シテハ如何コレニ付キ近頃、、雜誌(醫事新聞??)ニ札幌關塲不二彥氏ノ實檢アリ御一覽アリタシ」豫後ノアシキハ勿論ナランカ苦痛ノ輕減スルアラバ幸ナルベシ切

ニ試ミンコヲ望ム

○「屈折ベット」失望ナリ廿圓以上トアリテモ厘カノ差ナルベシセメテ都合シテ一箇にても造りて見たし（一等二等ノ二箇アラバ尚幸ナリ）製造者ニ試驗的ニ約束ノ代價ニテ作ランコヲ話シテ見タシ如何」

（註）病院室内設備改良の折婦人科の一等室を除き他の一二等寢台は悉く新調せられたり、恩師すなはち産科的應用の爲め特に命して屈折性のものを聞合はさしめ給へぬ、自ら考案を立て又寫眞おゞ取寄せて見給へるも惜哉經費に餘裕なきと請負者に誠意おかりし爲め豫約すら爲すを得さりしはいと〳〵おしき心知せり、京都醫專の秋元教授考案の屈折性産床ありと聞き今更おもひ嗚呼先生在まさばやと思はぬ隙おきゞ悲しきことの限おる

○唯今〝佛典中ノ醫事〟原稿宮田氏に渡したり氏も興味アリトテ快諾セリ小生ノ別冊二十部もはなし置けり」同時ニ松原氏飯森氏ノ通信も話シ置ケリ」聞ク加藤寛氏ノシベリヤ紀行アリトカ」

終リニ臨んて重ねて貴下の加餐一層ナランコヲ望ム

（本日小生ノキズニ Chlorzink ヌラレタリ凡ソ二三十分可ナリ痛カリキ其後ハ常ノ如シ○下痢も止ミタリ御安心可被下候　九月七日後四時

十一　（九月八日）

（津幡往診に就ての書狀全畧す）

十二　（九月九日朝）

前略昨日は態々御尋被下且能州の御土産御惠投銘謝の至りに不堪候

飯森松原兩氏の通信至極面白く一氣呵成的に床上に讀過致候御返璧申候

別紙屆書御差出可被下先つ今週丈けに致置候へ共何れ宮田氏に診斷書を乞ひ受くへく少クも來週は欠勤致す事と存候

（九月九日朝）

（註）余は從來本誌に登載せし諸氏の通信は必ず先つ恩師の一讀を願ひ然る後淸書するを常とせり、恩師や又非常ある愉快と興趣を以て之を迎へられつゝ誌上に投して衆と共に廣く其歡を俱にせん事を慫めらるゝこと切ふりき

十三

（九月十日）

（前略）右認メ居り候處へ貴下の使參り百倍昇汞二ビン外書類入手仕候いろ〳〵御配慮相懸け候段恐謝に不堪候君亦痔疾ありとは誠に相憐の情に不堪小生のは實は十數年來のもの今般のも始メハ例のト思ヒ油斷セリ人にはよくいふ言なれ共ナンデモ病ハ早々處置セサレハ飛んだ悔アリ（后略）

（註）余には十數年以來小なる痔瘤あり便秘の際少しく出血と痛みを帶ふることあきにあらす、學生時代講話會にて木村先生より「脫糞法」即ち先生か所謂「クソタレ法」を聽き毎朝上圖の結果今は殆んと其苦痛を覺えさるに至れり

十四

（九月十二日）

山田君令孃の事承候哀傷の至ニ不堪候

中村なかーせ一函慥ニ入手毎々御手數恐謝ニ不堪候

〻〻先生よりの話ハ推察の通なるへし生も〻氏ハ其長軀と六七年の在學ナリシヲ知ル餘リ感心不致」採用（？）ハ可成新進者ト同時即チ餘リ急キタクナシ

藤岡君未來もし御面會ニ候はゝ可然御致聲可被下候

菊地君芽出度限り也オキみやげにあらず持参みやげナルベシ

赤痢地派遣云云(勿論科トメ元來不賛成也)ハ吾科にては小生欠勤中ハ手不足ナルベシ」

貴下ヲ除キ他ノ三人中ニテ熱心ノ希望者アラハ諸君ノ御相談ニマカス」然シ可成ユカレヌ方可然と存候(實際手不足ナルベケレバ)

先ハ大略御返事如此ニ御座候

かつて上海友人より贈リ呉レ候管城侯爵フト見付申候まゝ壹本机右ニ呈し申候先生とは友人の惡戯人には見すへきものにはあらす君なれはこそ贈るになん

仰臥十日竹庵居士を偲ひけり

居士ハ故近藤醫學士、三年の著者

吾家のカンナテオナの音よりも

香林坊の太鼓かしまし

(註)上海に久しく開業せらるゝ篠崎(?)醫士より愚師へ贈られたる管城子特に小生へも其一を分たれぬ、軸には刻するに雙料淨純北狼毫 小川先生清玩 屯鎮胡開文製とあり、好乎の寄贈品今や却て遺品となり記念物となり愚師を偲ひまつるの思出深き料となりぬ

十五 (九月十四日)

昨日ハ宿直との事に付返事不差上打過候、、先生ゐの返答ハ

一新卒業生選抜迄ハ飛入ハ御免蒙り度（今迄も三名程申込アリツレ𪜈イツレモ斷リタリ

一丶丶氏目下丶丶病院ニ在職中ナラハ當丶丶採用シ得ル迄依然居ラセル都合にハ參らぬものにや兎に角丶科ヲサキニシ丶丶科（是非研究ノ志アラハ）ヲ後ニサレタシ

以上

○昨日の上海の狼毫兎角ニカワ乾キ毛首トレ易キ弊アリ宮川商店主人ニキ丶ツルニ唐筆ニハヨク此事アリいつにても直して上ゲルヘシ云云（此點ハ却テ日本人上手ナリトカ。毛ヲ選ブハサスカ本家ナリト云）

思ヒ出て候まゝ一寸申添候

○少クモ來週ハ出勤致兼候間よろしく」屆書ハ追て差出スヘシ

○山碕先生ニ御面會ノ節先日御見舞の御禮ヲ願候

十六　（九月十五日）

唯今貴書披見致候へ共明後朝御歸院の由に付此書ハ明日桐山に托し可申候（中略）

（此時越野君見に候）

○同君父君の病氣佐々木先生の診ニよれは癌にてなき由

（註）越野兄の父君肝臓膿瘍にて胃癌ならざるへしとの疑あり、入院研索數旬、而も疑の綱は切れて本年一月長へに歸らぬ數に入り給へけるこそ悲しけれ

○小原君母堂の患部(?)一部切除撿鏡しては如何

(註)小原芳雄兄母堂には東大婦人科にて癌?との診を受げぬとて來院せられたり、當時恩師か此語により一部切除親しく小原兄に鏡撿を乞ひ其癌ゐらさるを確め共に慶を仝ふせしことあり

因に小原兄には其後東大病理教室に在り孳々攻學怠りなく今夏山梨縣に赴き片山病原因調査に就て大に研究する處ゐり、芝區白金今里四十六番地に寓せらる、我等は其健康の長へに全からんことを祈るや切ゐるものあり

○二六ノ切抜寒心の至りニ不堪「小心ナラサル大膽」ハ實ニ危險此上なし何事にても然り殊ニ司命の職にあるもの最も然りト存候

(註)都下に某大醫あり、外來患者ゐる某愛兒の臍の出てたる(臍ヘルニヤ?)を診て「切レバ直ク癒ルトノ安受合」、刄頭一閃目毎切るは切つたものゝ、珠の如き幼兒はあはれ旭に芍ふ葉末の露はかゐく相果てたりとの驚くへき記事

○(中略)

別紙屆書乍御手數御願申候診斷書ハ宮田先生ゐ別に差出サルゝ都合に相成居候(凡ソ十日間ノ安靜ヲ要スルトノ文言ナルベシ)不取敢先つ一週間の屆ニ致し二十四日ノ祭日ヲ經テ廿五日ノ火曜ニ顏出しても出來レバシタイト思候(宮田氏のユルシ出レハ廿三日ノ月曜ニテモ出タシ)或ハ來週一バイノ欠勤ナルヤ知レズ今日の處未定に候(一兩日前ゐ余程都合よく成リタレ𪜈まだ膏藥にはならず

右あらかしめ貴下迄申出置候

九月十五日夕

十七　(九月十七日)

拜見。毎々御手數奉謝候

昨夜ハ安眠を妨くる程にも無之も少しいたきものと思候位に御座候小生ゟ却て老母の心配するには閉口致候事に御座候

○宮田先生の懇意により山崎先生の來診となりしは恐謝に不堪候宮先生初診の際既往證抔話ス内現在脚氣アリトノ話致候節念ノ爲メ内科ノ一診ヲ乞ハルベシト言ハレシカバ近頃岡本氏ニ受診ノ口噂シテ敢て内科先生ヲ煩ハスニモ及バスト辭シタルワケナリキ」岡本氏ニハコレ迄數回受診、昨夏能登ゟ歸リシキカ Herzton 少し unrein ト思ハル樣ノ言もありしゆゑ此度も其時ト比較的ノ診ヲ受ケシナリ今般ハ異常ヲ認ズト申サレキ　因ニ麻痺ハ昨今全クナシ

○山先生玄關拂とは恐縮ニ不堪ソノ時ハ恰も十二時前後にて先生も一寸門迄來ラレタル樣子ノアイサツ故强て止メサリシナリキ（勿論上カラルヽ樣申シタルナレモ）小生其時ハまた寢台上にて運動不自由にて聲ヲキヽシノミナリキ何レ面會ノ節御詫申スヘケレト折もあらば可然御願申度候

寢台ノ凹ハヌ樣ノシカケ至極よろしかるべく全体カラ言ヘバ寢心よかるべし」腦貧血等ノ塲合ハ逆にしてもヨカルベシ

蟄公論ありかたく早速コレヨリよミ始メ可申候」

○（中畧）

右ハ大畧御返事迄早々

○局部少シク鈍痛ある位にて他に毫も異狀なく候間乍寸事御放念可被下候

○諸君にもよろしく願候

即興

徒然に秋の風見る夕か那

（註）余か翌十七日宿直日記の一節に曰く「昨午後部長先生いよ〳〵創口開大搔抓を受けられたりと云ふ、御令息か所謂「トーチヤン」の猫顔果して臥牛然たりしや否や、先生曰く病人には須らく依らしむべきも知らしむべからすと、宮田先生また此主義より憂然として聲ある的執刀を斷行せられたるものにや、何は兎もあれ悠々御靜養あらん事を望む」

十八　（九月十九日）

今朝はかき着一夕封書着拜見致候、、、ハ夜半甚た御足勞なりき二時すぎ御戻りにてはさぞヒドカリシならん先方若クハ貴家ニ御とまりなされ候方ヨカリシナランニ健康にサハラザリシヤ如何々々」

スンダ跡ノ祭ハよくもありあしくもあり必竟戰ハズメ勝ハ戰ノ上乘ナルモノ也

（註）秋雨蕭々として冷氣身にせまる暗の夜を通うして往復八里の往診、電報に接したるも終列車既に發したるふさけふさ、初産と云ふに多少の餘裕あらんと思ひつゝ至れば則ち室内よりもるゝ呱々之聲、「畢竟戰ハスシテ勝ツハ戰ノ上乘ナルモノ也」とは蓋し此謂也

○（中畧）

、、の義何分よろしく願候」老女主人ハ中〳〵ワケワカレリ醫ノ言ハヨク守ルベシ本日午後ダレヤラ來リテ昨夜安産セリ安心セヨトノ口上アリキ小生再度ノ手術後故面會セズ」御出ノ節よろしく傳言アレ

○（中畧）

夜九時頃蚊帳の内にて仰臥して書す明朝小使立チヨラバ「ガーゼ」ノアキ鑵ト共ニ差上ゲン

十九日　　花園學人机右　　臥牛

（註）恩師には多く宛名に君又は殿と書するを常とし給へるも時として樣、兄又は學人など記るし給へり、花園とは生か生れたる田舍の村名なるも恩師の取つて以てかくは戯れ給ふなり、

十九　（九月廿一日）

口上

中村して屆け越されたる「ホーサン」昇汞なり。學燈等慥ニ入手致候」

○（中略）

○加藤君の手紙面白く讀了せり三度斗りハカキト手紙モラヒタリ（途中ト到着ト母君病氣ニ就テ）ノモノ着シタルトキハ同君安心ノ爲トテ即時ニはがき認メ差出シタリ月日忘ル」先方ニ屆キタルヤ否ヤ」御序もアラバよろしく願候」シベリヤ路ノ郵便はじめて見たり先月廿三日發にて本月十六日長崎着、十九日當地着にては廿七日カヽル故比較的遲ケレモ「アメリカ」路より少シ早シ」モ少シ早キトモアラン」敦賀なセバ尙早着ナルベキに」

同君封皮ニ „Via Sibirien" トアリ元來ラテン語故 „Via Siberia" ト書スベキ筈ナリ（Via America モ Amerika トカク人アリ、k ハ „ラテン" ニテハ他國語ナラデハ用ヰズ、獨乙本國ヨリクル書狀ニモ往々此アヤマリ見ユ。序ニアゲ足ヲトレバ加藤君ノ Frauen-Abtheilung ノ „h" ハトクノ昔ヨリカヽザルヲヨシトセリ）

同君ノ狀今急ニサガシ難シ。見當ラバ差出サン」

（註）加藤君とは寛君のことなり、而して敦賀郵便局が外國郵便物の取扱を開始したるは明治四十年七月なり

○（中略）

此度ハ余程なほり方早キ樣ナレモ尙五六日後ナラデハ膏藥にはなるまじトノ「」此分ニテハ來週ハ登院覺束ナシ、御苦勞ナカラよろしく願候、諸君にもよろしく願候

二十

（九月廿三日夕五時）

（前略）宿直共同室出來の由其後景況如何小生ハ元來共同には餘り贊成セサル方なれ共亦利なきにもあらさるへし唯一利を見さる內苦情の出てさるを希ふのみ

小生は一兩日前ゟ殊に快方にて只今宮田先生の話に明日ハ入浴（繃帶交換前ガーセヲイルヽノミ」ソレモ淺ケレハ便ノ時ニイツモトレ去ル位に御座候）豆大ノ痔瘤ノ方却テ痛ミヲ感シタリシカソレモ本日ハ痛ヲ覺エサルニ至レリ）してもよかるべしと申されたり其內膏藥となるべけれともワヅカになりて中々ひまとり校院とも申譯なけれ共數日を速クカ爲メニ十數日を損することあれば此處暫らく醫の命に從はん萬事よろしく御取斗置被下度候　早々

九月廿三日夕五時　　八田兄侍史　　小川生

二十一

（九月廿五日）

一、封書　一通　　一、はかき　二枚

一、器械　二函　　一、ガーセ　一函

右正ニ落手候也

外ニ金剛杖　一本

いろ〳〵御手數奉謝候

いつれ御返事可差上候へ共心急き候まゝ明日ニ可延候

右器械ニ對する費用御支拂被下候由不取敢金貳拾圓丈け差上置候

（註）右は名刺に鉛筆にて認められしものなり

二十二　（九月廿六日）

昨日早速御返事をと思ひたれ共餘リ小使をまたするも心なき業とまつ後にしたりいろ〳〵御手數ありしを心に謝し居り候

○、、にてのいろ〳〵老人の理先方の情茲にも家庭の寫眞あらはれたり予常に私かに所謂らく醫ハ實ニ眞俗二諦に通せさる可らずと

○（中略）

○、君の兩學科を擔當さるゝは初の内ハ殊にいそかしかるへし人なきにあらず○なきなるへし然し經濟的の中々ニ不經濟的のことゝなることあるものを!?

○器械ハ宮田先生ト共ニ早速開て見て電音計ハ試ミ申候」

鬱血器子宮用のものは「ポンプ」ナケレバ使用出來ズ外科ニアル由ナレバ必要ノ時ハ先ツカリルコト致スヘし

○、、君云云人各主義あり强ゆることは六ツかしけれ共必竟するに問へは答に献すれは酬ゆるは禮なり　keine

Antwort auch eine Antwort. といふ事もあれと答にすれはシカト其理由ナカル可ラズト生ハ信するなりサハレ理想ヲイツモ現實ニするは難きことあるは勿論なるへし

○、、君開業云云生ハ同君の最少シ辛捧して其形を遲ふするを是とするものなり一年を遲ふすれは二年の得あらん二年を遲ふすれは四年の得あらんと信するものなり」

同人未婚者20%と聞く生ハムシロ既婚者の多キニ驚ク誠ニ太平の餘慶(?弊?!?)なるか將タ父祖の餘澤なるか抑既ニ獨立ノ境域ニ達したる歟?

猪木君ハ其後一回はかきあり菊地君ハも同樣、かの茶器云云なりき

(註)今は伉儷を得て開業しつゝある吾友島誠郁君東上研學の徒然おさ、全級生結婚統計を試み我等未婚党の爲に万丈の怪焔を吐き來れることあり、餘りに面白きまゝ手紙の端に書き添にたるに恩師の特に意を留め給へしものなり

○宮先生云云云云中々ニ面白し余ハ痛ニ就て嘗て說けり此般ハ皮フノイタミ筋ノイタミ粘膜ノイタミ。健時ノイタミ、病的ノイタミ、マスイ劑後ノイタミ、藥液ノイタミ、器械的ノイタミ曰ク何曰何其 Qualität ト其 Quantität とを實檢したり他日尙此以外のイタミヲ實撿するの機を樂むものなり(マッにはあらず呵々)

(註)此一節はかれて本誌に恩師の動靜を報するに當り載出せしことあり、宮田先生か所謂「小川サンは痛たいのておくて痛がりてある」との語を傳へたるを面白しとて斯くは答へさせ給ふものなり、而して恩師には僅に一年を待たずして此以外のイタミなる死の實驗迄もおし給ふに至れり、語に云く「直木先つ伐られ甘非先つ竭く」と蓋し恩師の如き氣品自ら皎高雅にして性行自ら潔、一擧手一投足の微と雖も苟くもし給はす一言は一行と伴ひ一語は一動と合ひ人格の益崇高にして其德行の聖に到る天此人を此濁世におくに忍びさりしものか、さるにても生別遂に死別を兼ねし我等こそ往を稽ひ來を想ふて轉た感慨正に盡きさるものあるを奈何にせん、噫、

金剛枝昨夕ハ早速つきはじめ今朝迄ニ登りつめ候誠に一氣呵成的にてまた批評の資格ナキモ兩水の筆ハ腦裏今ナン

ノ印象ナキモ竹風子ノ元祿めきて殊に西鶴に私淑するにはあらずやト思はるゝ節はタシカニ看取シタリ金風の如きは仰の如く誠に讀了に堪ゑず然シコレ亦社會ノ一面蓋シ故意ニものしたるならんサルニテモかゝるものは一回にして可其二回三回ニノ四回に至るは餘リニ大人氣なしといふへきにて候

（註）「金剛杖」とは富士登山者に欠くべからざる金剛杖を其儘書名とふせしもの、登張竹風、江見水蔭、遲塚麗水、長井金風諸氏の合著にして登山記念の爲に四十年九月春陽堂より發行せしものなり、たまゝ〳〵恩師の徒然を慰し奉らんか爲に之を枕頭に捧けまつり何か所感をものし給はん事を冀ひしに、右の如き著者の單評と共に更に表紙の見返へしに左の如く書き記るさせ給ひぬ

なにかものせよとの言に近き憂もあらばこそ

金剛の杖をはかしてくれ竹の

世にも情の厚き人かな

いつにやありけむ

白砂の不二の高根はわかなくに

田子の浦曲に月を見るかな

書中の文を其儘

富士の山鞋よりも雲の湧く

不二山をまたにかけたるゝは

亭主をきつと尻にしくへし

疾のたこりたる秋の夕

臥牛

（註）最後の句あるは長井金風氏の夫人某なる者かつて富士登山せしに依れり

○(中略)加藤氏にの注意とは聊か御念の入リタルワケナリキ」氏の如きはムシロ素養ノアル方ナリ中には已レノ造リタルトいふ Docta—examen ノ Dissertation ノ自ラ讀めぬといふ Dr. med. も都にありとかや

實業的の機の音 (Geräusch) ○の逃ぐるといふなる三味の音 (Töne) サては師團にユカリある馬追ふ如き轡虫の聲 (Stimme) をば混然融化して天人合奏の音樂ともなし玉へかし機に應じて境を奪ふは達人ならすや「氣ノツク毎ニゾット」トハ誠に面白し氣ノツイタ後ニ氣ノツカヌ前ノ境遇ニナリ玉へ!!!

九月廿六日後三時　　花園亭主人に　　臥牛庵主人

(註)此一節眞に恩師か禪機の端的を見るへからすや、境に依て心を乱さす機に應して境を奪ふ箇中の消息我等の味ひ得て知る所にあらさるなり

思ふわれ病餘野田寺町の邊に在り、江山を友とし清風に嘯く、而も崖下電力應用の某機業場あり曉より宵に至り軋轢の音調響の聲耳を聾し頭を抉り時ありて殆んと坐に堪ゆべからさるものあり、「氣ノツク毎にゾット」は余か當時の實感を披瀝せしもの、而して恩師か胸中の釋然として機に對するの無礙なる超然境を奪ふて些の煩累なき正に塵中のものにあらず、這般の風懷恩師にして始めて之を云ひ得へく恩師にして始めてこゝに到るへし、鳴鳴一唱三嘆の音遠く絃外に傳ふ、われ諸君と與に心機を警發して這個道味を掬するに力めん哉

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

○偶感　　點玄道人

有山有水如無意　無月無雲却有情　秋老空山幽谷裏　陰蟲今夜向誰鳴

○獨坐

梵鐘聲遠夕陽微　落木風冷行客稀　胸裏此時無一物　刹那阿耨入禪機

○人の誠

（葬儀係金子博士より岡本京太郎氏宛手簡四十一年九月二十六日附）

（前略）扨葬儀の節妙愛寺にて參詣之婦人田邊しげ（八田生曰く田邊子は金澤地方裁判所檢事澤邊浩氏夫人の令姉也）ある人あり婦人席へ案内セシモ辭して只壹人隣席ニ着坐せり小生は是を注目シタルカ故ニ自ラ婦人席へ着カレンコトヲ勸誘セシモ衣服ノ禮裝ふらさるの故を以て尚固辭セラレ且告ケテ曰ハル、ニ自分ハ昨年十一月故人の手術ヲ受ケ御蔭を以て多年之宿痾も立トコロに癒へ御の覽通リ健体ニ復シタレハ今回其御禮トシテ故々出澤シタルカ斗ラサリキ其恩人ハ既ニ易簀セラレ今將目ノアタリ我悦を陳スル克ハス夢？現？海ニ殘念之事せめてもの事ニ御遺骸を送り度不取敢茲まて參詣シタル事ゐり身ハ旅のそらにて禮裝を欠ク何卒御宥恕アリタシトテ言葉もトギレ勝其殊勝ナル態度ニハ老生も不思貫泪ヲコボシタル次第ニ候仍而強而婦人席へ招シ右之趣高安夫人ニ紹介いたし置申候右田邊氏ハ越前三國トマテハ承リ候へ共番地等ハ聞洩ラシ申候御序の節御遺族の方へ右御咄し置被下度願上候老生も御母堂及夫人へ度々御目ニかゝり候へ共人も我も又々泪を新タニスルハ却故人の爲ナラスト心得ソザト一度も御挨拶ヲセサリシ故人の事ハ今更追フモ詮ナシ只遺孤ヲ思ヘハ泪自ラ禁セヌ是も老人の癖か尚此上可然御愛顧申上候亂筆御用捨被下度草々拜具

廿六日夜　　岡本大兄　　治老生

○恩師が日常往復し給へる手簡を所持せらるゝ方々は隨分多かるべく亦恩師に對する逸話、遺聞、感想等を有せらるゝ方々も隨分多かるべしと信す、思ふに恩師が兼ねて「人は平素に於ける一言一行皆是れ辞世に非ざるは莫し」と宣ひたる詞より拜察すれは凡てのもの一として恩師か辞世恩師か遺言ならざるはなきを覺ゆるなり、願くは恩師か先輩、全僚、知己、卒業生並に門生各位には假令斷簡零墨の末と雖恩師を偲ひ奉る料となるへきものは繁を厭はず勞を惜まず勉めて本雜誌部長教授松原三郎氏又は金澤市彦三八番丁金城療病院内小生宛にて御送附あらん事を切望す（尤も恩師の手紙の如きは淨寫の上直に御返戻仕るべく郵税の如き全部小生に於て之を負擔致すも差支無之候）

八田智証謹白